

茨木市次世代育成支援に関するニーズ調査  
結果報告書 (案)  
(小学校高学年・中高生)

令和6 (2024) 年3月

茨 木 市

## 目 次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査概要	1
3.	配布・回収結果	1
4.	報告書の見方	1
II	調査結果	2
1.	本人や家族のことについて	2
2.	家の中でしている「家庭の仕事」について	12
3.	学校の過ごし方について	17
4.	ふだんの過ごし方について	20
5.	悩みなどのふだんの相談先について	49
6.	地域の役に立てる支援について	54
7.	茨木市での暮らしについて	56
8.	茨木市での取り組みについて	64
III	調査結果からみえてきた今後の課題	66
1.	多様な相談の場・機会の充実	66
2.	地域・社会活動等への参加の促進	66
3.	ヤングケアラーに対する支援の充実	67
4.	ネットリテラシーの向上（適切な利用）に向けた支援	67
5.	こどもの希望や想いが反映される市の取り組みの推進	67

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

現行の「茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」が令和6（2024）年度末で終了することから、こども基本法に基づく「こども計画」として、本市のこども・若者支援に関する施策を総合的・計画的に推進するための新たな計画となる「茨木市次世代育成支援行動計画（第5期）」（2025～2029年度）を策定することとしている。本調査は、新たな計画策定にあたって、本市の小学校（高学年）・中学校・高等学校に通学する生徒の学校生活や友人関係、家庭生活等の状況や意見・要望などを把握することを目的に実施した。

## 2. 調査概要

- （1）調査地域 茨木市全域
- （2）調査対象 市内の小学校（高学年）・中学校・高等学校・特別支援学校に通学する児童・生徒
- （3）対象者数 住民基本台帳から2,000人を無作為抽出
- （4）調査方法 郵送配布－郵送・WEB（併用）回収
- （5）調査期間 令和5（2023）年10月25日（水）～令和5（2023）年11月20日（月）  
（調査期間内にお礼状兼督促状を1回送付）

## 3. 配布・回収結果

配布数	有効回収数		有効回収率
	郵送回答	WEB 回答	
2,000	717	477	35.9%

## 4. 報告書の見方

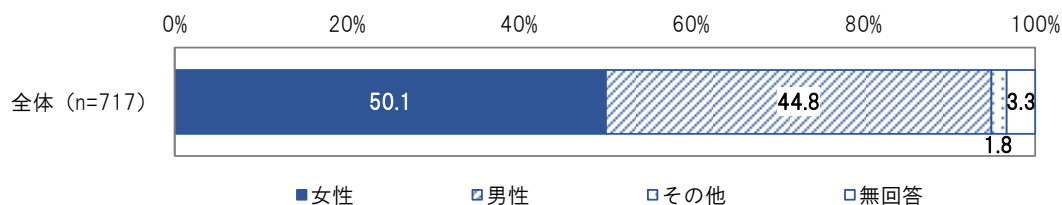
- グラフおよび表のn数（number of case）、「回答者数」は有効標本数（集計対象者総数）を表す。
- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してある。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このため、百分率の合計が100％にならないことがある。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100％を超える場合がある。
- グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。
- 性別、学年別等のクロス集計表については、無回答やその他を除いて、1番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。なお、割合が同じ回答が複数ある場合は、3項目以上に網掛けをしている場合がある。

## Ⅱ 調査結果

### 1. 本人や家族のことについて

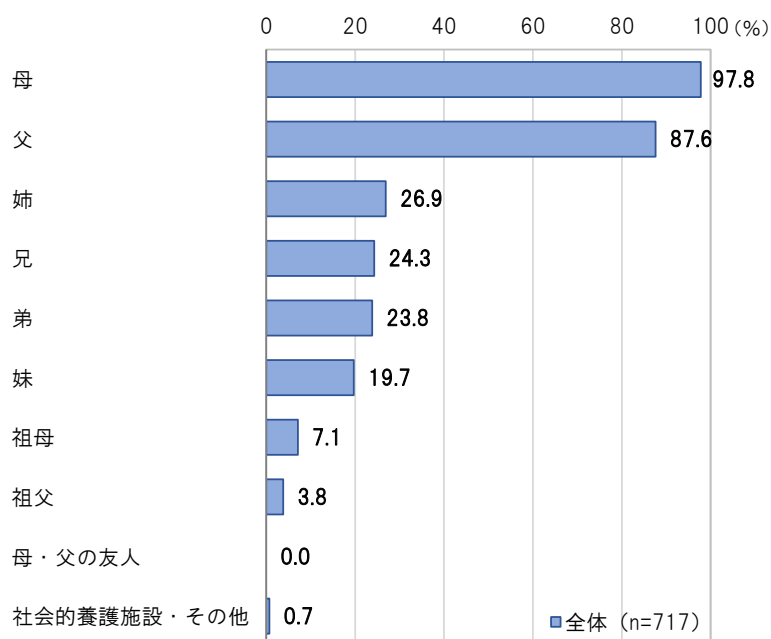
#### (1) 性別【問1 単数回答】

○性別は、「女性」が50.1%、「男性」が44.8%となっている。



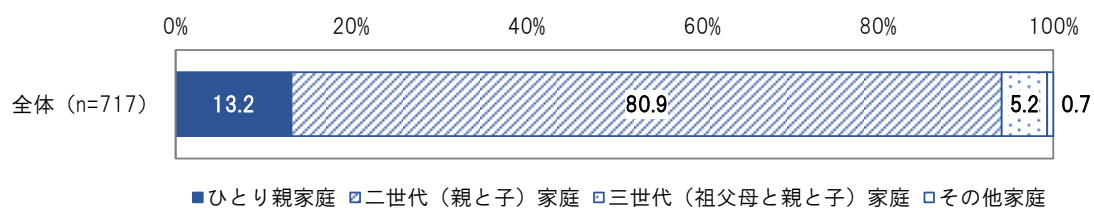
#### (2) 同居家族【問3 複数回答】

○同居家族は、「母」が97.8%と最も高く、次いで「父」(87.6%)、「姉」(26.9%)、「兄」(24.3%)となっている。



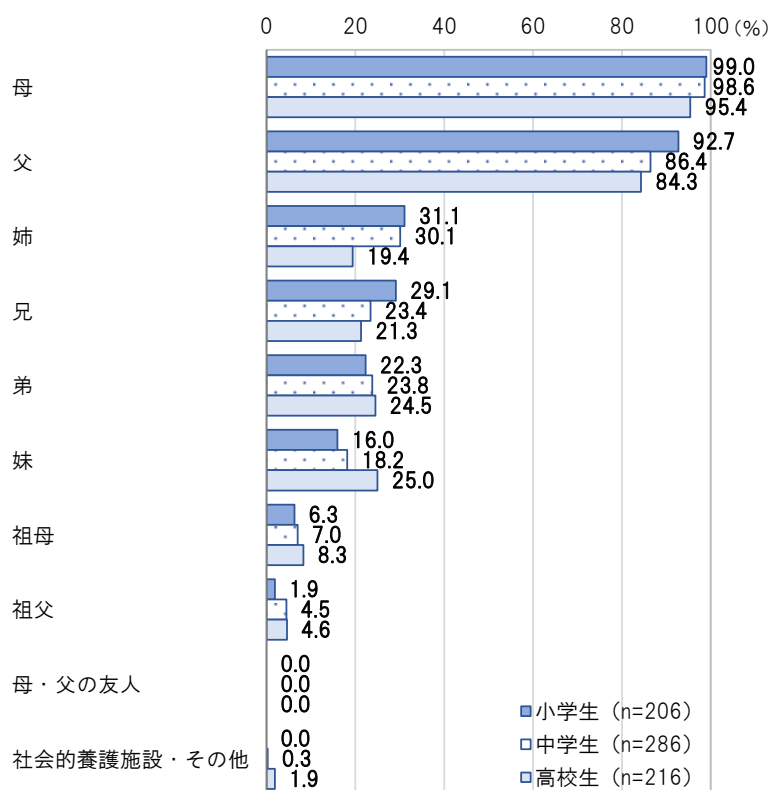
#### 《家庭類型別集計》

○家庭類型は、「二世世代（親と子）家庭」が80.9%と最も高く、次いで「ひとり親家庭」(13.2%)、「三世世代（祖父母と親と子）家庭」(5.2%)となっている。

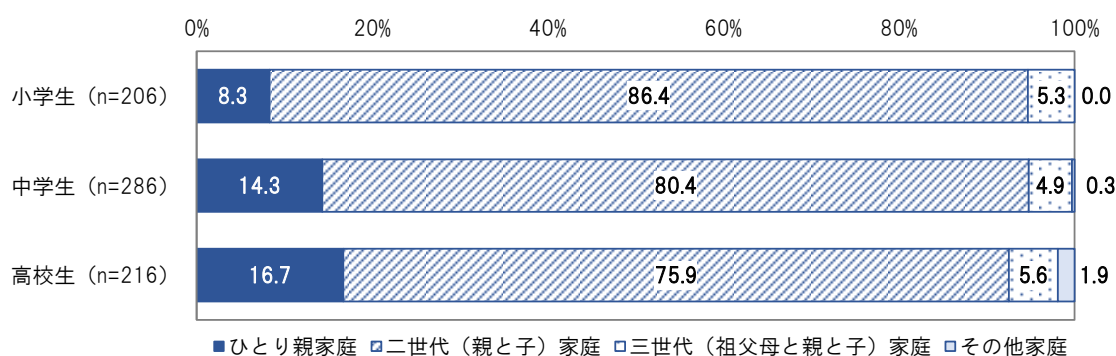


## 《学年別比較》

○学年別にみると、「母」が小学生で99.0%、中学生で98.6%、高校生で95.4%と最も高く、次いで「父」（小学生：92.7%、中学生：86.4%、高校生：84.3%）となっている。

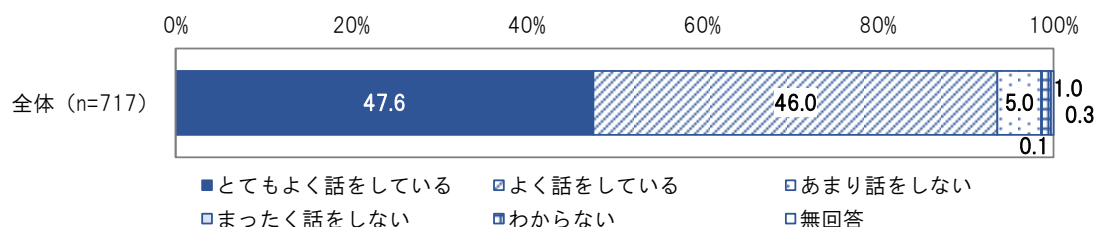


○家庭類型を学年別にみると、学年が上がるにつれて「二世世代（親と子）家庭」が低くなり、「ひとり親家庭」が高くなっている。



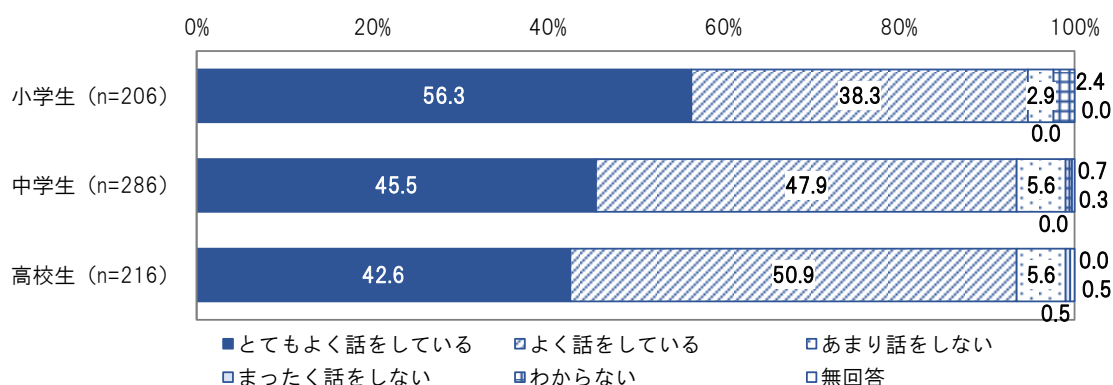
### （３）一緒に暮らしている人との会話の状況【問４ 単数回答】

- 一緒に暮らしている人との会話の状況は、「とてもよく話をしている」が47.6%と最も高く、次いで「よく話をしている」(46.0%)となっており、『話をしている』が9割以上を占めている。
- 「あまり話をしない」(5.0%)と「まったく話をしない」(0.1%)を合わせた『話をしない』が5.1%となっている。



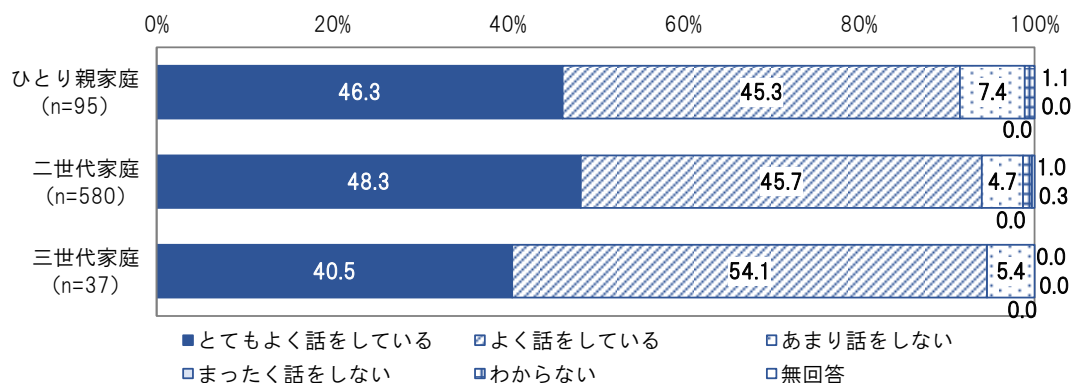
#### 《学年別比較》

- 学年別にみると、学年が上がるにつれて「とてもよく話をしている」が低くなる傾向がみられる。また、『話をしない』の割合は学年が上がるにつれて高くなっており、[高校生]では6.1%となっている。



#### 《家庭類型別比較》

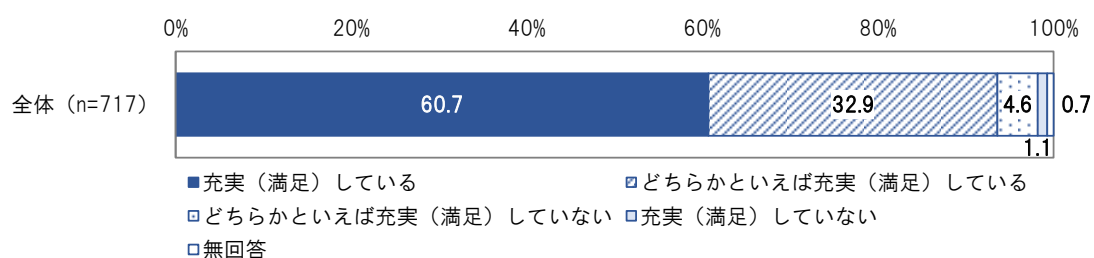
- 家庭類型別にみると、[ひとり親家庭]では『話をしない』が7.4%となっており、その他の家庭類型に比べてやや高くなっている。



#### （４）現在の生活の充実（満足）度【問５ 単数回答】

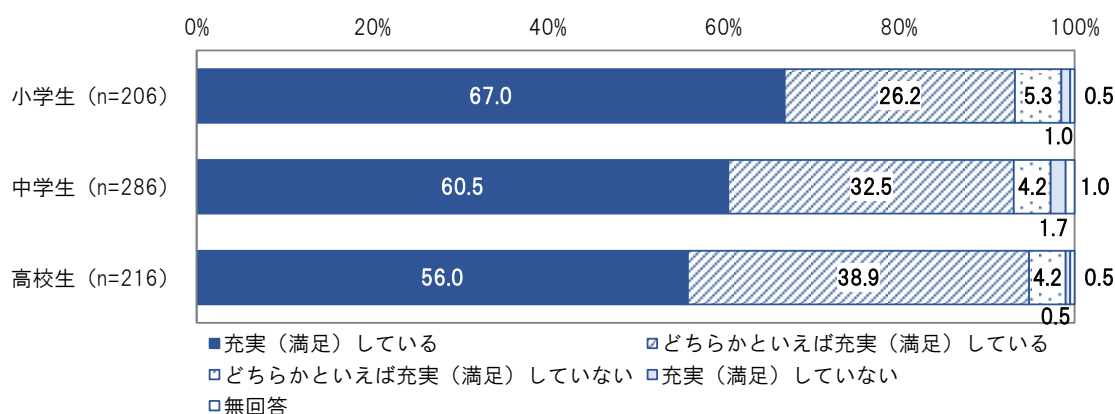
○現在の生活の充実（満足）度は、「充実（満足）している」が60.7%と最も高く、「どちらかといえば充実（満足）している」（32.9%）と合わせると、『充実（満足）している』が9割以上を占めている。

○「どちらかといえば充実（満足）していない」（4.6%）と「充実（満足）していない」（1.1%）を合わせた『充実（満足）していない』が5.7%となっている。



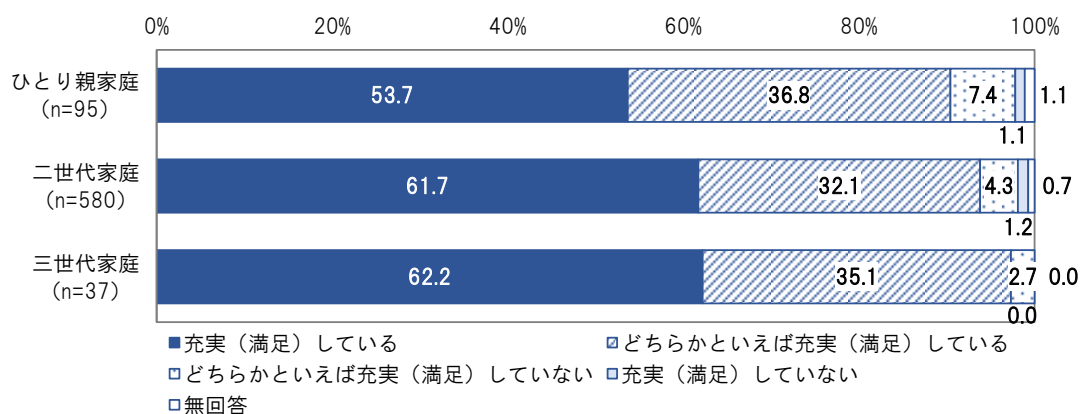
#### 《学年別比較》

○学年別にみると、学年が上がるにつれて「充実（満足）している」が低くなる傾向がみられるものの、「どちらかといえば充実（満足）している」と合わせた『充実（満足）している』の割合では、大きな差異はみられない。



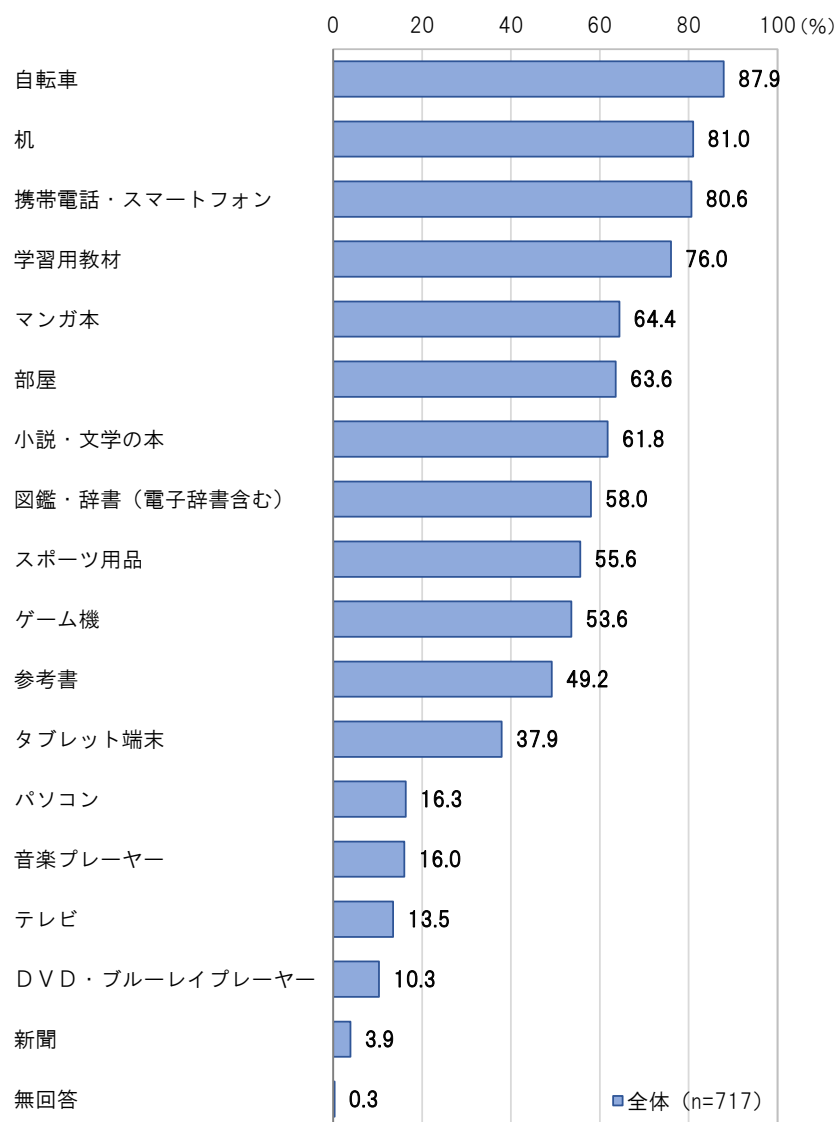
#### 《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、[ひとり親家庭]では『充実（満足）していない』が8.5%となっており、その他の家庭類型に比べてやや高くなっている。



**(5) 自身が専用で所有（使用）しているもの【問6 複数回答】**

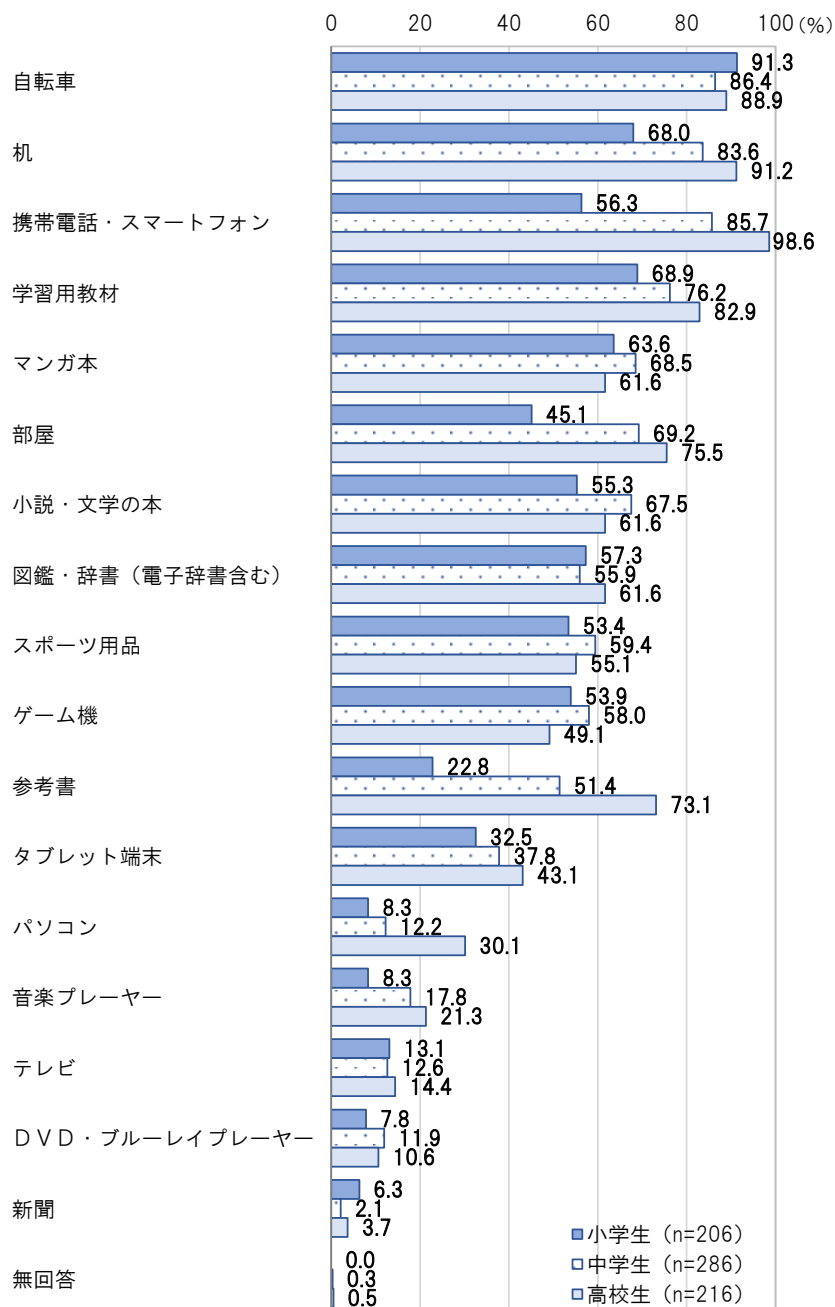
○自身が専用で所有（使用）しているものは、「自転車」が87.9%と最も高く、次いで「机」(81.0%)、「携帯電話・スマートフォン」(80.6%)、「学習用教材」(76.0%)となっている。





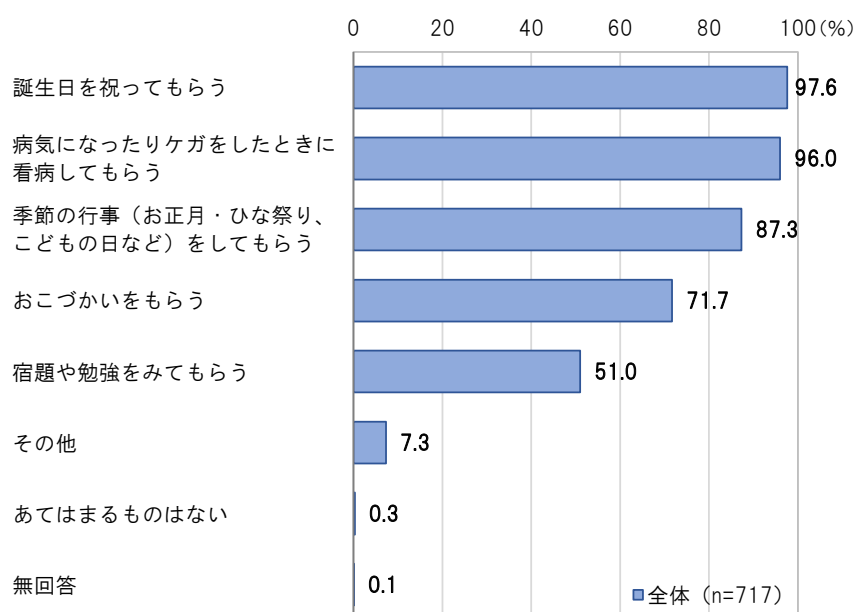
## 《学年別比較》

- 学年別にみると、[小学生][中学生]では「自転車」がそれぞれ91.3%、86.4%と最も高く、[高校生]では「携帯電話・スマートフォン」が98.6%と最も高くなっている。
- また、学年が上がるにつれて「机」や「携帯電話・スマートフォン」、「学習用教材」、「部屋」、「参考書」、「タブレット端末」、「パソコン」、「音楽プレイヤー」などで割合が高くなる傾向がみられる。



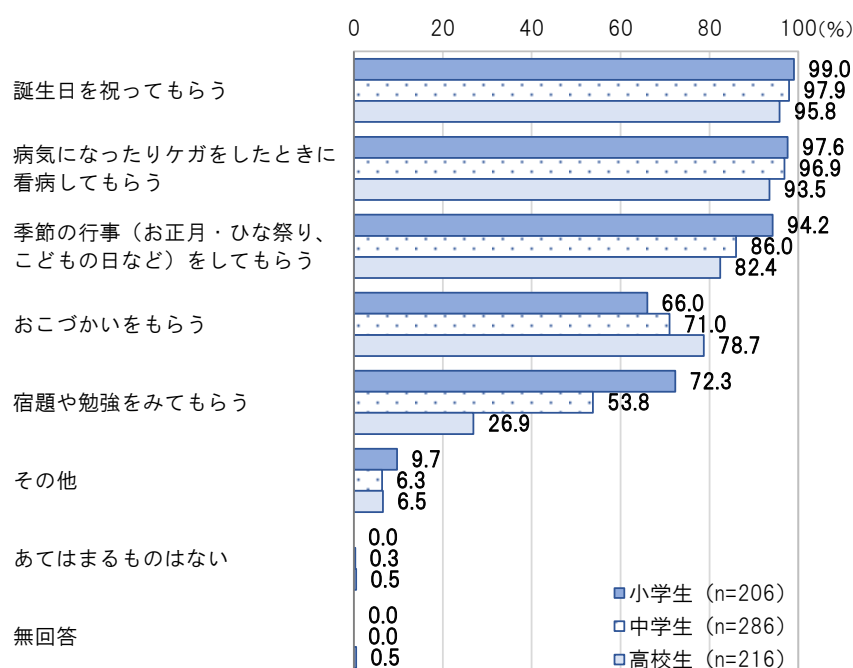
## （６）一緒に暮らしている人にしてもらっていること【問７ 複数回答】

○一緒に暮らしている人にしてもらっていることは、「誕生日を祝ってもらう」が 97.6%と最も高く、次いで「病気になったりケガをしたときに看病してもらう」(96.0%)、「季節の行事（お正月・ひな祭り、こどもの日など）をしてもらう」（87.3%）となっている。



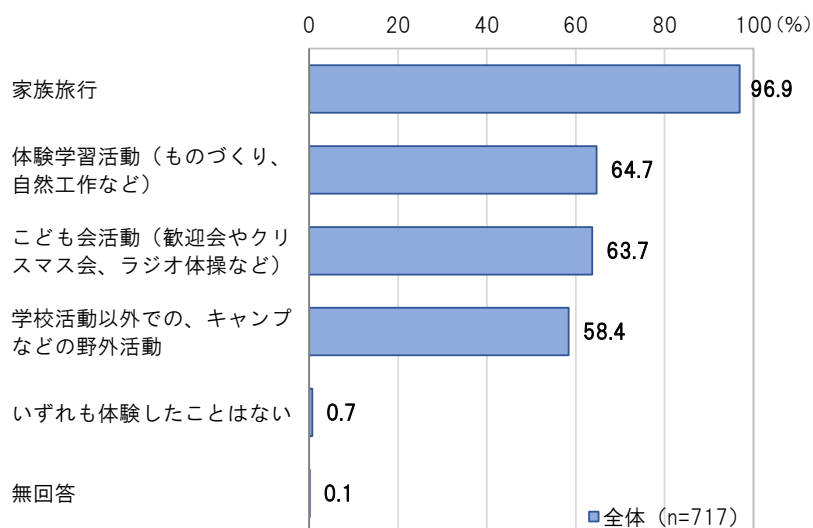
## 《学年別比較》

○学年別にみると、学年が上がるにつれて「おこづかいをもらう」が高くなる傾向がみられるのに対し、それ以外の項目では低くなる傾向がみられる。



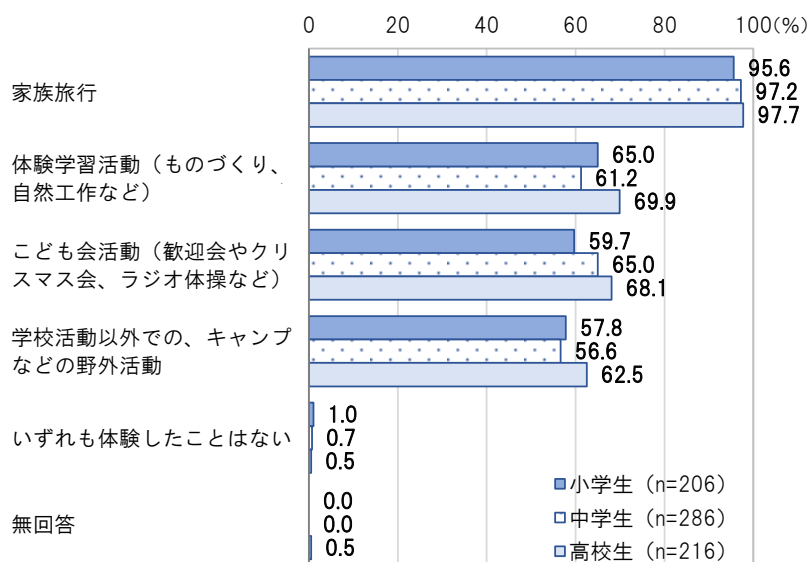
## (7) これまでに体験したこと【問8 複数回答】

○これまでに体験したことは、「家族旅行」が96.9%と最も高く、次いで「体験学習活動（ものづくり、自然工作など）」(64.7%)、「こども会活動（歓迎会やクリスマス会、ラジオ体操など）」(63.7%)、「学校活動以外での、キャンプなどの野外活動」(58.4%)となっている。



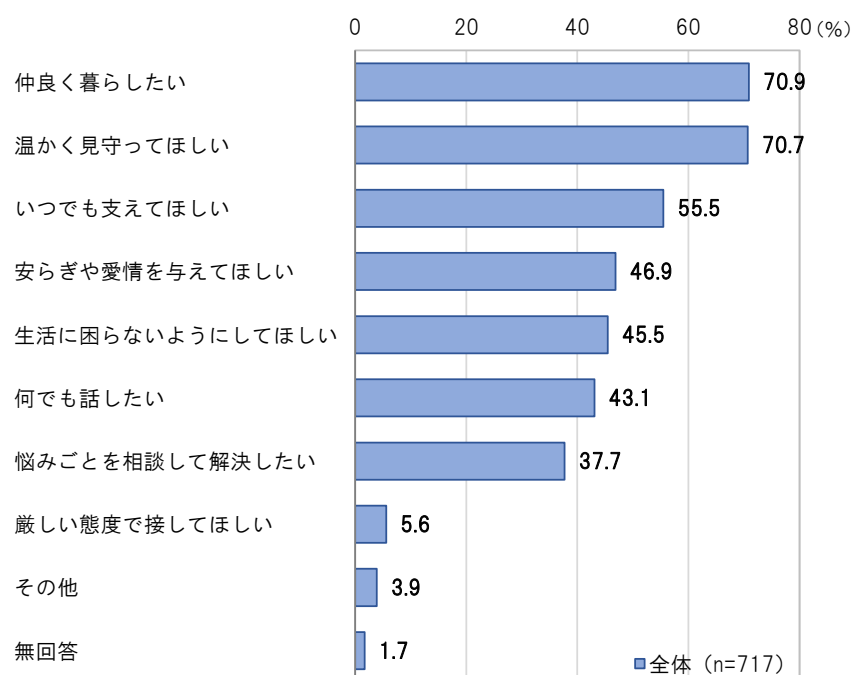
## 《学年別比較》

○学年別にみると、学年が上がるにつれて「家族旅行」や「こども会活動（歓迎会やクリスマス会、ラジオ体操など）」で高くなる傾向がみられる。



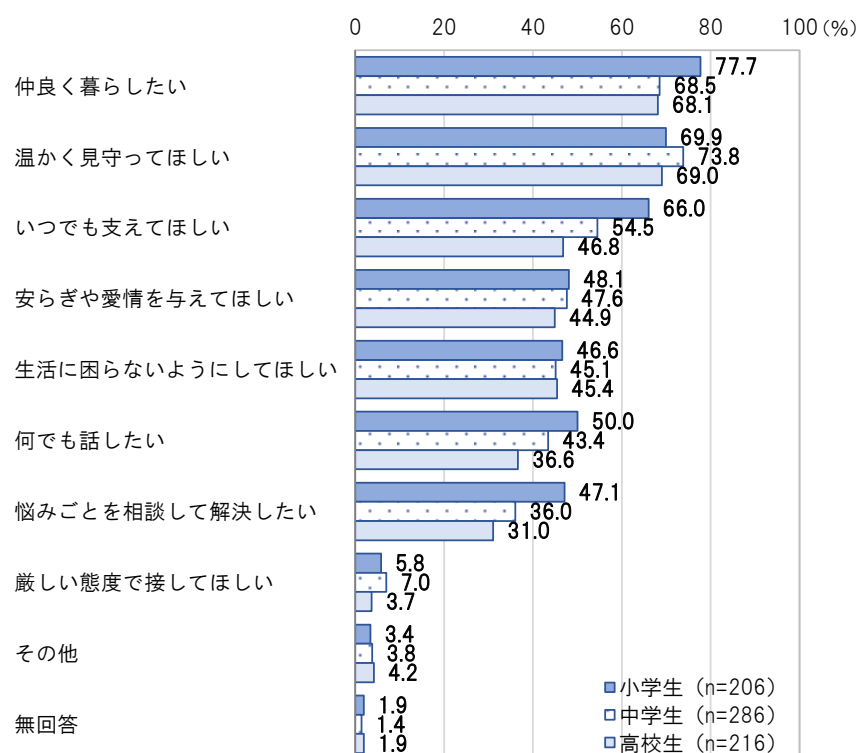
## (8) 一緒に暮らしている人に期待したいこと【問9 複数回答】

○一緒に暮らしている人に期待したいことは、「仲良く暮らしたい」が70.9%と最も高く、次いで「温かく見守ってほしい」(70.7%)、「いつでも支えてほしい」(55.5%)となっている。



## 《学年別比較》

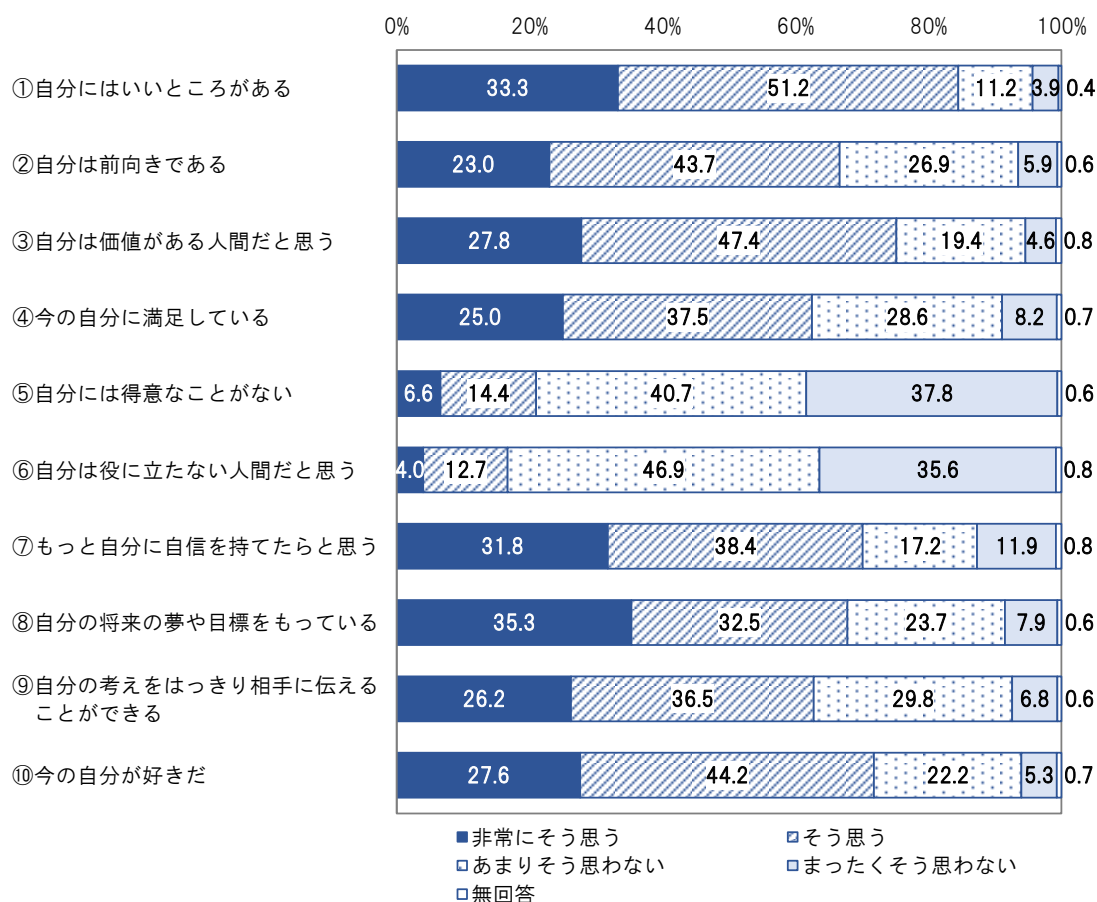
○学年別にみると、学年が上がるにつれて「仲良く暮らしたい」や「いつでも支えてほしい」、「何でも話したい」、「悩みごとを相談して解決したい」などで低くなる傾向がみられる。



## (9) 自身についてあてはまること【問 10 単数回答】

○自身についてあてはまることでは、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“①自分にはいいところがある”で 84.5%と最も高く、次いで“③自分は価値がある人間だと思う”(75.2%)、“⑩今の自分が好きだ”(71.8%)となっている。

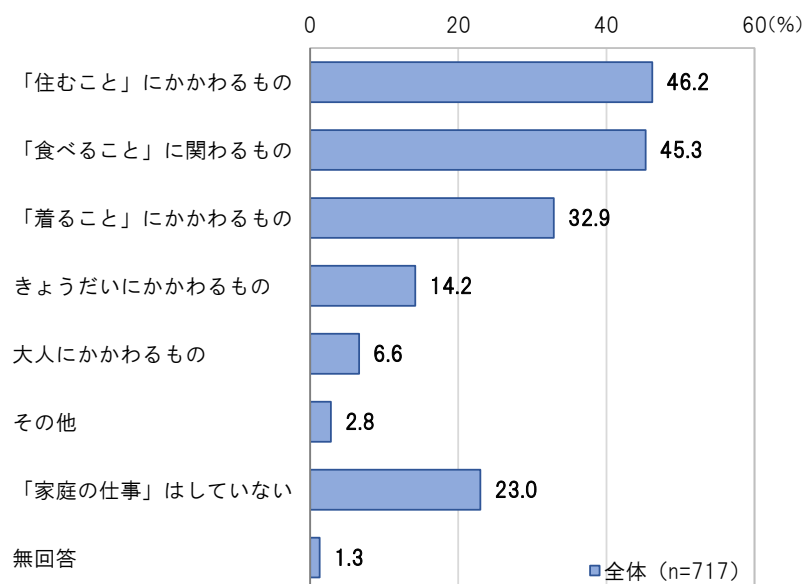
○「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみると、“⑥自分は役に立たない人間だと思う”で 82.5%と最も高く、次いで“⑤自分には得意なことがない”(78.5%)、“④今の自分に満足している”(36.8%)となっている。



## 2. 家の中でしている「家庭の仕事」について

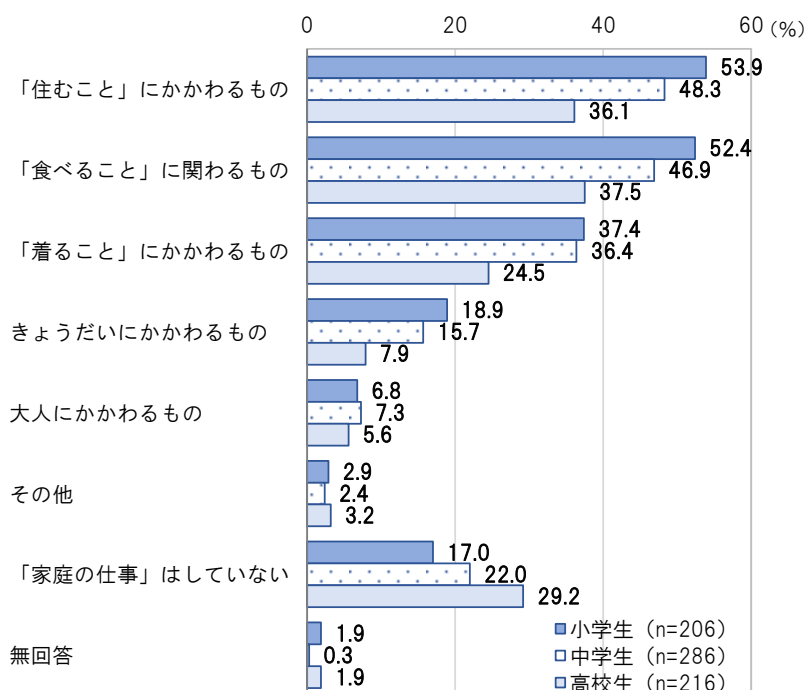
### (1) 家の中でしている家庭の仕事【問11 複数回答】

○家の中でしている家庭の仕事は、「住むこと」にかかわるものが46.2%と最も高く、次いで「食  
 べること」に関わるもの(45.3%)、「着ること」にかかわるもの(32.9%)となっている。



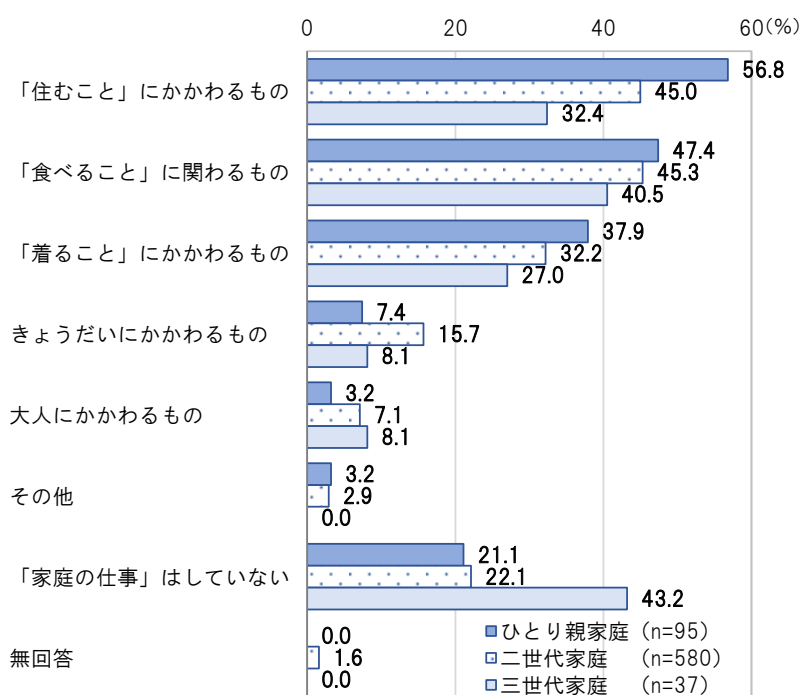
### 《学年別比較》

○学年別にみると、学年が上がるにつれて「家庭の仕事」はしていないが高くなる傾向がみられ、  
 「住むこと」にかかわるものや「食べること」に関わるもの、「着ること」にかかわるもの、  
 「きょうだいに」にかかわるものが低くなる傾向がみられる。



## 《家庭類型別比較》

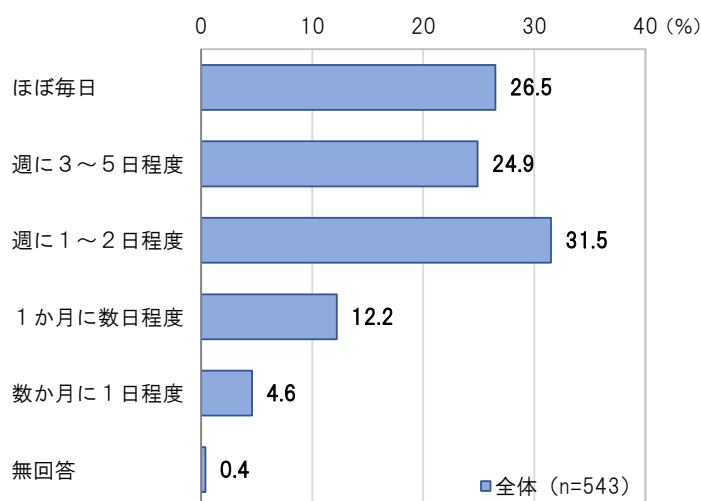
○家庭類型別にみると、「住むこと」にかかわるものや「食えること」に関わるもの、「着ること」にかかわるものでは〔ひとり親家庭〕で最も高くなっている。また、〔三世代世帯〕では「家庭の仕事」はしていないが4割を超え、その他の家庭類型に比べて高くなっている。



## (1-1) 家庭の仕事をしている頻度【問11-1 単数回答】

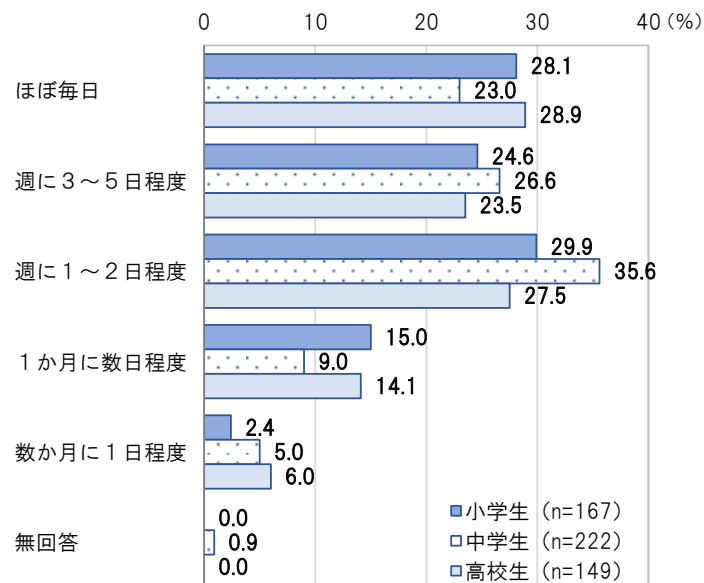
※(1)で「家庭の仕事」はしていない」と回答した人及び無回答を除く

○家庭の仕事をしている頻度は、「週に1～2日程度」が31.5%と最も高く、次いで「ほぼ毎日」(26.5%)、「週に3～5日程度」(24.9%)となっている。



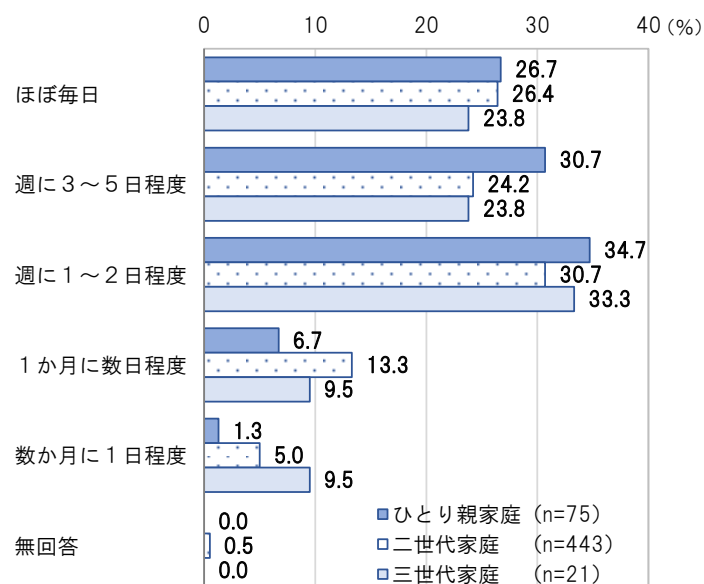
## 《学年別比較》

○学年別にみると、[小学生][中学生]では「週に1～2日程度」、[高校生]では「ほぼ毎日」が最も高くなっている。



## 《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、[ひとり親家庭]で「ほぼ毎日」や「週に3～5日程度」、「週に1～2日程度」が最も高くなっており、他の家庭類型に比べて頻度が高い傾向がみられる。

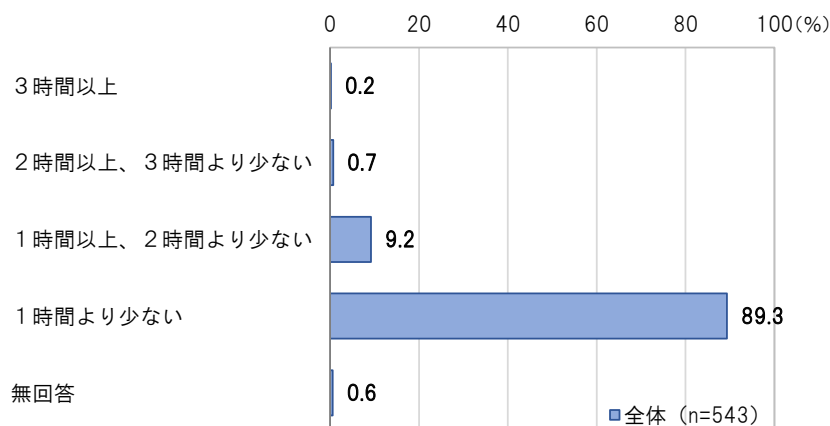




## (1-2) 学校がある日の家庭の仕事をしている時間数【問 11-2 単数回答】

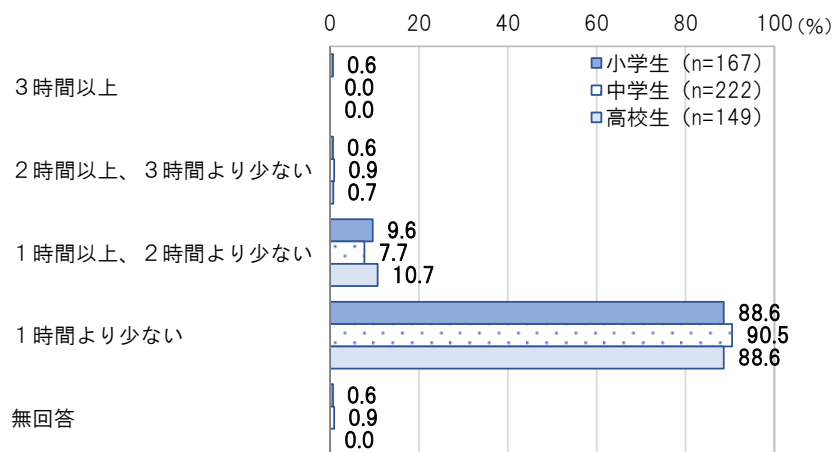
※(1)で「家庭の仕事」はしていない」と回答した人及び無回答を除く

○学校がある日の家庭の仕事をしている時間数は、「1時間より少ない」が89.3%となっている。



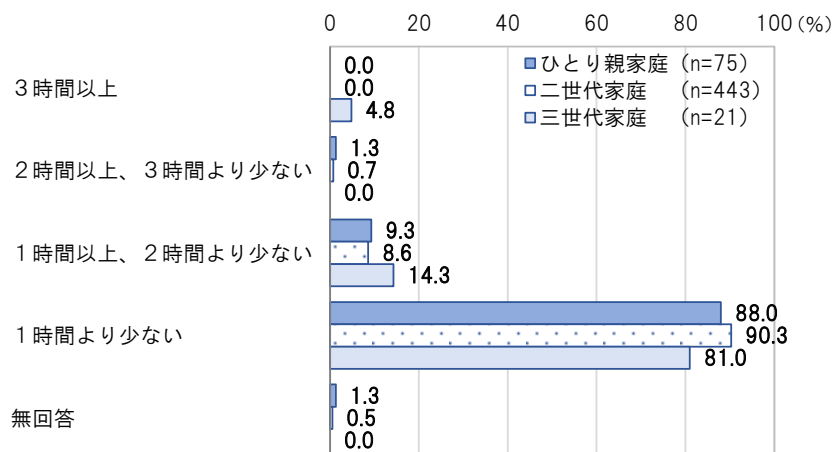
### 《学年別比較》

○学年別による大きな差異はみられない。



### 《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、[三世代家庭] でやや時間が長い傾向がみられる。

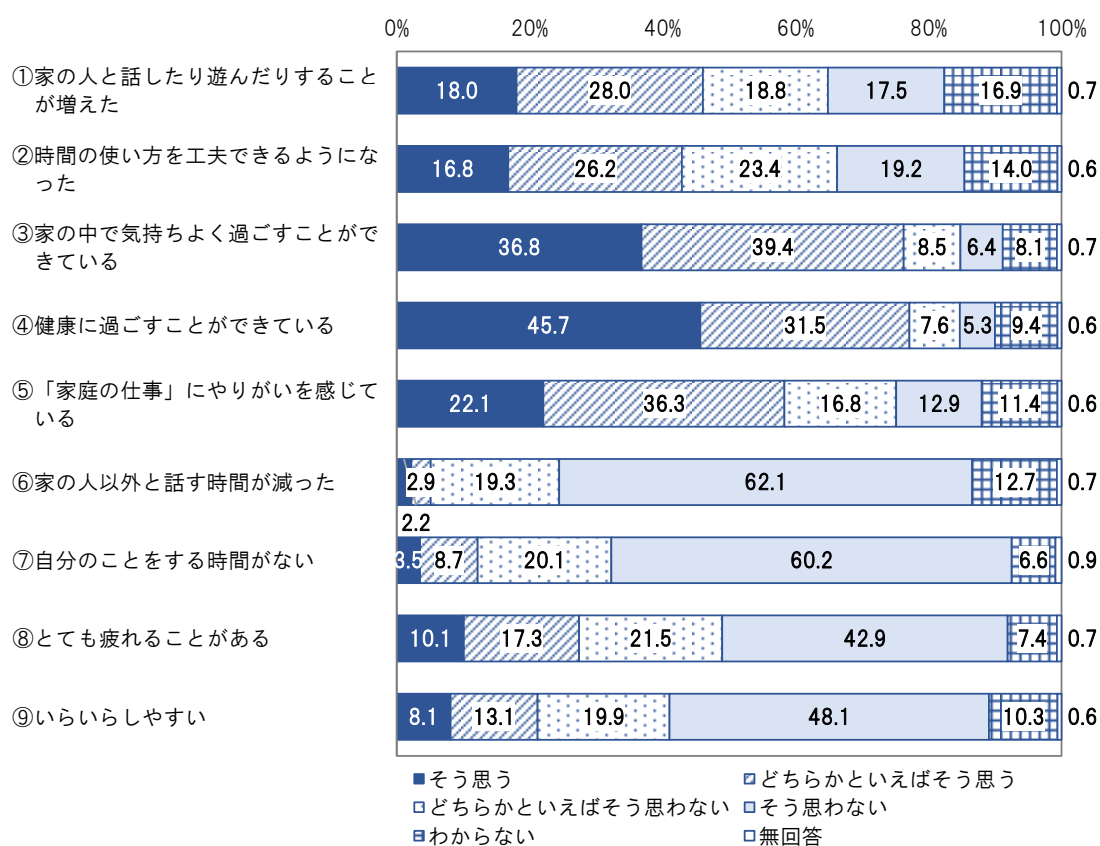


### (1-3) 家庭の仕事をしていることで自身についてあてはまること【問 11-3 単数回答】

※(1)で「家庭の仕事」はしていない」と回答した人及び無回答を除く

○家庭の仕事をしていることで自身についてあてはまることでは、「そう思う」と「どちらかといえ  
ばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“④健康に過ごすことができてい  
る”で77.2%と最も高く、次いで“③家の中で気持ちよく過ごすことができてい  
る”(76.2%)、“⑤「家庭の仕事」にやりがいを感じている”(58.4%)となっている。

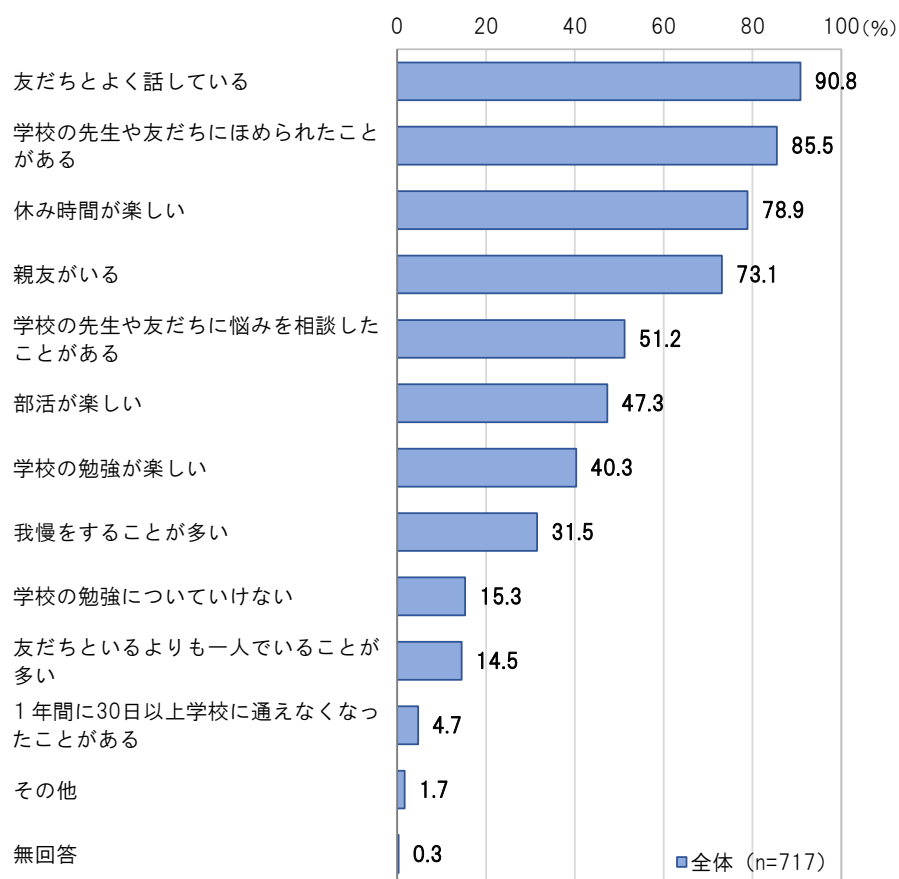
○「どちらかといえはそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみ  
ると、“⑥家の人以外と話す時間が減った”で81.4%と最も高く、次いで“⑦自分のことをする  
時間がない”(80.3%)、“⑨いろいろなしやすい”(68.0%)となっている。



### 3. 学校の過ごし方について

#### (1) 学校での経験【問 12 複数回答】

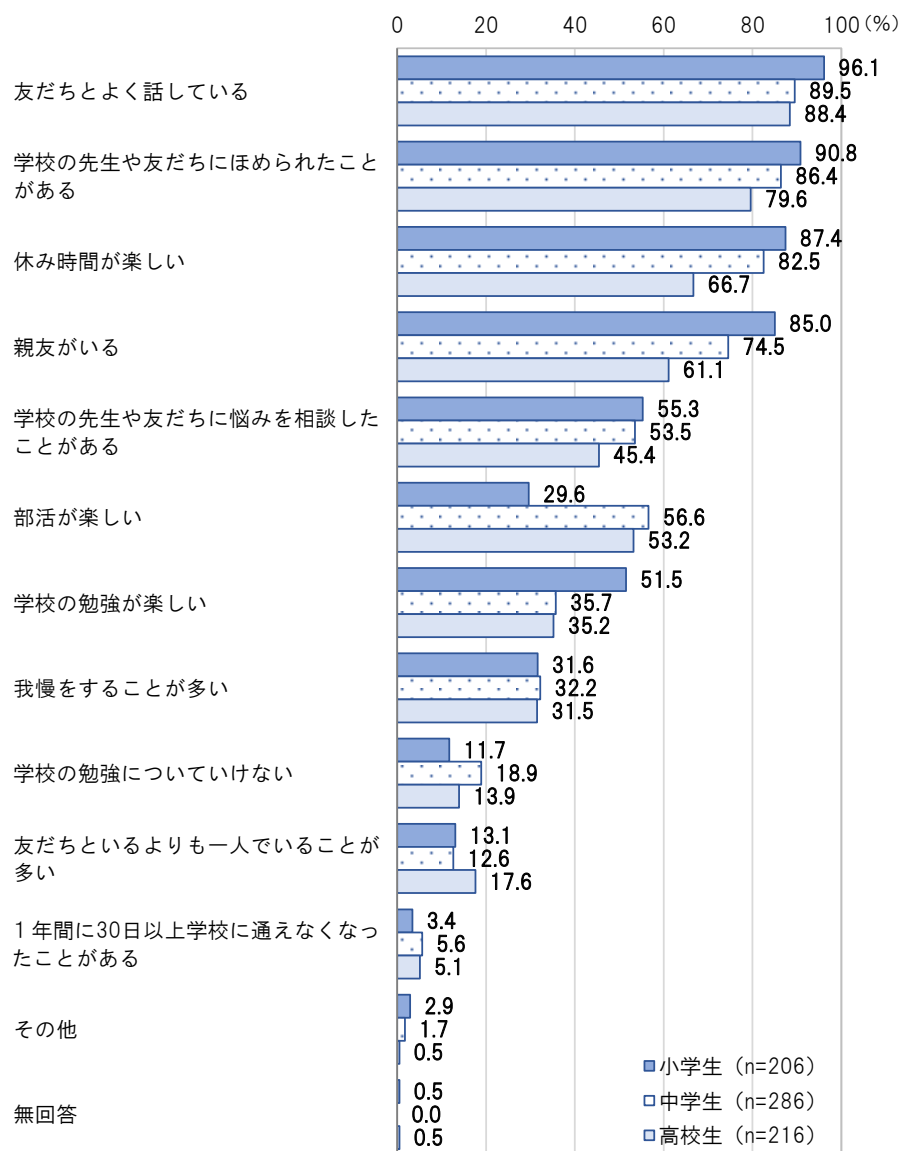
○学校での経験は、「友だちとよく話している」が 90.8%と最も高く、次いで「学校の先生や友だちにほめられたことがある」(85.5%)、「休み時間が楽しい」(78.9%)、「親友がいる」(73.1%)となっている。



## 《学年別比較》

○学年別にみると、ほとんどの項目で、学年が上がるにつれて低くなっている。

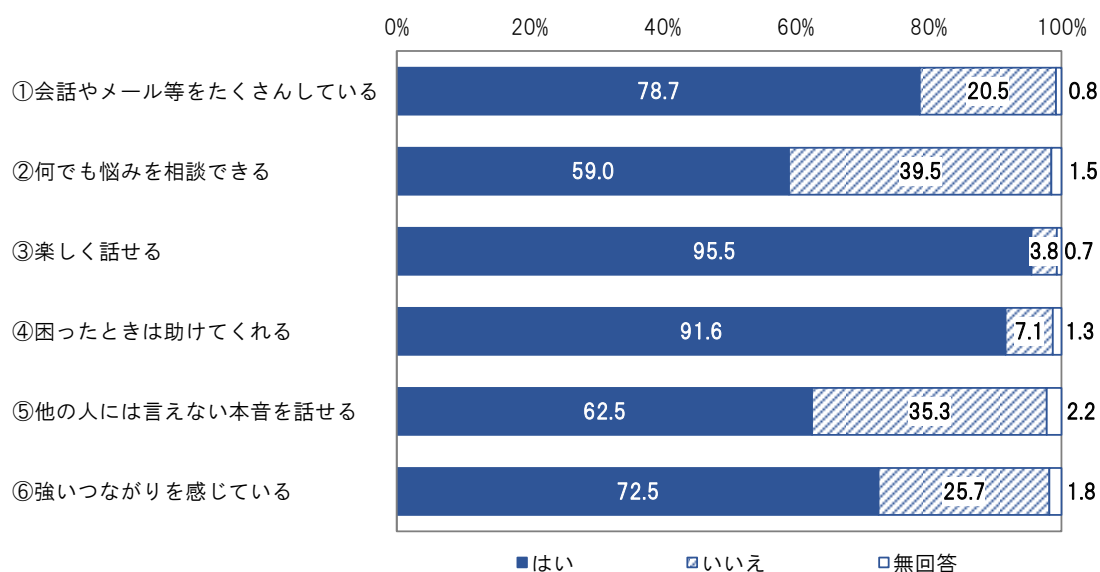
○[中学生] 以上では「部活が楽しい」が高くなっており、その他、[中学生] では「学校の勉強についていけない」、[高校生] では「友だちというよりも一人でいることが多い」が、それぞれその他の学年に比べて高くなっている。



## (2) 学校で出会った友だちとのかかわり【問 13 単数回答】

○学校で出会った友だちとのかかわりでは、「はい」の割合をみると、“③楽しく話せる”で95.5%と最も高く、次いで“④困ったときは助けてくれる”(91.6%)、“①会話やメール等をたくさんしている”(78.7%)となっている。

○「いいえ」の割合をみると、“②何でも悩みを相談できる”で39.5%と最も高く、次いで“⑤他の人には言えない本音を話せる”(35.3%)、“⑥強いつながりを感じている”(25.7%)となっている。

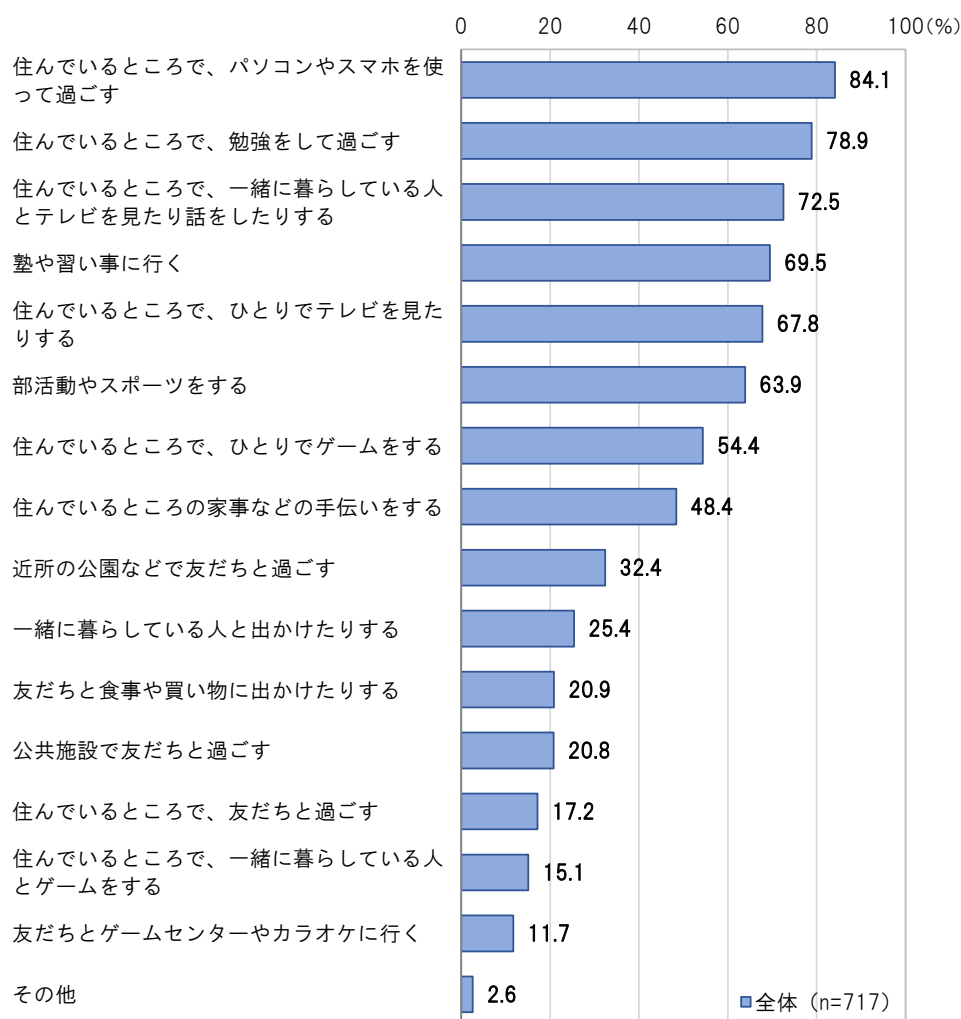


## 4. ふだんの過ごし方について

### (1) ふだんの過ごし方【問 14 複数回答】

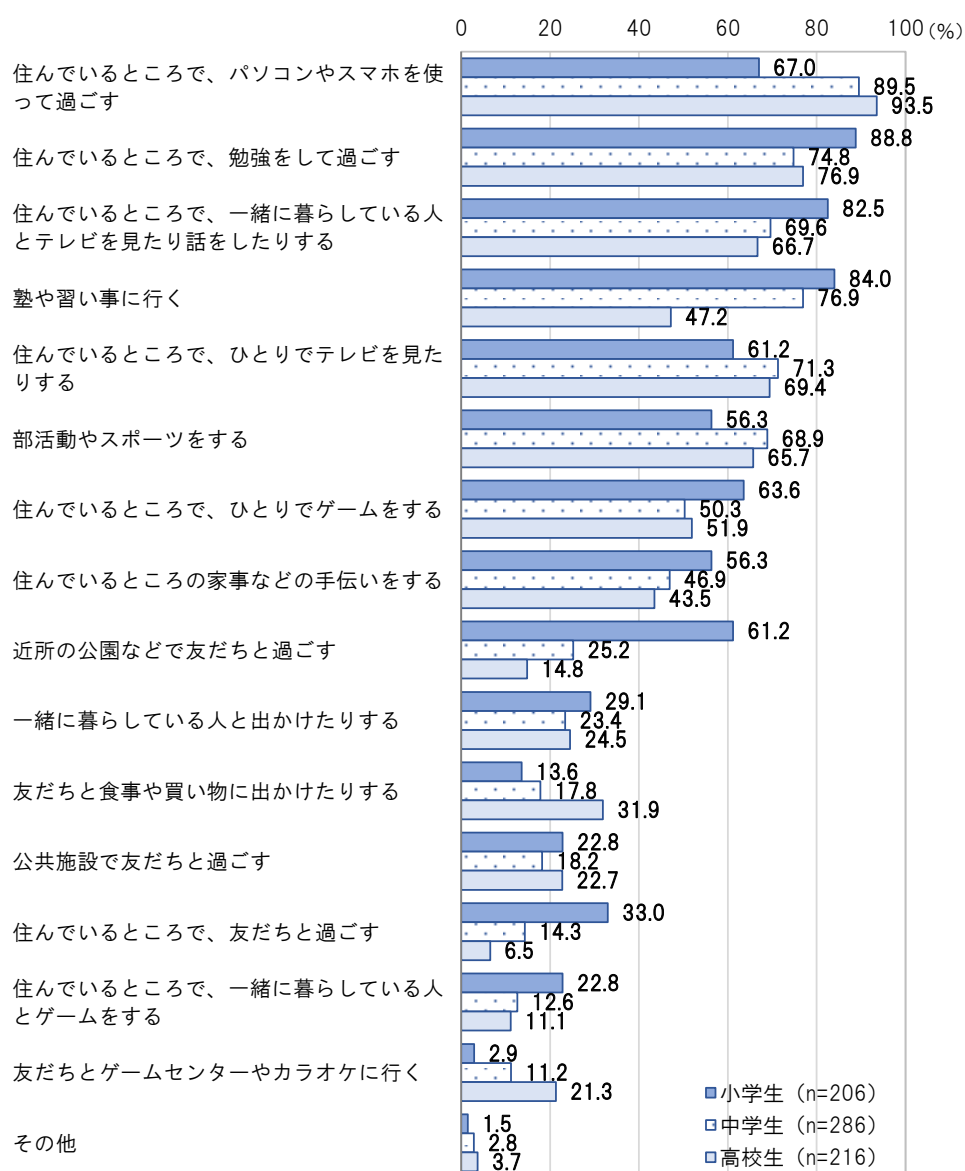
#### ① 平日の学校以外の時間

○平日の学校以外の時間の過ごし方は、「住んでいるところで、パソコンやスマホを使って過ごす」が 84.1%と最も高く、次いで「住んでいるところで、勉強をして過ごす」(78.9%)、「住んでいるところで、一緒に暮らしている人とテレビを見たり話をしたりする」(72.5%)となっている。



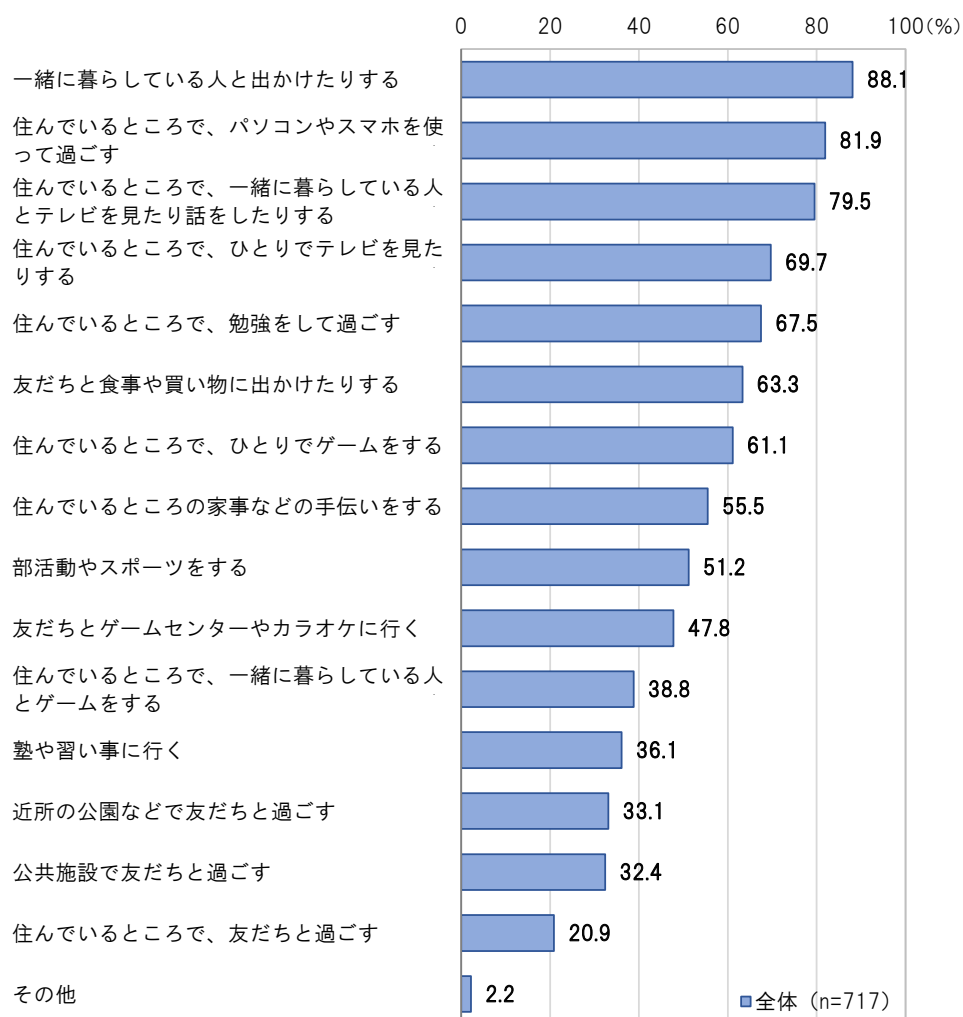
## 《学年別比較》

- 学年別にみると、[小学生]では「住んでいるところで、勉強をして過ごす」、[中学生][高校生]では「住んでいるところで、パソコンやスマホを使って過ごす」が最も高くなっている。
- 学年が下がるにつれて、「住んでいるところで、一緒に暮らしている人とテレビを見たり話をしたりする」や「塾や習い事に行く」、「住んでいるところの家事などの手伝いをする」、「近所の公園などで友だちと過ごす」、「住んでいるところで、友だちと過ごす」などが高くなり、学年が上がるにつれて「住んでいるところで、パソコンやスマホを使って過ごす」や「友だちと食事や買い物に出かけたりする」、「友だちとゲームセンターやカラオケに行く」が高くなる傾向がみられる。



## ② 休日

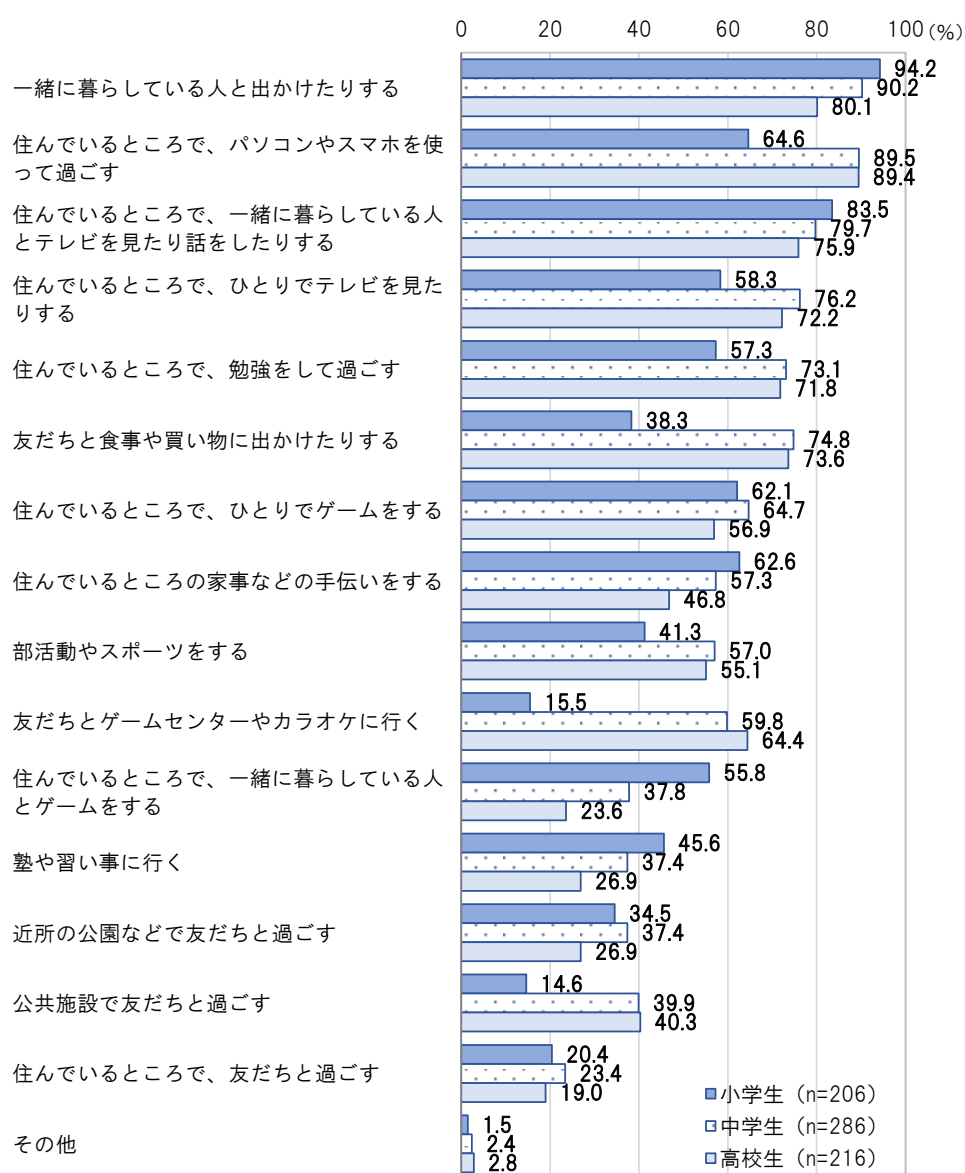
○休日の過ごし方は、「一緒に暮らしている人と出かけたりする」が88.1%と最も高く、次いで「住んでいるところで、パソコンやスマホを使って過ごす」(81.9%)、「住んでいるところで、一緒に暮らしている人とテレビを見たり話をしたりする」(79.5%)となっている。





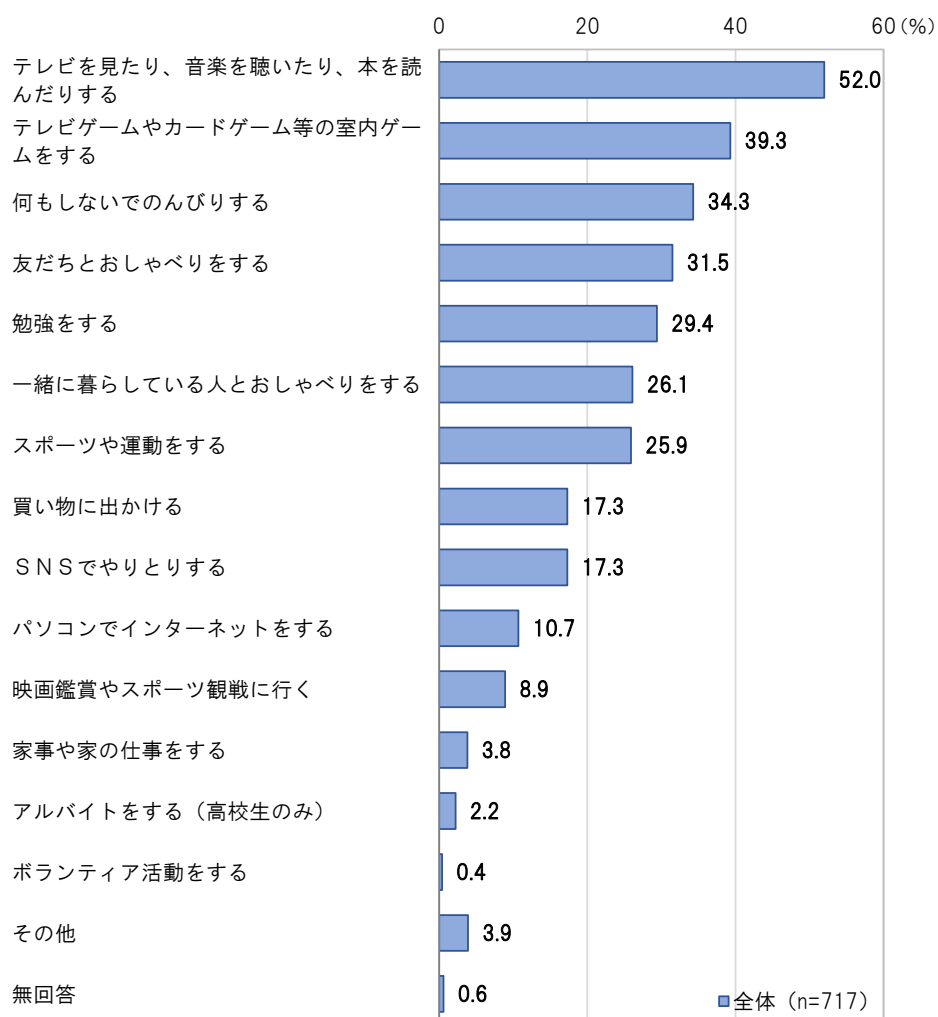
## 《学年別比較》

- 学年別にみると、[小学生][中学生]では「一緒に暮らしている人と出かけたりする」、[高校生]では「住んでいるところで、パソコンやスマホを使って過ごす」が最も高くなっている。
- 学年が下がるにつれて、「一緒に暮らしている人と出かけたりする」や「住んでいるところで、一緒に暮らしている人とテレビを見たり話をしたりする」、「住んでいるところの家事などの手伝いをする」、「住んでいるところで、一緒に暮らしている人とゲームをする」、「塾や習い事に行く」などが高くなり、学年が上がるにつれて「友だちとゲームセンターやカラオケに行く」が高くなる傾向がみられる。



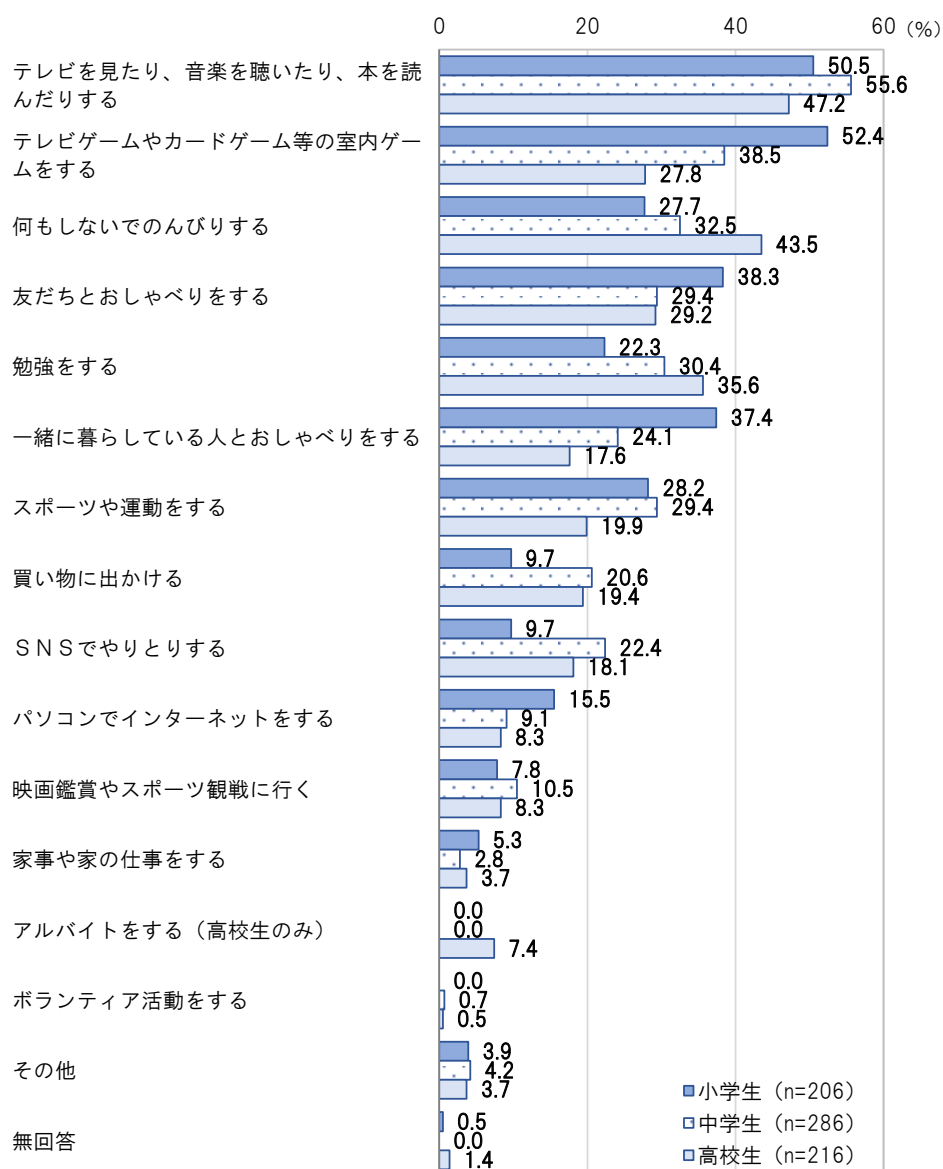
## (2) 学校以外の時間の過ごし方の希望【問 15 複数回答】

○学校以外の時間の過ごし方の希望は、「テレビを見たり、音楽を聴いたり、本を読んだりする」が52.0%と最も高く、次いで「テレビゲームやカードゲーム等の室内ゲームをする」(39.3%)、「何もしないでのんびりする」(34.3%)、「友だちとおしゃべりをする」(31.5%)となっている。



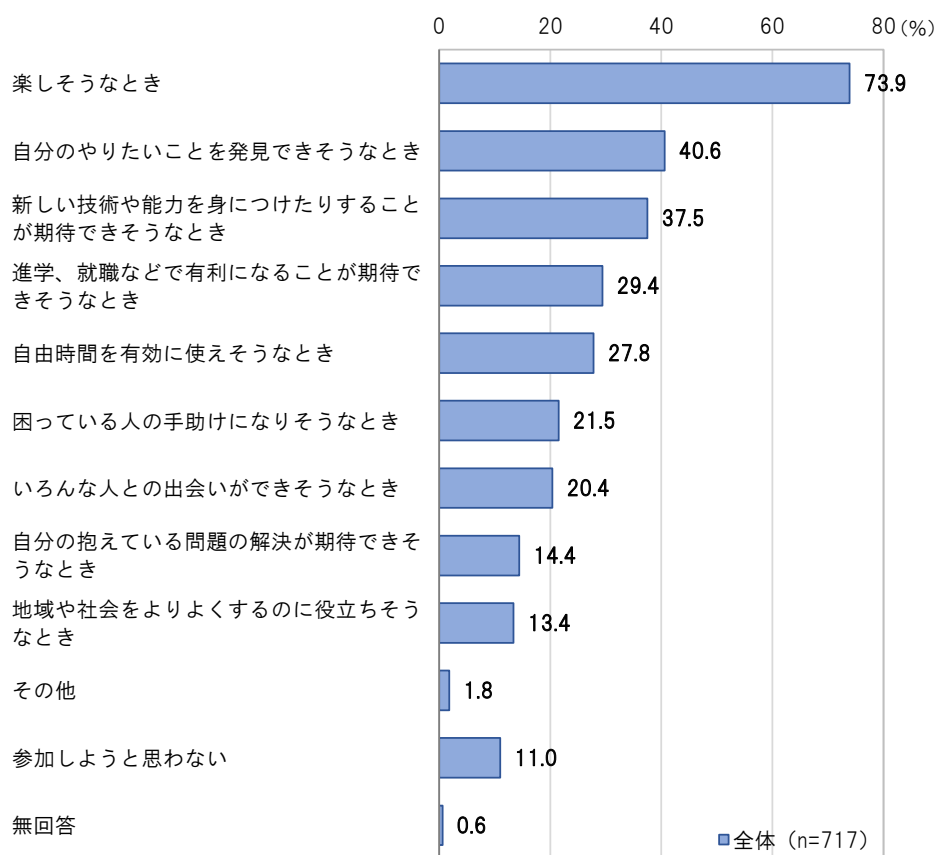
## 《学年別比較》

- 学年別にみると、[小学生]では「テレビゲームやカードゲーム等の室内ゲームをする」、[中学生] [高校生]では「テレビを見たり、音楽を聴いたり、本を読んだりする」が最も高くなっている。
- 学年が下がるにつれて、「テレビゲームやカードゲーム等の室内ゲームをする」や「友達とおしゃべりをする」、「一緒に暮らしている人とおしゃべりをする」、「パソコンでインターネットをする」などが高くなり、学年が上がるにつれて「何もしないでのんびりする」や「勉強をする」が高くなる傾向がみられる。



### (3) 学校以外の活動に参加したいと思うきっかけ【問16 複数回答】

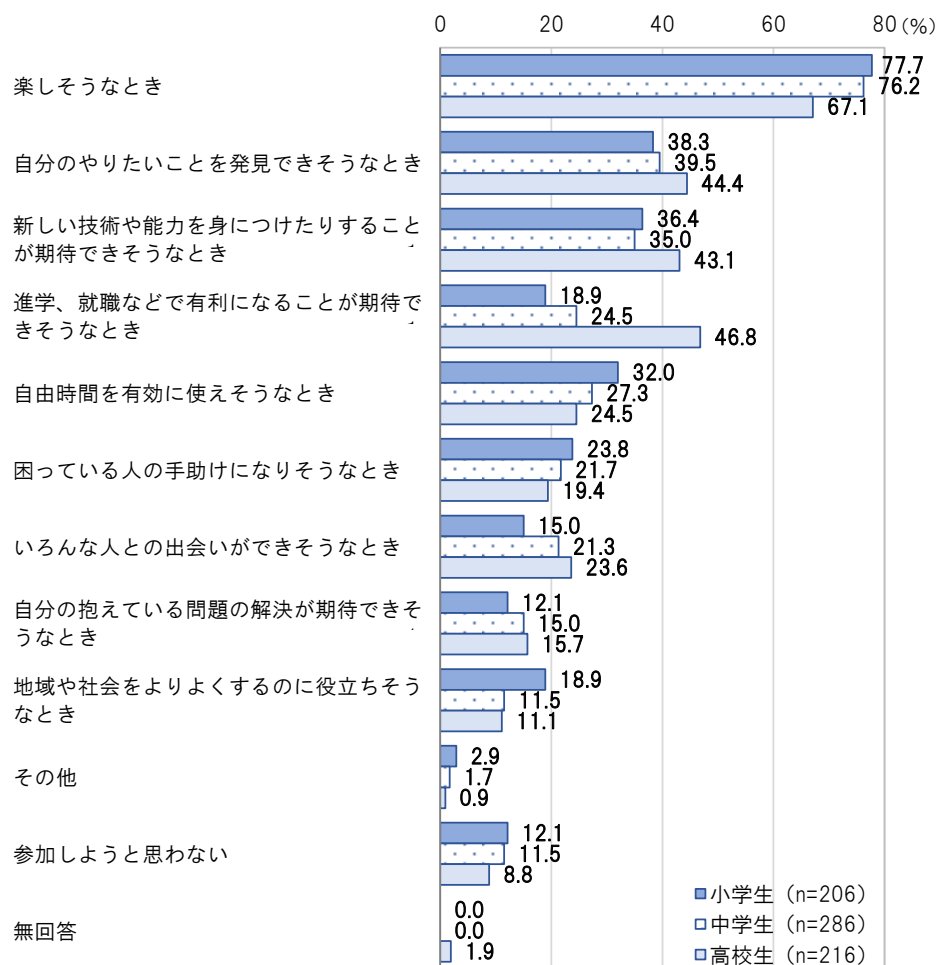
○学校以外の活動に参加したいと思うきっかけは、「楽しそうなとき」が73.9%と最も高く、次いで「自分のやりたいことを発見できそうなとき」(40.6%)、「新しい技術や能力を身につけたりすることが期待できそうなとき」(37.5%)となっている。



## 《学年別比較》

○学年別にみると、すべての学年で「楽しそうなとき」が最も高くなっており、特に〔小学生〕〔中学生〕では7割を超えて高くなっている。

○学年が下がるにつれて、「自由時間を有効に使えそうなとき」や「困っている人の手助けになりそうなとき」、「地域や社会をよりよくするのに役立ちそうなとき」などが高くなり、学年が上がるにつれて「自分のやりたいことを発見できそうなとき」や「進学、就職などで有利になることが期待できそうなとき」、「いろいろな人との出会いができそうなとき」、「自分の抱えている問題の解決が期待できそうなとき」が高くなる傾向がみられる。

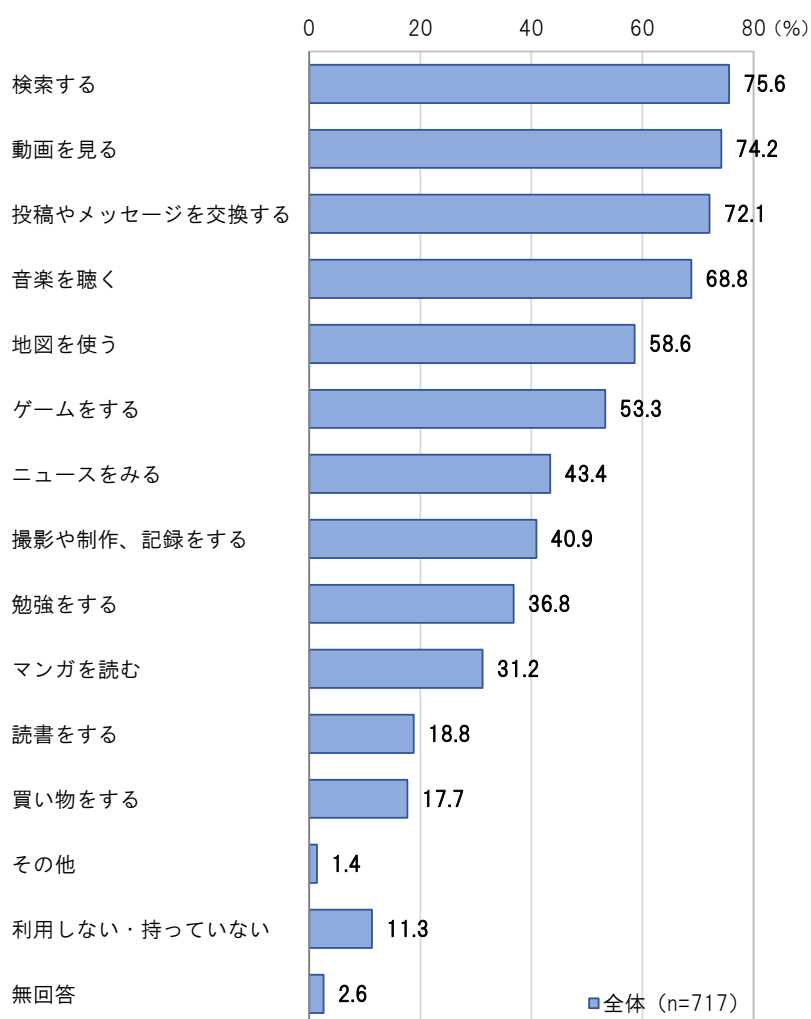


#### (4) インターネットの利用目的【問 17 複数回答】

##### ① スマートフォン

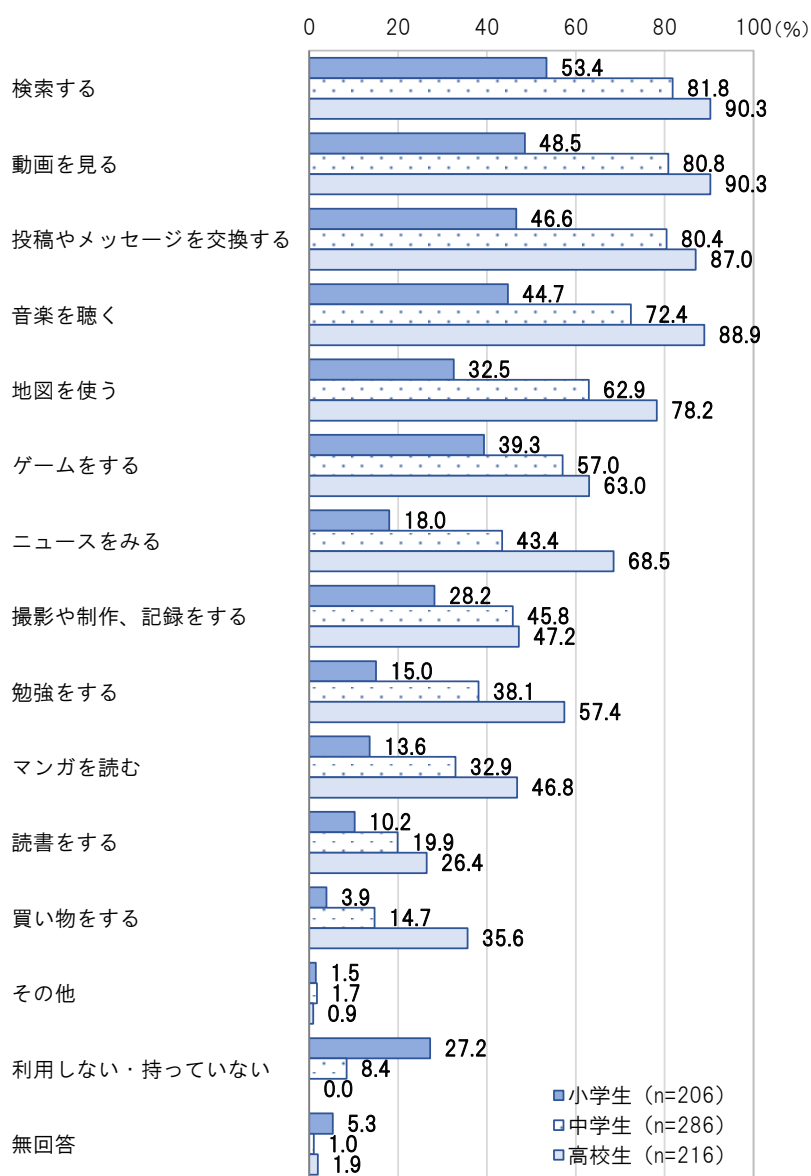
○スマートフォンの利用目的は、「検索する」が75.6%と最も高く、次いで「動画を見る」(74.2%)、「投稿やメッセージを交換する」(72.1%)、「音楽を聴く」(68.8%)となっている。

○また、「利用しない・持っていない」は11.3%となっており、利用している・持っている人が8割以上となっている。



## 《学年別比較》

○学年別にみると、学年が上がるにつれてスマートフォンの所持率が高くなることから、すべての目的で、学年が上がるにつれて高くなっている。特に、[高校生]では「検索する」や「動画を見る」、「投稿やメッセージを交換する」、「音楽を聴く」の目的での利用が9割程度となっている。



## ② 携帯電話

○携帯電話については、「利用しない・持っていない」が56.8%と半数以上を占めている。

○利用している人の利用目的では、「投稿やメッセージを交換する」が10.0%と高く、次いで「動画を見る」(6.3%)、「検索する」(5.9%)、「音楽を聴く」(4.9%)となっている。





## 《学年別比較》

○学年別にみると、学年が下がるにつれて「利用しない・持っていない」が低くなっており、携帯電話の所持率は学年が下がるほど高くなっている。

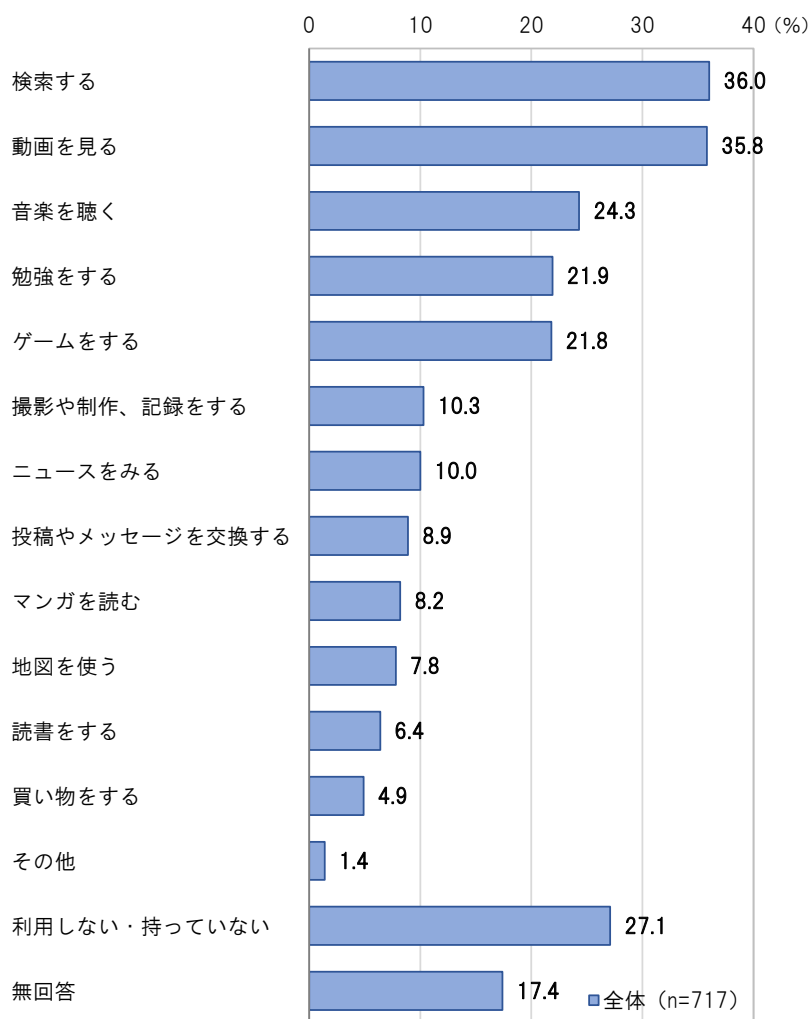
○学年が下がるにつれて「投稿やメッセージを交換する」や「ゲームをする」がやや高くなり、学年が上がるにつれて「ニュースをみる」や「地図を使う」がやや高くなる傾向がみられる。



### ③ 自宅用のパソコン・タブレット等

○自宅用のパソコン・タブレット等の利用目的は、「検索する」が 36.0%と最も高く、次いで「動画を見る」(35.8%)、「音楽を聴く」(24.3%)となっている。

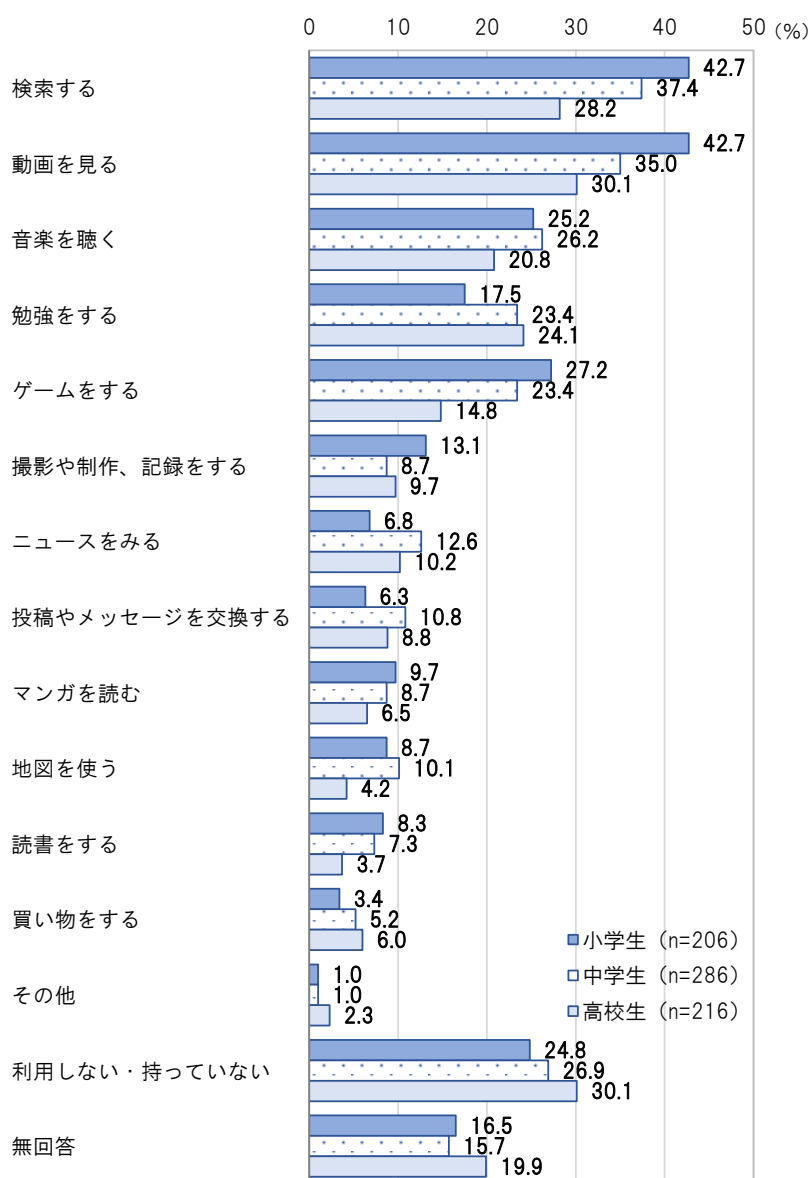
○また、「利用しない・持っていない」は 27.1%となっており、利用している・持っている人が半数以上となっている。



## 《学年別比較》

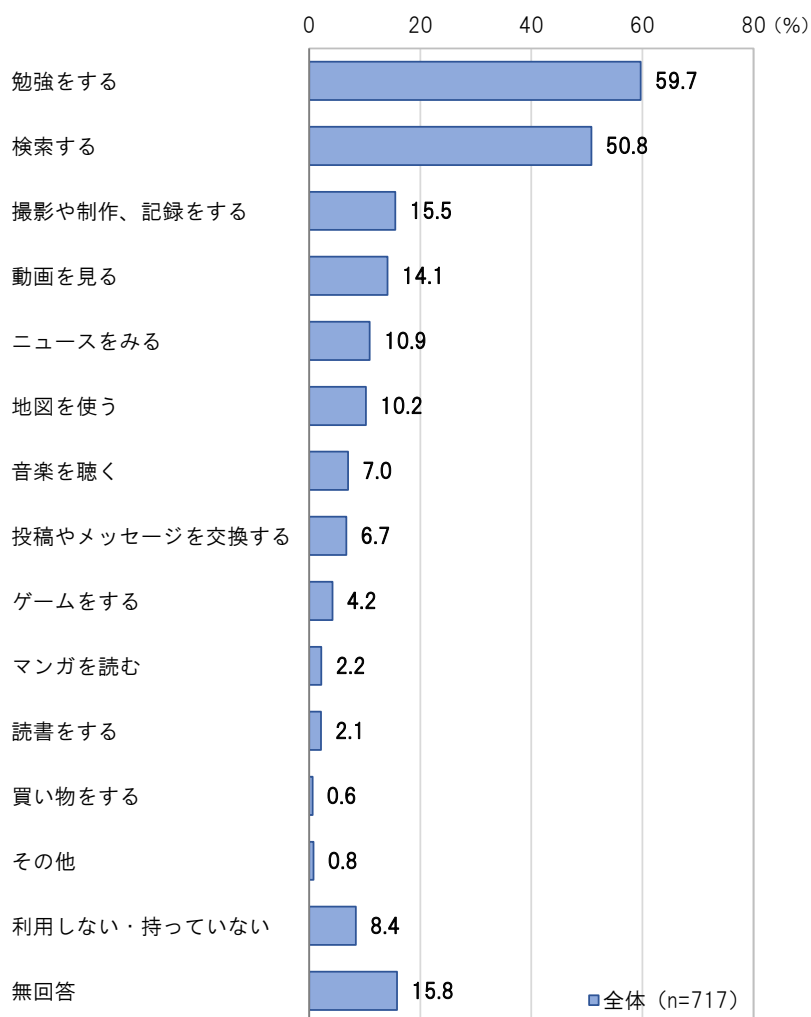
○学年別にみると、学年が下がるにつれて「利用しない・持っていない」が低くなっており、自宅用のパソコン・タブレット等の所持率は学年が下がるほど高くなっている。

○学年が下がるにつれて「検索する」や「動画を見る」、「ゲームをする」、「マンガを読む」、「読書をする」が高くなり、学年が上がるにつれて「勉強をする」や「買い物をする」がやや高くなる傾向がみられる。



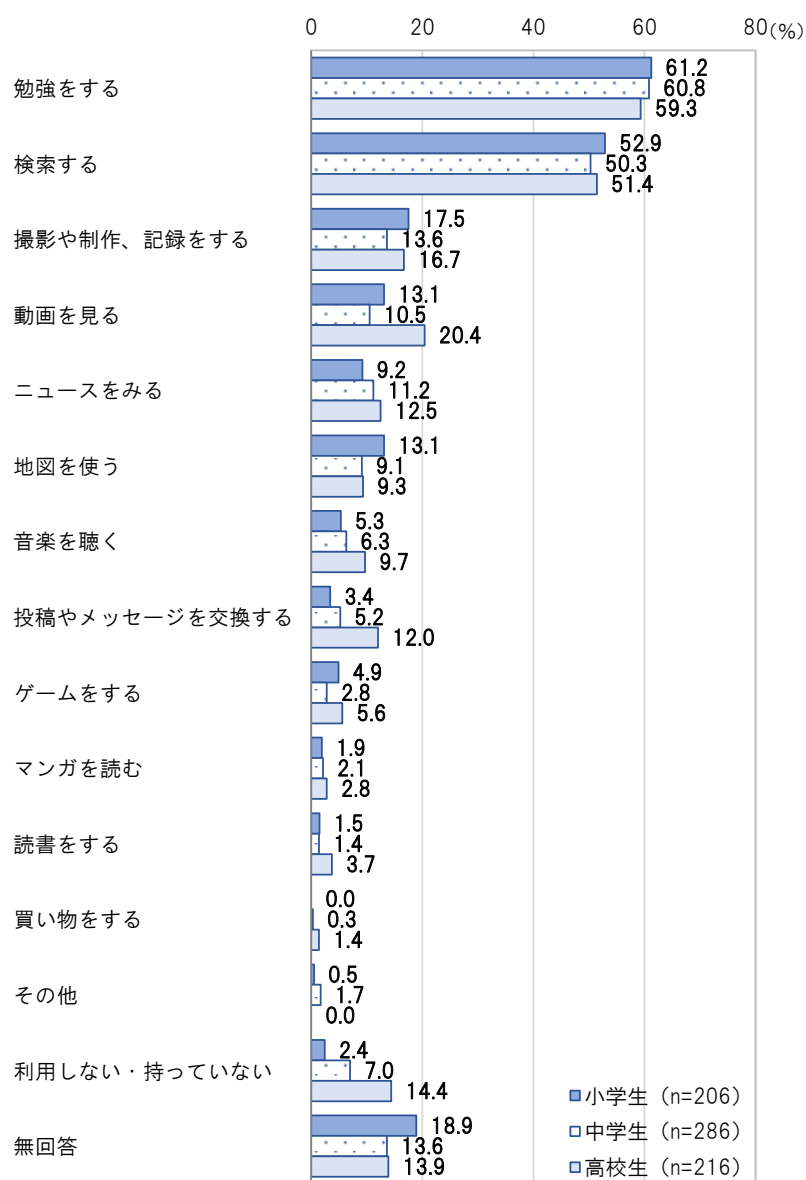
#### ④ 学校から配布・指定されたパソコン・タブレット等

○学校から配布・指定されたパソコン・タブレット等の利用目的は、「勉強をする」が 59.7%と最も高く、次いで「検索する」(50.8%)となっており、その他の目的では2割未満となっている。



## 《学年別比較》

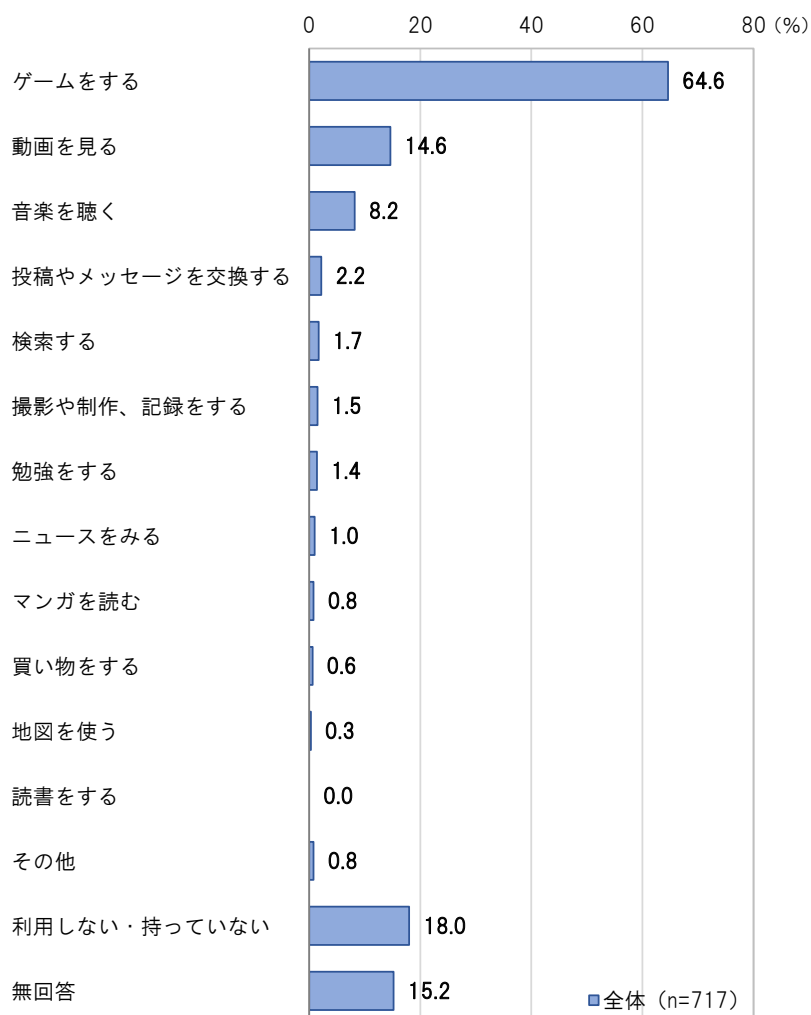
- 学年別にみると、学年が下がるにつれて「利用しない・持っていない」が低くなっており、学校から配布・指定されたパソコン・タブレット等の所持率は学年が下がるほど高くなっている。
- 学年が下がるにつれて「勉強をする」や「地図を使う」がやや高くなり、学年が上がるにつれて「ニュースをみる」や「音楽を聴く」、「投稿やメッセージを交換する」がやや高くなる傾向がみられる。



## ⑤ ゲーム機

○ゲーム機の利用目的は、「ゲームをする」が64.6%と最も高く、次いで「動画を見る」(14.6%)となっており、その他の目的では1割未満となっている。

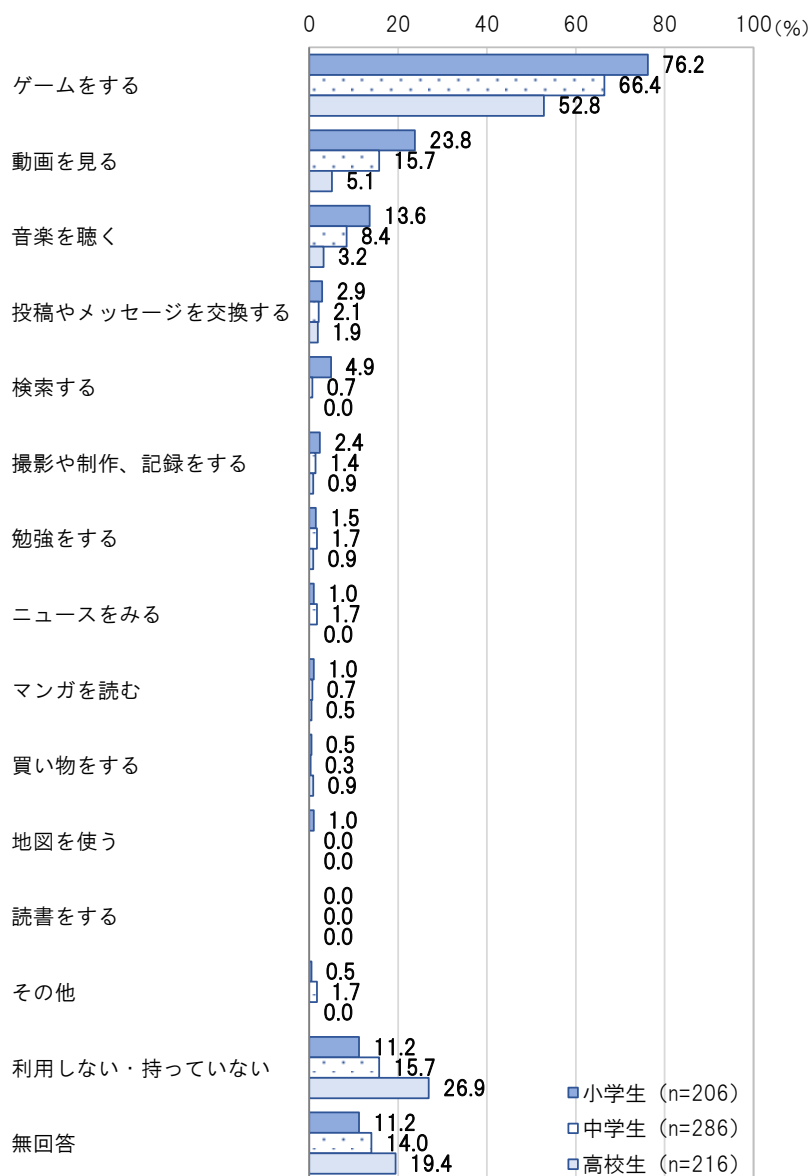
○また、「利用しない・持っていない」は18.0%となっており、利用している・持っている人が6割以上となっている。



## 《学年別比較》

○学年別にみると、学年が下がるにつれて「利用しない・持っていない」が低くなっており、ゲーム機の所持率は学年が下がるほど高くなっている。

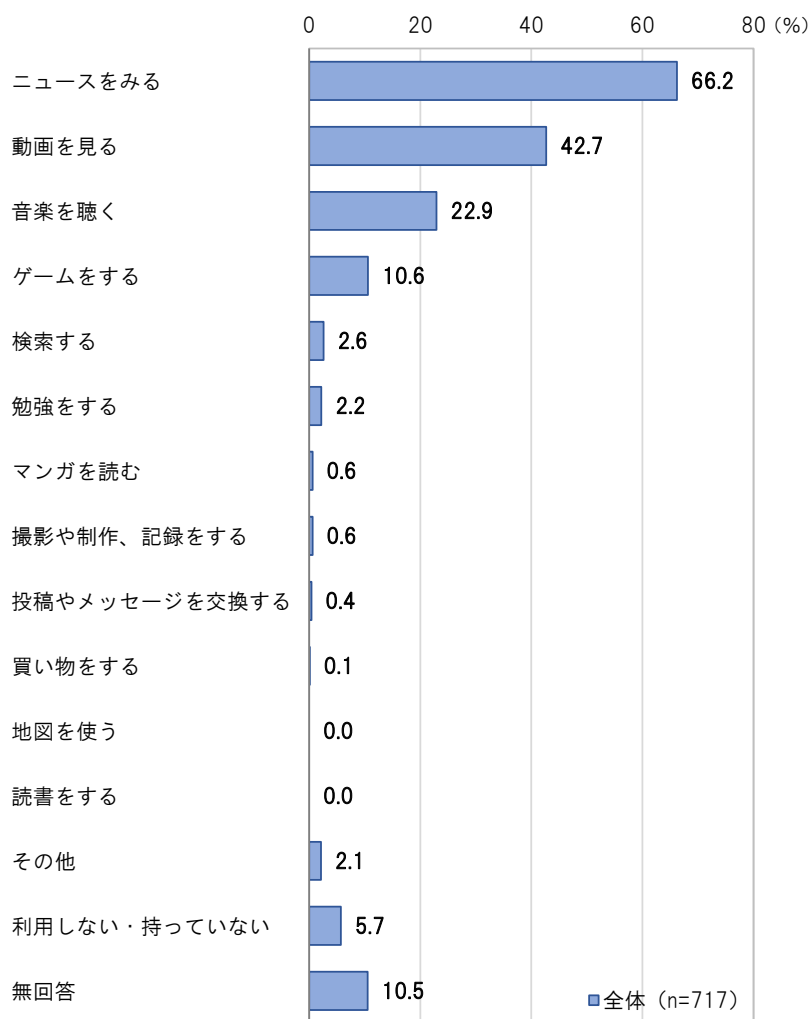
○ほぼすべての項目で、学年が下がるにつれて高くなっており、特に「ゲームをする」や「動画を見る」では、最も高い〔小学生〕と最も低い〔高校生〕で20ポイント程度の差がみられる。



## ⑥ テレビ

○テレビの利用目的は、「ニュースをみる」が66.2%と最も高く、次いで「動画を見る」(42.7%)、「音楽を聴く」(22.9%)となっており、その他の目的では2割未満となっている。

○また、「利用しない・持っていない」は5.7%となっており、利用している・持っている人が8割以上となっている。

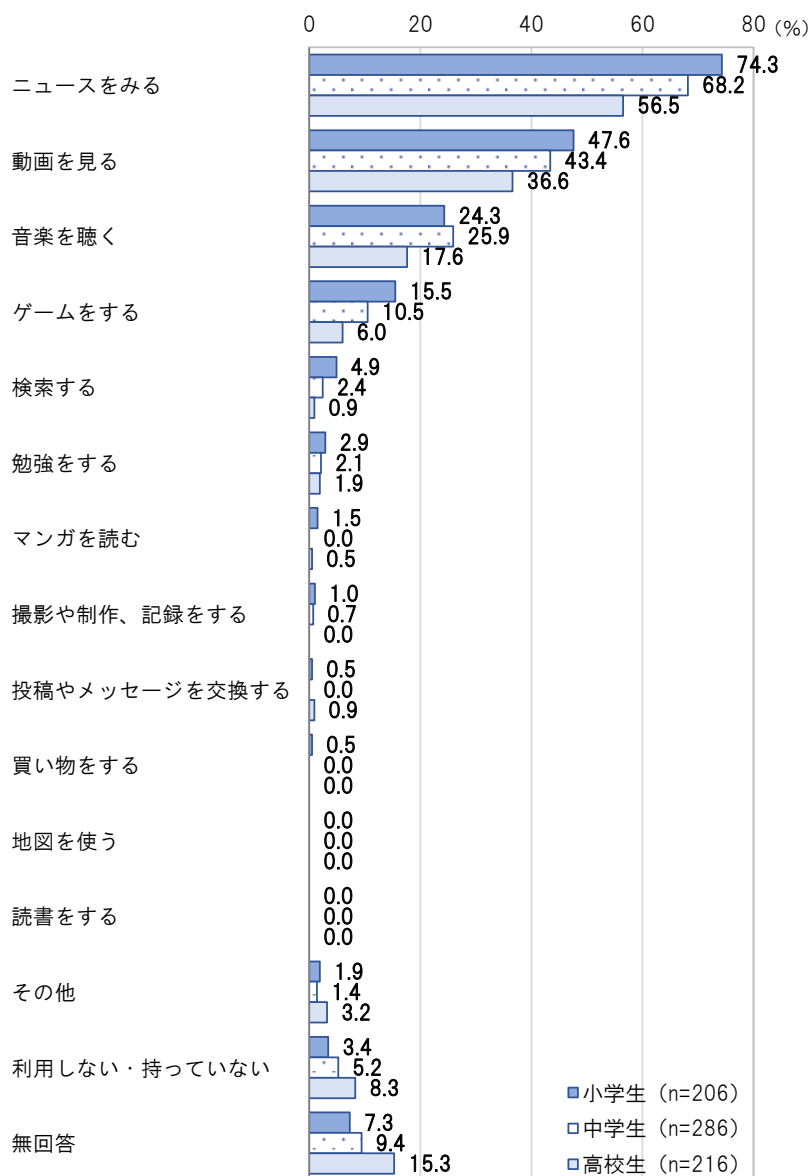




## 《学年別比較》

○学年別にみると、学年が下がるにつれて「利用しない・持っていない」が低くなっており、テレビの所持率は学年が下がるほど高くなっている。

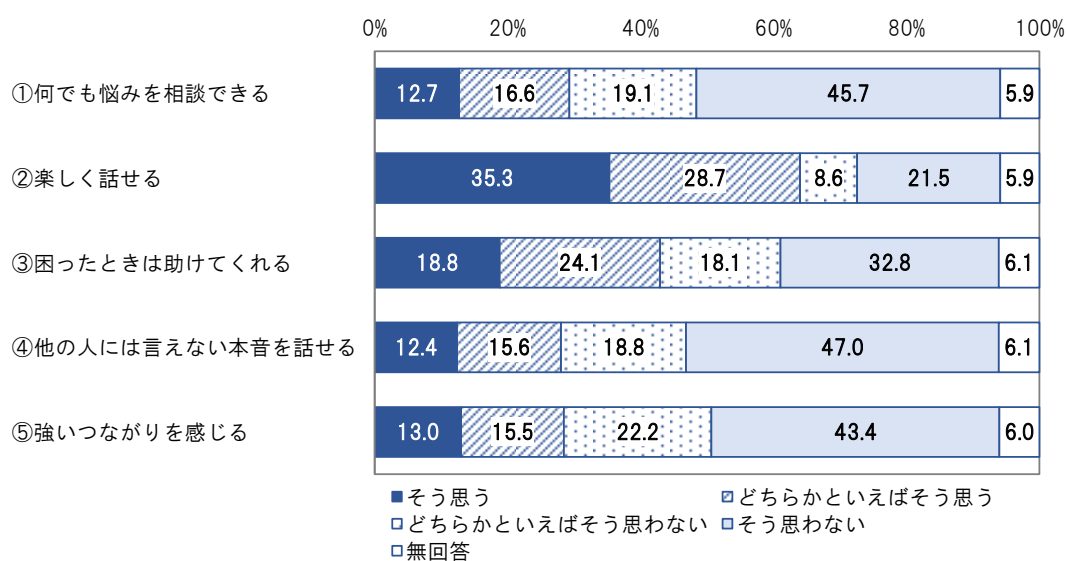
○ほぼすべての項目で、学年が下がるにつれて高くなっており、特に「ニュースをみる」や「動画を見る」では、最も高い〔小学生〕と最も低い〔高校生〕で10ポイント以上の差がみられる。



## (5) インターネットやSNSを利用したほかの人とのかかわり【問 18 単数回答】

○インターネットやSNSを利用したほかの人とのかかわりでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“②楽しく話せる”で64.0%と最も高く、次いで“③困ったときは助けてくれる”(42.9%)、“①何でも悩みを相談できる”(29.3%)となっている。

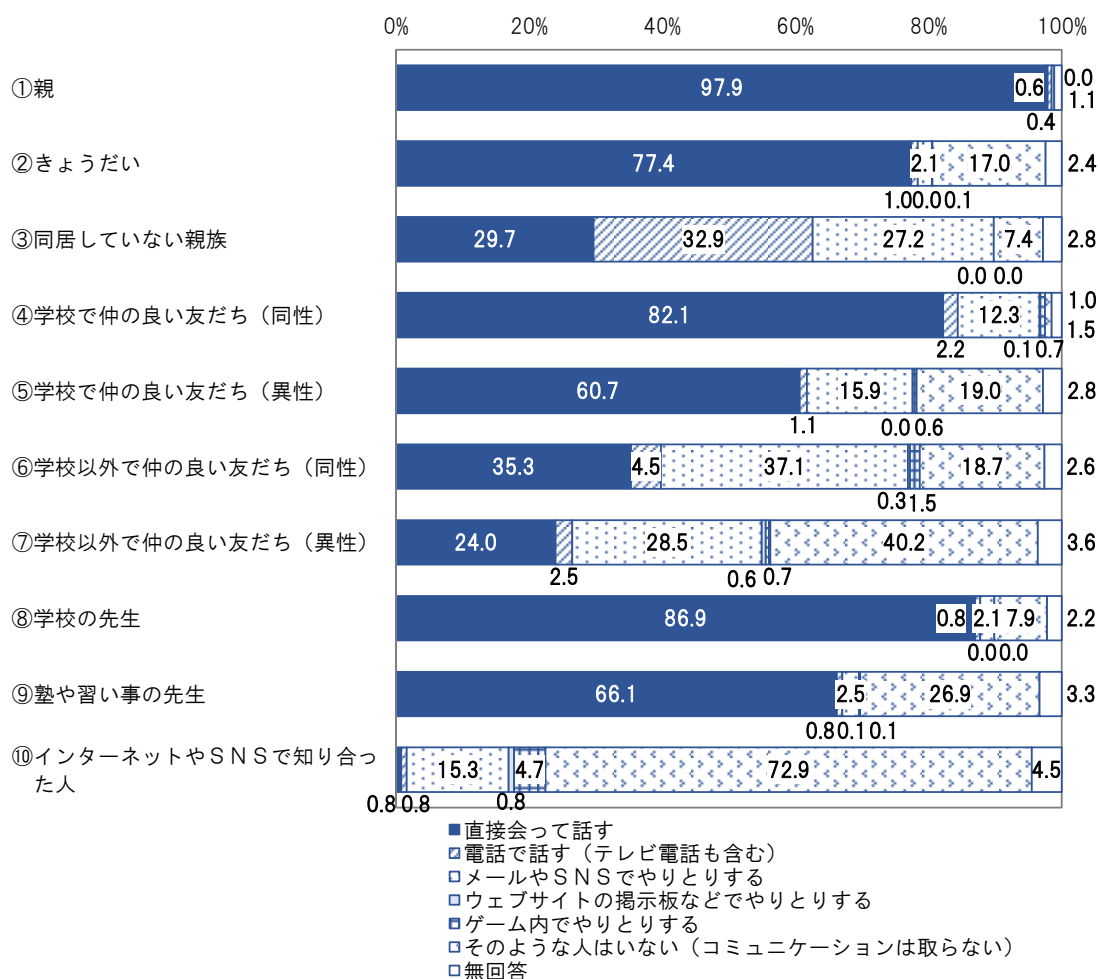
○「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみると、“④他の人には言えない本音を話せる”で65.8%と最も高く、次いで“⑤強いつながりを感じる”(65.6%)、“①何でも悩みを相談できる”(64.8%)となっている。



## （６）ふだんの生活の中で最も使うコミュニケーションの手段・方法【問 19 単数回答】

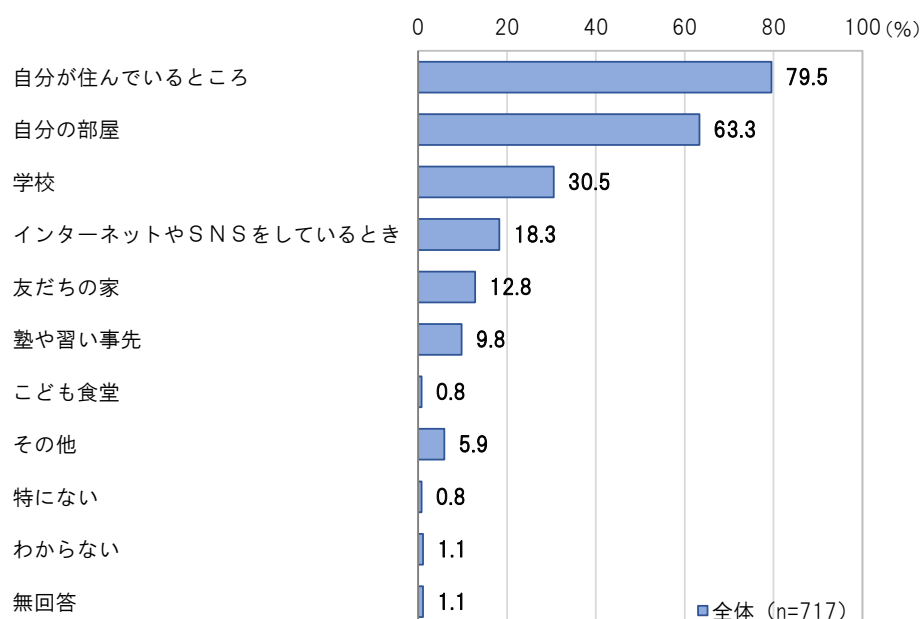
○ふだんの生活の中で最も使うコミュニケーションの手段・方法は、「直接会って話す」の割合をみると、“①親”で97.9%と最も高く、次いで“⑧学校の先生”（86.9%）、“④学校で仲の良い友だち（同性）”（82.1%）となっている。

○“③同居していない親族”では「電話で話す（テレビ電話も含む）」、「⑥学校以外で仲の良い友だち（同性）」や“⑦学校以外で仲の良い友だち（異性）」では「メールやSNSでやりとりする」が高くなっている。



## (7) 居心地がよいと感じる場所や時【問 20 複数回答】

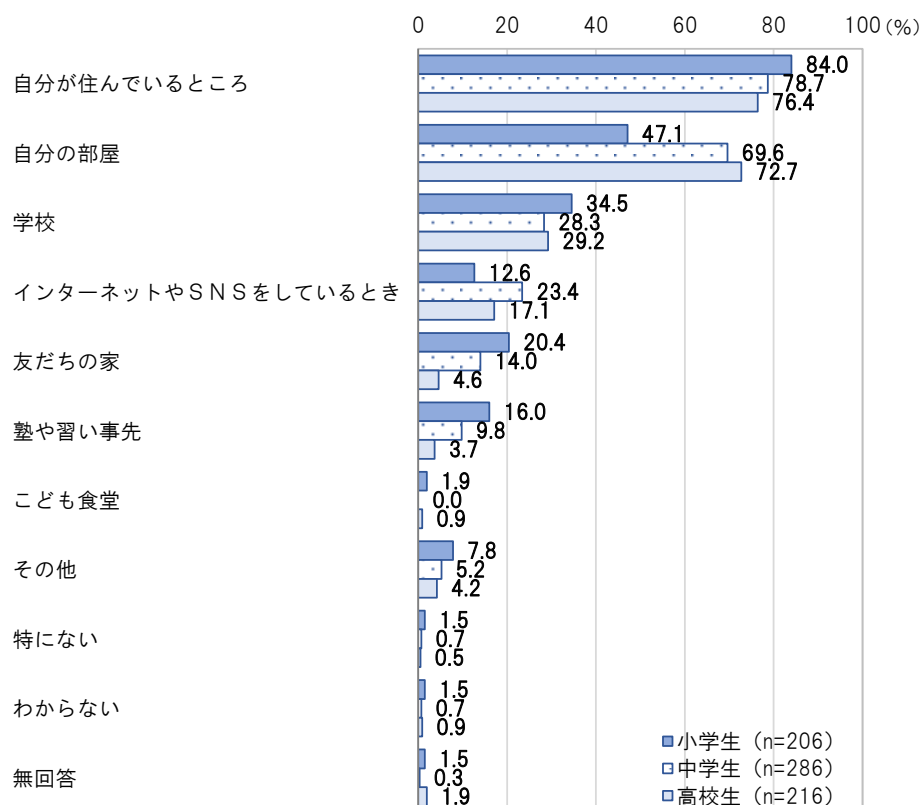
○居心地がよいと感じる場所や時は、「自分が住んでいるところ」が79.5%と最も高く、次いで「自分の部屋」(63.3%)、「学校」(30.5%)となっている。



### 《学年別比較》

○学年別にみると、すべての学年で「自分が住んでいるところ」が最も高くなっている。

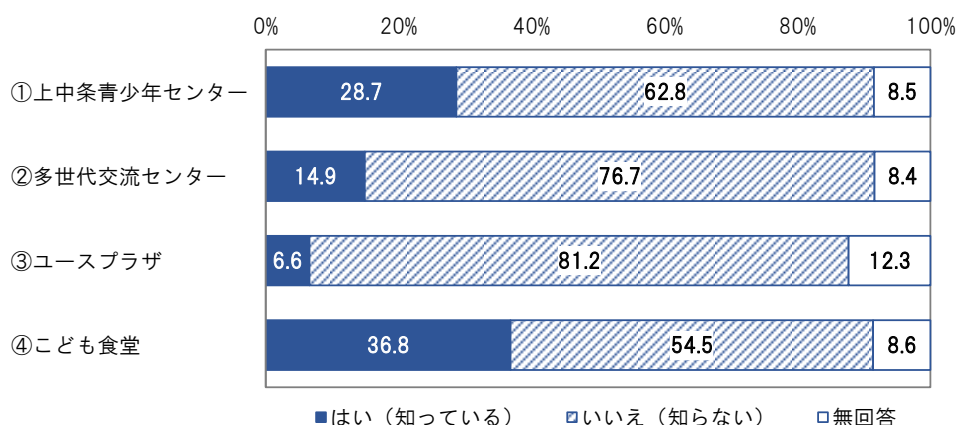
○また、[小学生]では「学校」、[中学生]では「インターネットやSNSをしているとき」が、それぞれその他の学年に比べてやや高くなっている。



## （８）学校以外の市内の公共施設等について【問 21 単数回答】

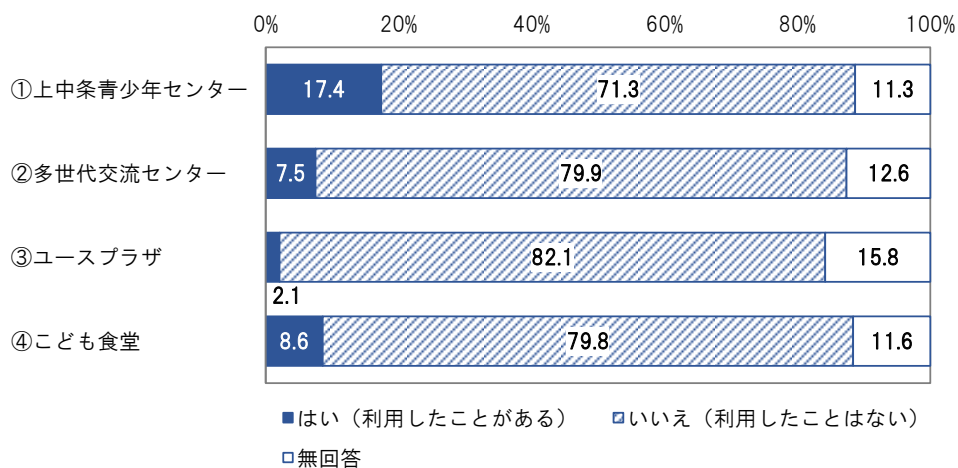
### ① 学校以外の市内の公共施設等の認知度

○学校以外の市内の公共施設等の認知度は、「はい（知っている）」の割合をみると、“④こども食堂”で 36.8%と最も高く、次いで“①上中条青少年センター”（28.7%）となっているものの、すべての施設で「いいえ（知らない）」が最も高くなっている。



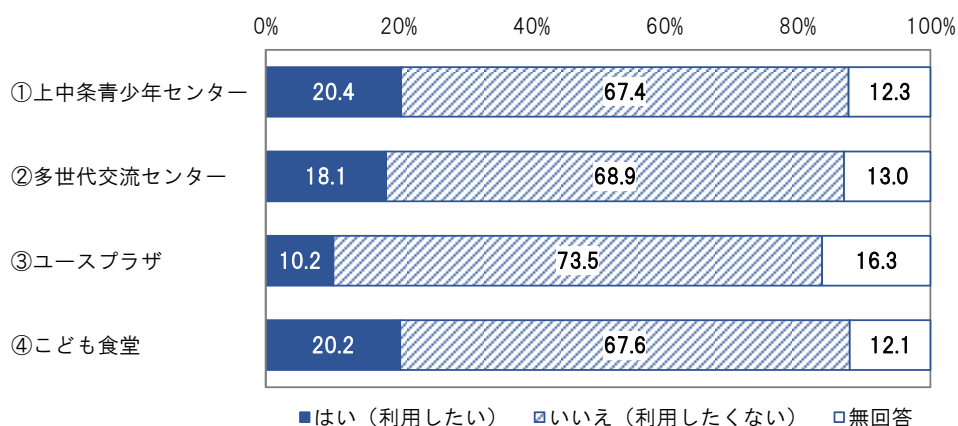
### ② 学校以外の市内の公共施設等の利用状況

○学校以外の市内の公共施設等の利用状況は、「はい（利用したことがある）」の割合をみると、“①上中条青少年センター”で 17.4%と最も高く、次いで“④こども食堂”（8.6%）となっているものの、すべての施設で「いいえ（利用したことはない）」が最も高くなっている。



### ③ 学校以外の市内の公共施設等の今後の利用意向

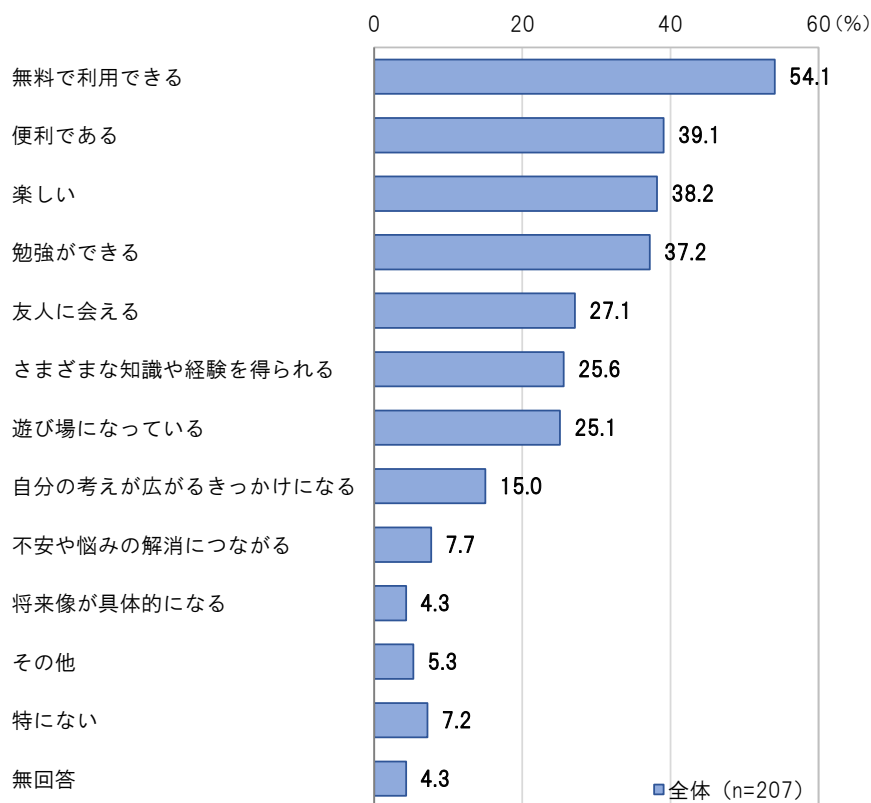
○学校以外の市内の公共施設等の今後の利用意向は、「はい（利用したい）」の割合をみると、“①上中条青少年センター”で20.4%と最も高く、次いで“④こども食堂”（20.2%）となっているものの、すべての施設で「いいえ（利用したくない）」が最も高くなっている。



### （8-1）公共施設等を利用することでの良い点【問 21-1 複数回答】

※（8）②でいずれかの施設において「はい（利用したことがある）」と回答した人のみ

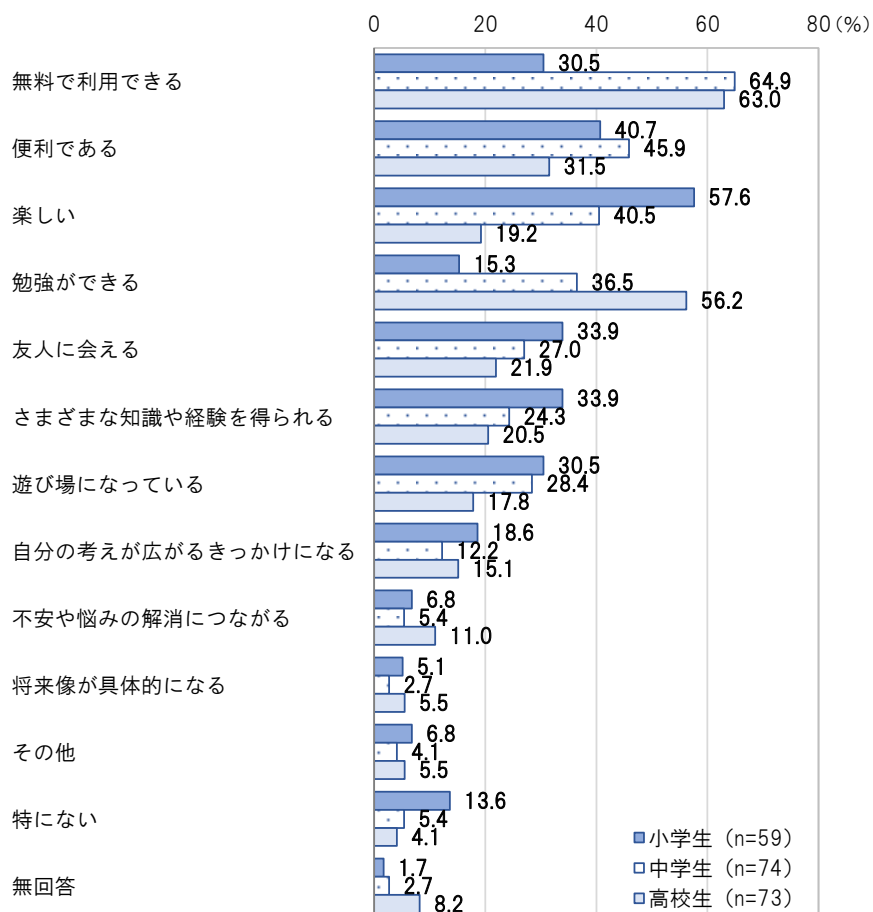
○施設等を利用することでの良い点は、「無料で利用できる」が54.1%と最も高く、次いで「便利である」（39.1%）、「楽しい」（38.2%）、「勉強ができる」（37.2%）となっている。



## 《学年別比較》

○学年別にみると、[小学生]では「楽しい」、[中学生][高校生]では「無料で利用できる」が最も高くなっている。

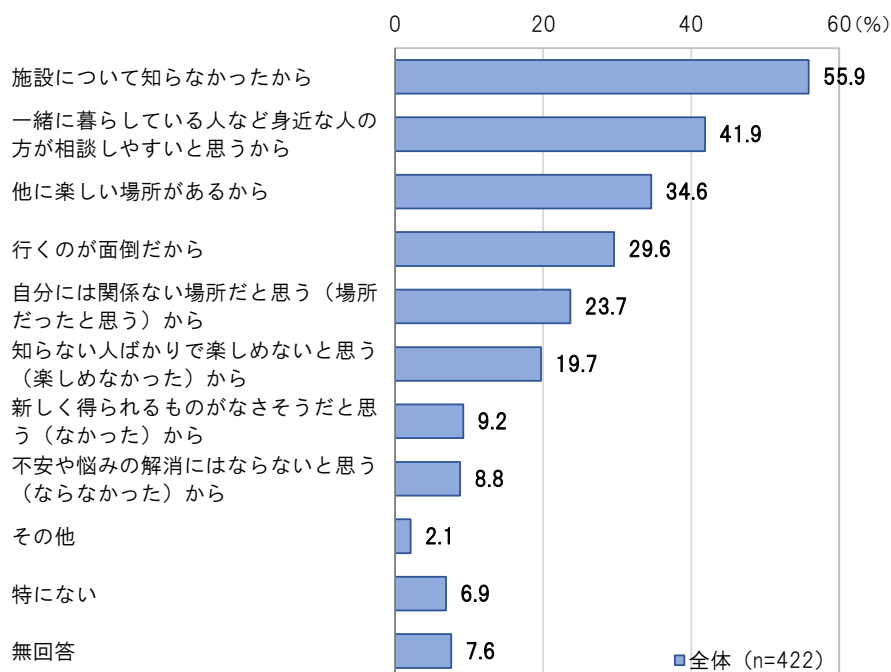
○学年が下がるにつれて、「楽しい」や「友人に会える」、「さまざまな知識や経験を得られる」、「遊び場になっている」などが高くなり、学年が上がるにつれて「勉強ができる」が高くなる傾向がみられる。



## （８－２）公共施設等を利用しない理由【問 21-2 複数回答】

※（８）②ですべての施設において「いいえ（利用したことはない）」と回答した人のみ

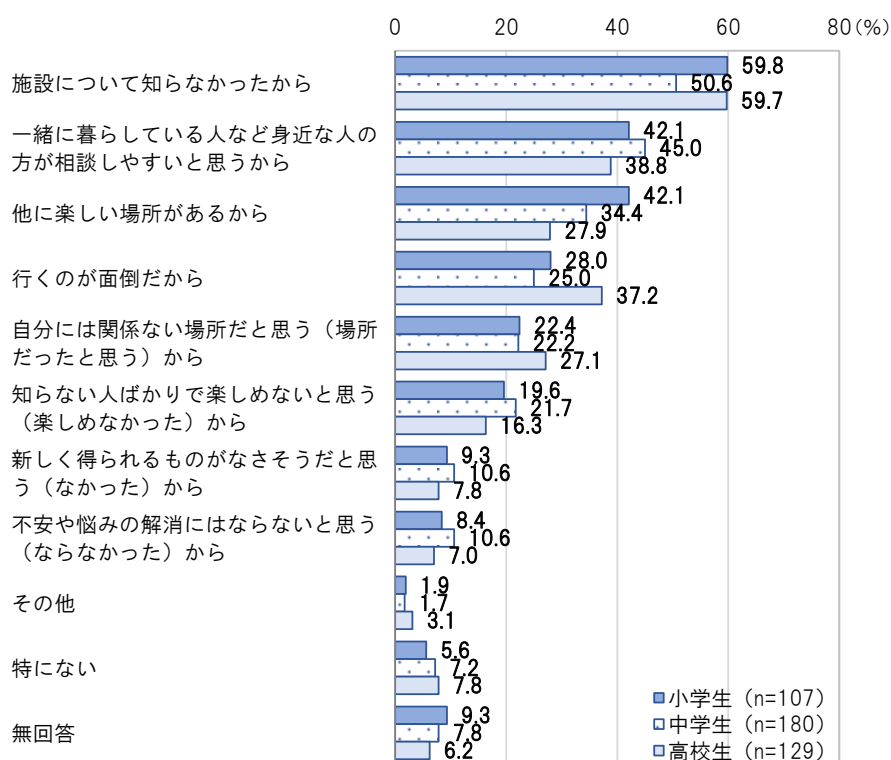
○公共施設等を利用しない理由は、「施設について知らなかったから」が 55.9%と最も高く、次いで「一緒に暮らしている人など身近な人の方が相談しやすいと思うから」(41.9%)、「他に楽しい場所があるから」(34.6%)となっている。



### 《学年別比較》

○学年別にみると、すべての学年で「施設について知らなかったから」が最も高くなっている。

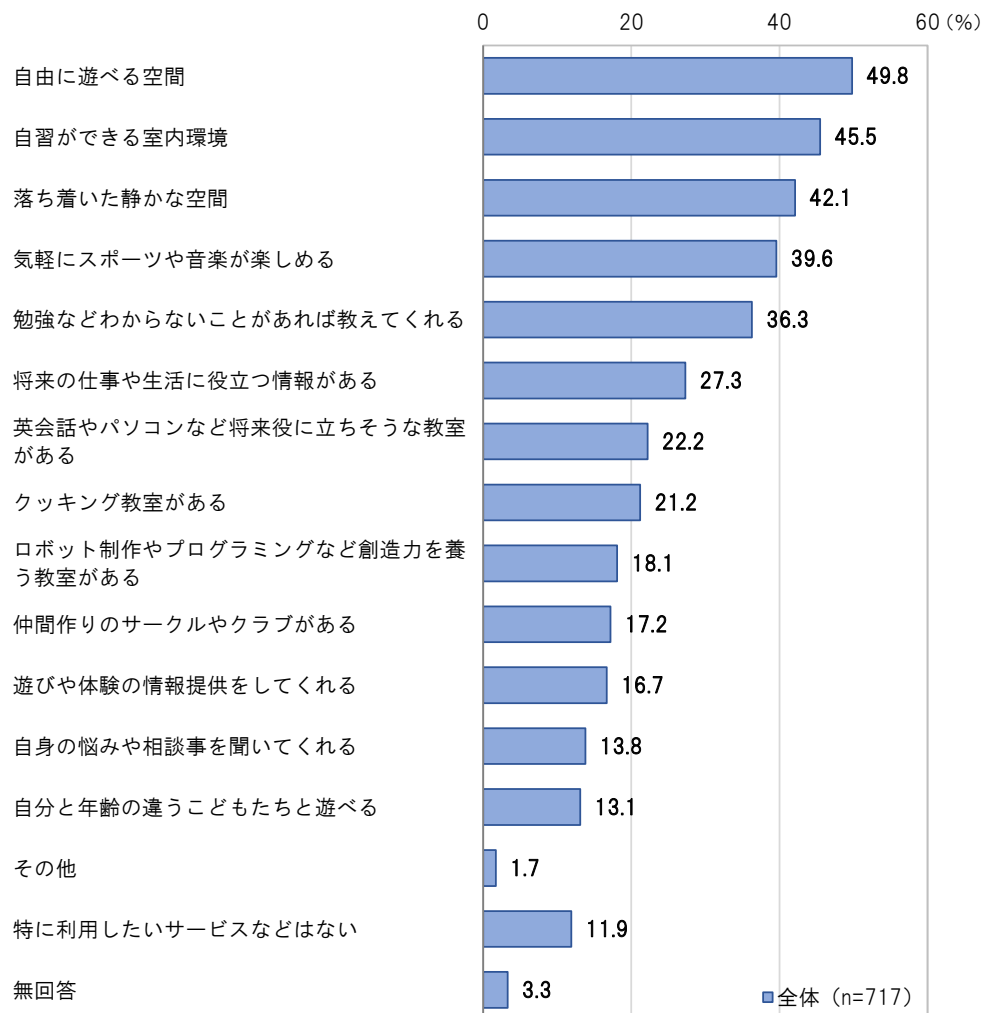
○また、学年が下がるにつれて「他に楽しい場所があるから」が高くなっている。





(9) 公共施設を利用するためにあれば良い企画やサービス【問 22 複数回答】

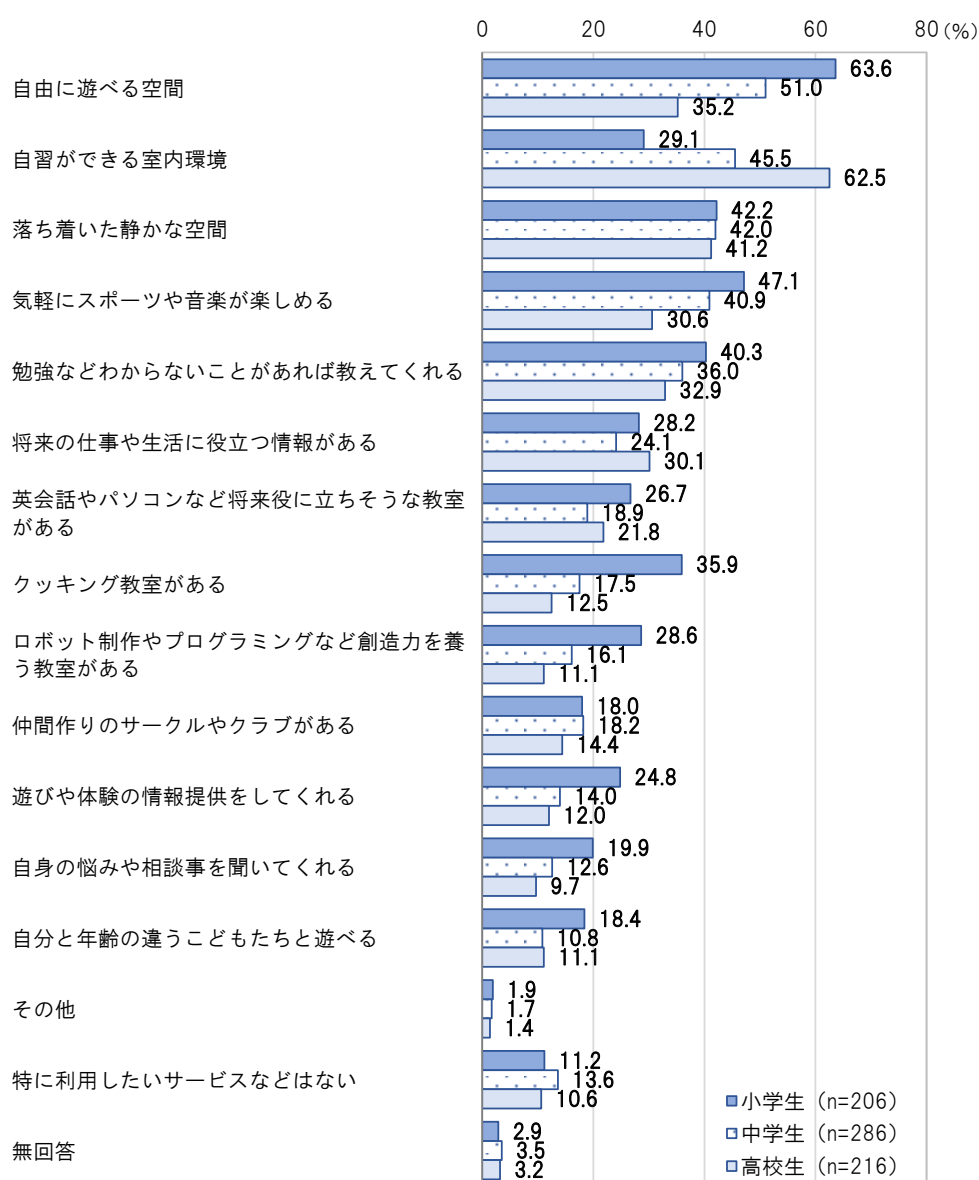
○公共施設を利用するためにあれば良い企画やサービスは、「自由に遊べる空間」が 49.8%と最も高く、次いで「自習ができる室内環境」(45.5%)、「落ち着いた静かな空間」(42.1%)となっている。



## 《学年別比較》

○学年別にみると、[小学生][中学生]では「自由に遊べる空間」、[高校生]では「自習ができる室内環境」が最も高くなっている。

○学年が下がるにつれて、「自由に遊べる空間」や「気軽にスポーツや音楽が楽しめる」、「勉強などわからないことがあれば教えてくれる」、「クッキング教室がある」、「ロボット制作やプログラミングなど創造力を養う教室がある」、「遊びや体験の情報提供をしてくれる」、「自身の悩みや相談事を聞いてくれる」などが高くなり、学年が上がるにつれて「自習ができる室内環境」が高くなる傾向がみられる。

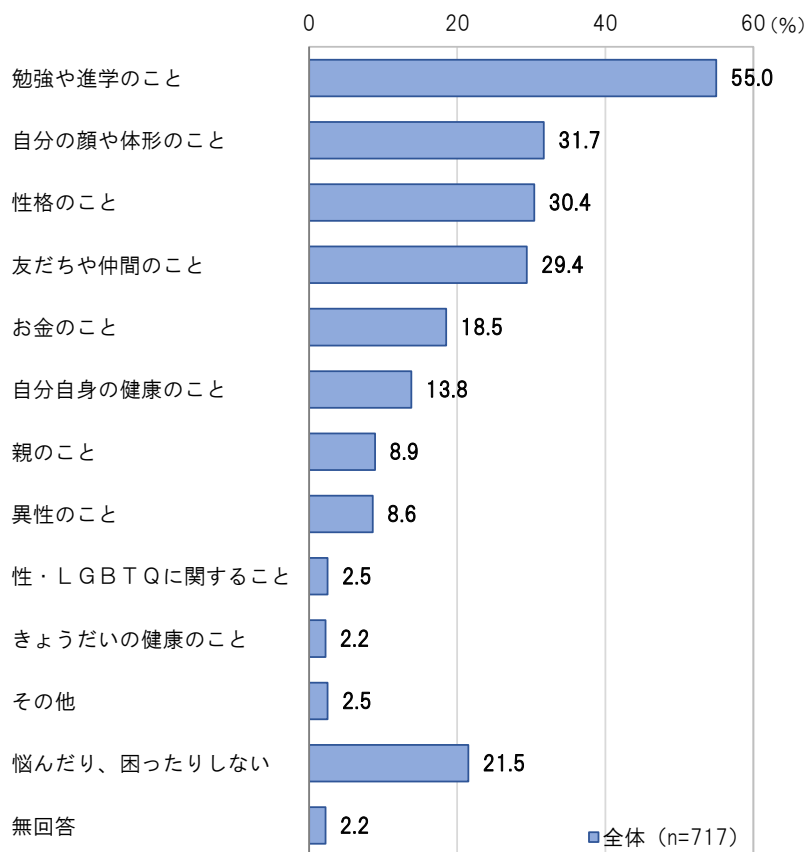


## 5. 悩みなどのふだんの相談先について

### (1) ふだん悩んだり困ったりしていること【問 23 複数回答】

○ふだん悩んだり困ったりしていることは、「勉強や進学のこと」が55.0%と最も高く、次いで「自分の顔や体形のこと」(31.7%)、「性格のこと」(30.4%)、「友だちや仲間のこと」(29.4%)となっている。

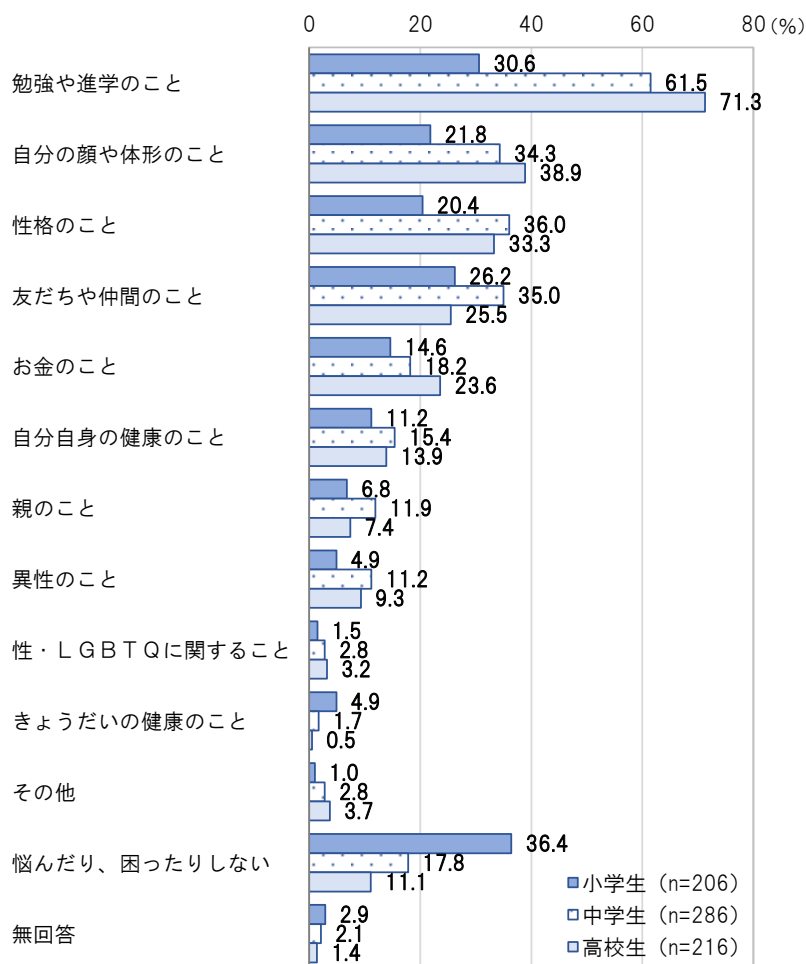
○また、「悩んだり、困ったりしない」が21.5%と2割以上となっている。



## 《学年別比較》

○学年別にみると、学年が下がるにつれて「悩んだり、困ったりしない」が高くなっており、悩み事や困り事のある人は学年が上がるほど多くなっている。

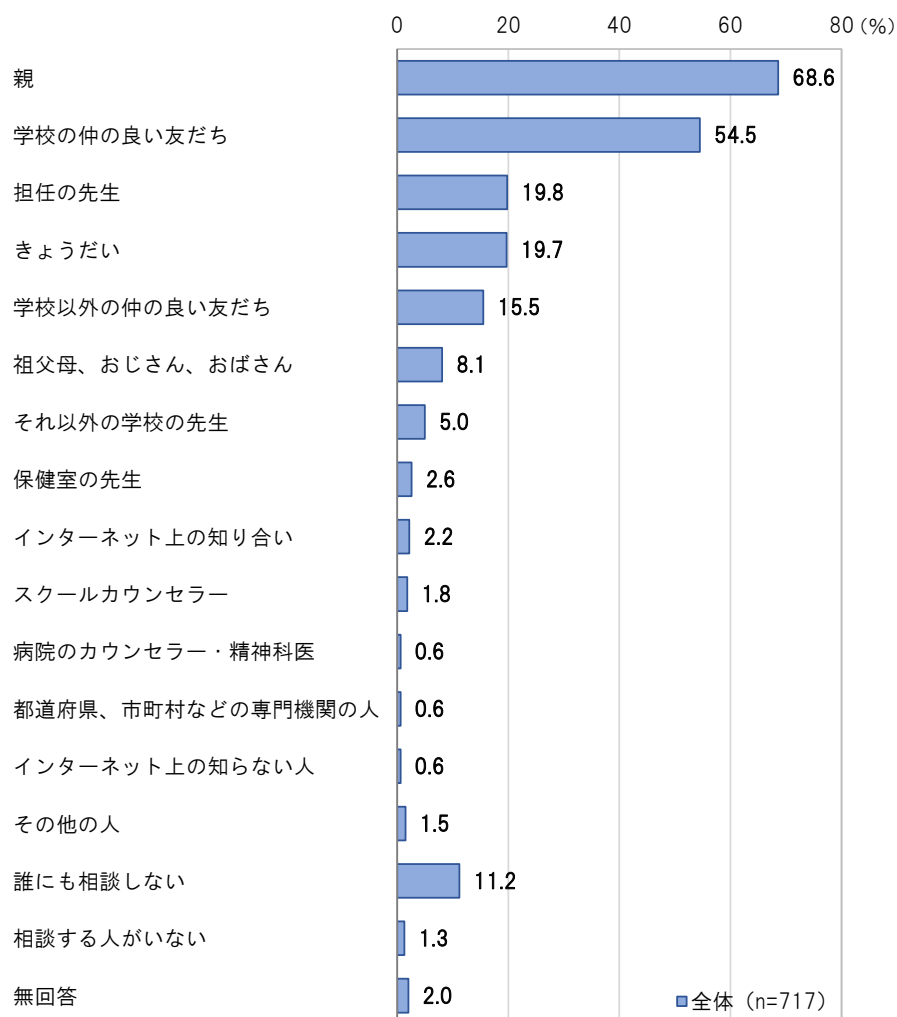
○学年が上がるにつれて、「勉強や進学のこと」や「自分の顔や体形のこと」、「お金のこと」、「性・LGBTQに関すること」などが高くなり、学年が下がるにつれて「きょうだいの健康のこと」がやや高くなる傾向がみられる。



## (2) ふだんの悩み事の相談先【問 24 複数回答】

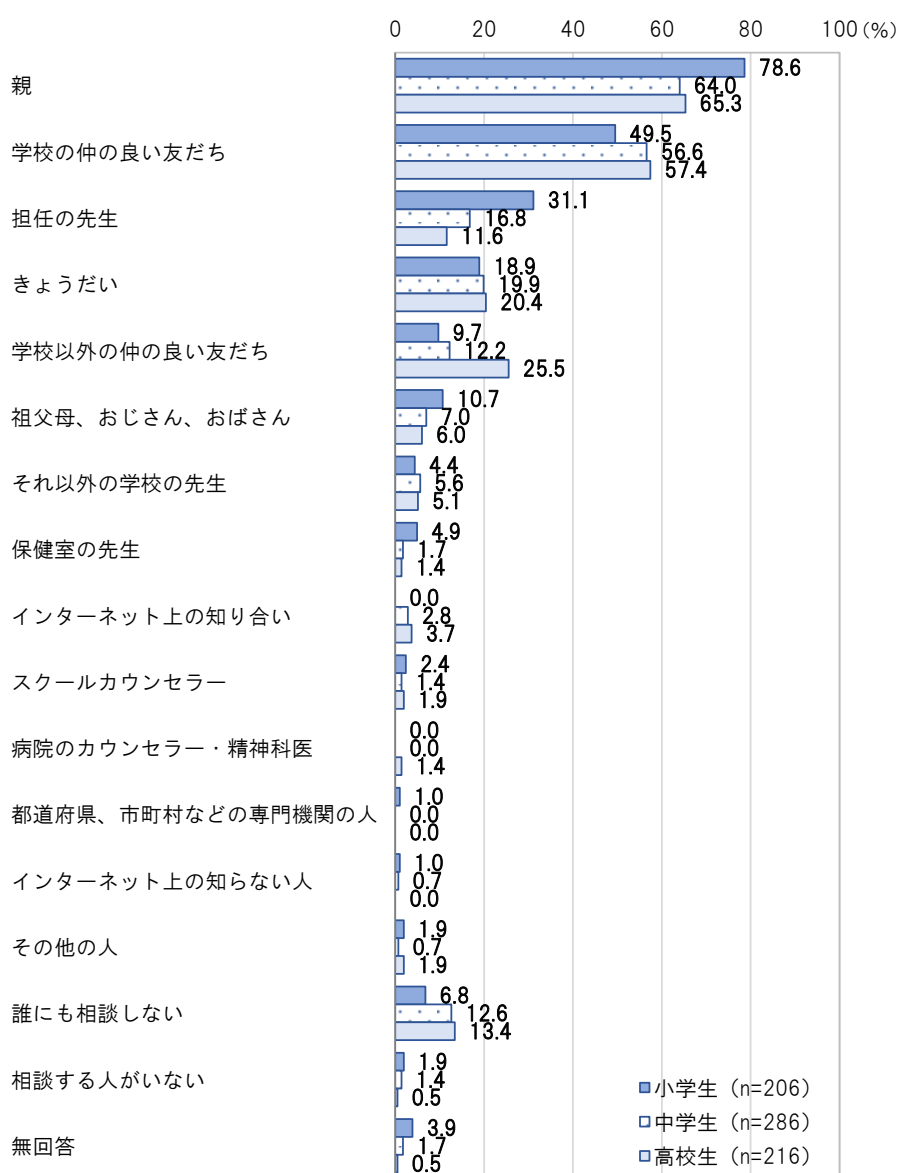
○ふだんの悩み事の相談先は、「親」が 68.6%と最も高く、次いで「学校の仲の良い友だち」(54.5%)、「担任の先生」(19.8%)、「きょうだい」(19.7%)となっている。

○また、「誰にも相談しない」が 11.2%と 1 割以上となっている。



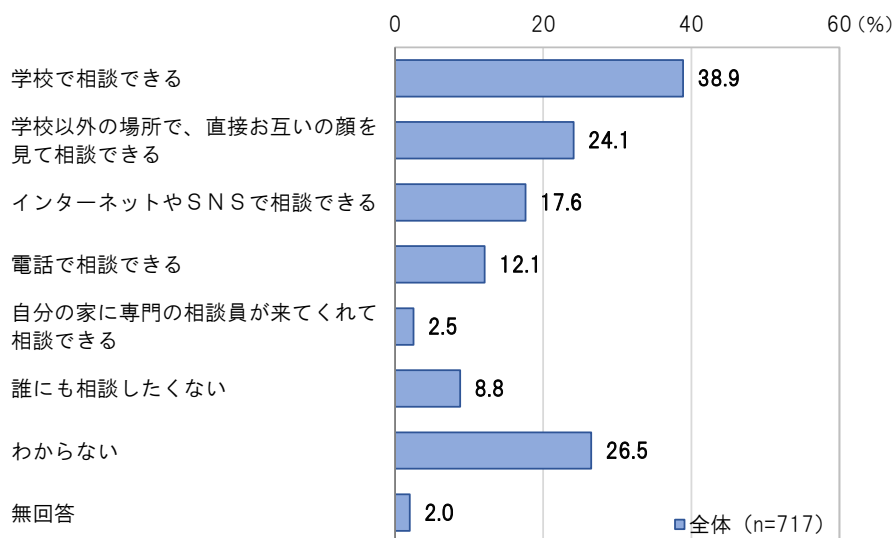
## 《学年別比較》

- 学年別にみると、すべての学年で「親」が最も高くなっており、特に「小学生」では8割近くを占めている。
- 学年が下がるにつれて、「担任の先生」や「祖父母、おじさん、おばさん」、「保健室の先生」などが高くなり、学年が上がるにつれて「学校の仲の良い友だち」や「学校以外の仲の良い友だち」、「インターネット上の知り合い」が高くなる傾向がみられる。
- また、「誰にも相談しない」は学年が上がるにつれて高くなっており、「中学生」「高校生」では1割を超えている。



### (3) 困り事や悩み事があるときに相談しやすい方法【問 25 複数回答】

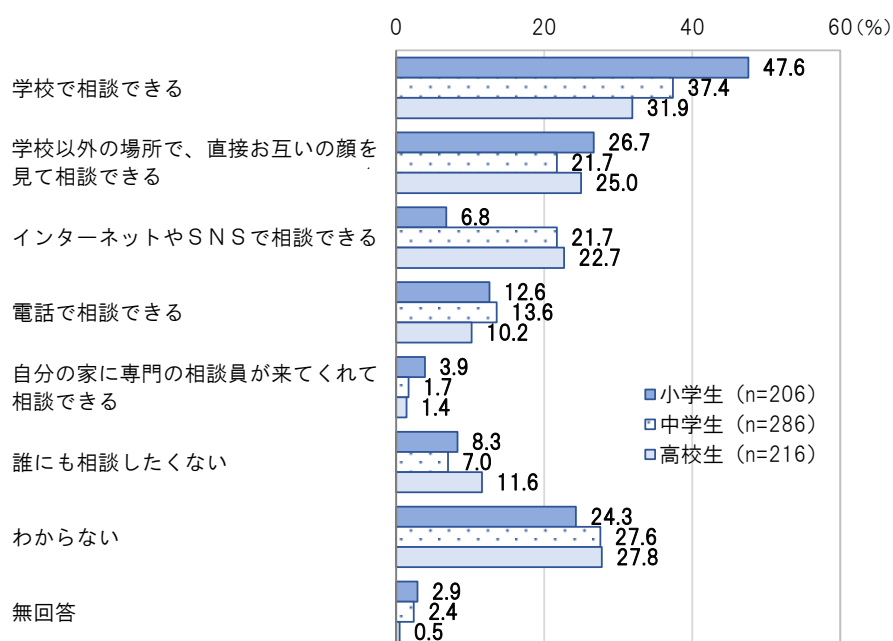
○困り事や悩み事があるときに相談しやすい方法は、「学校で相談できる」が 38.9%と最も高く、次いで「学校以外の場所で、直接お互いの顔を見て相談できる」(24.1%)、「インターネットやSNSで相談できる」(17.6%)となっている。



#### 《学年別比較》

○学年別にみると、すべての学年で「学校で相談できる」が最も高く、特に〔小学生〕では 47.6%と半数近くを占めている。

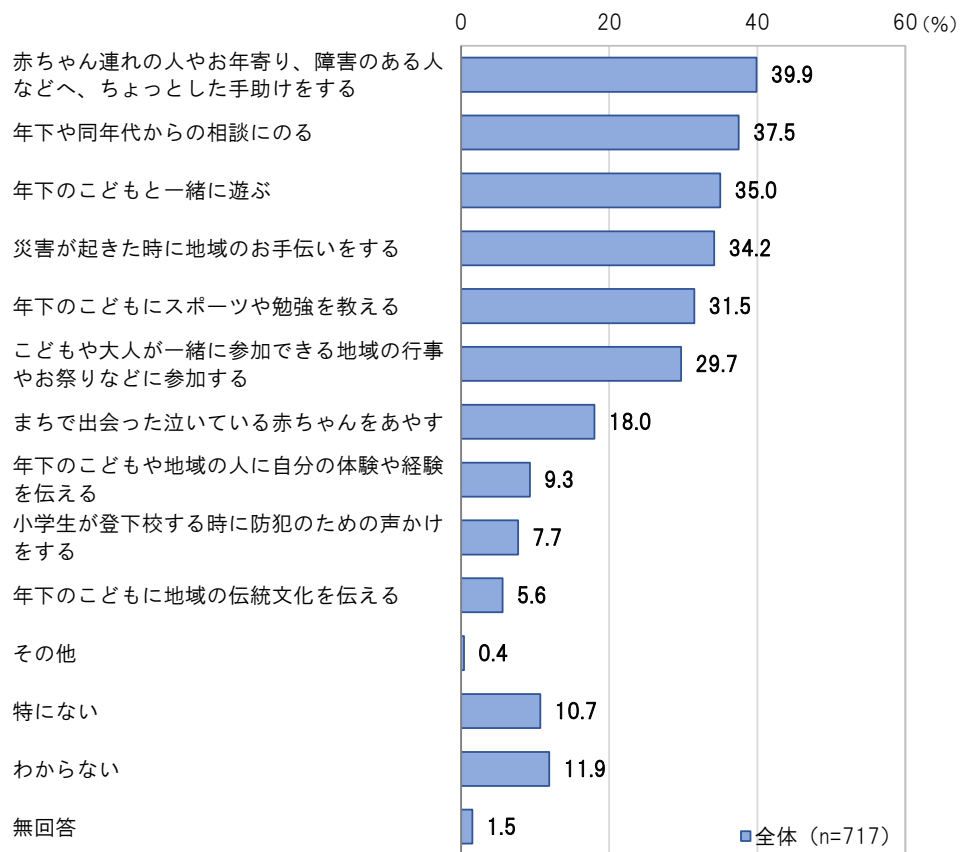
○また、学年が上がるにつれて「インターネットやSNSで相談できる」が高くなっており、〔中学生〕〔高校生〕では2割を超えている。



## 6. 地域の役に立てる支援について

### (1) 住んでいる地域で役に立ちたいと思う行動【問26 複数回答】

○住んでいる地域で役に立ちたいと思う行動は、「赤ちゃん連れの人やお年寄り、障害のある人などへ、ちょっとした手助けをする」が39.9%と最も高く、次いで「年下や同年代からの相談にのる」(37.5%)、「年下のこどもと一緒に遊ぶ」(35.0%)となっている。

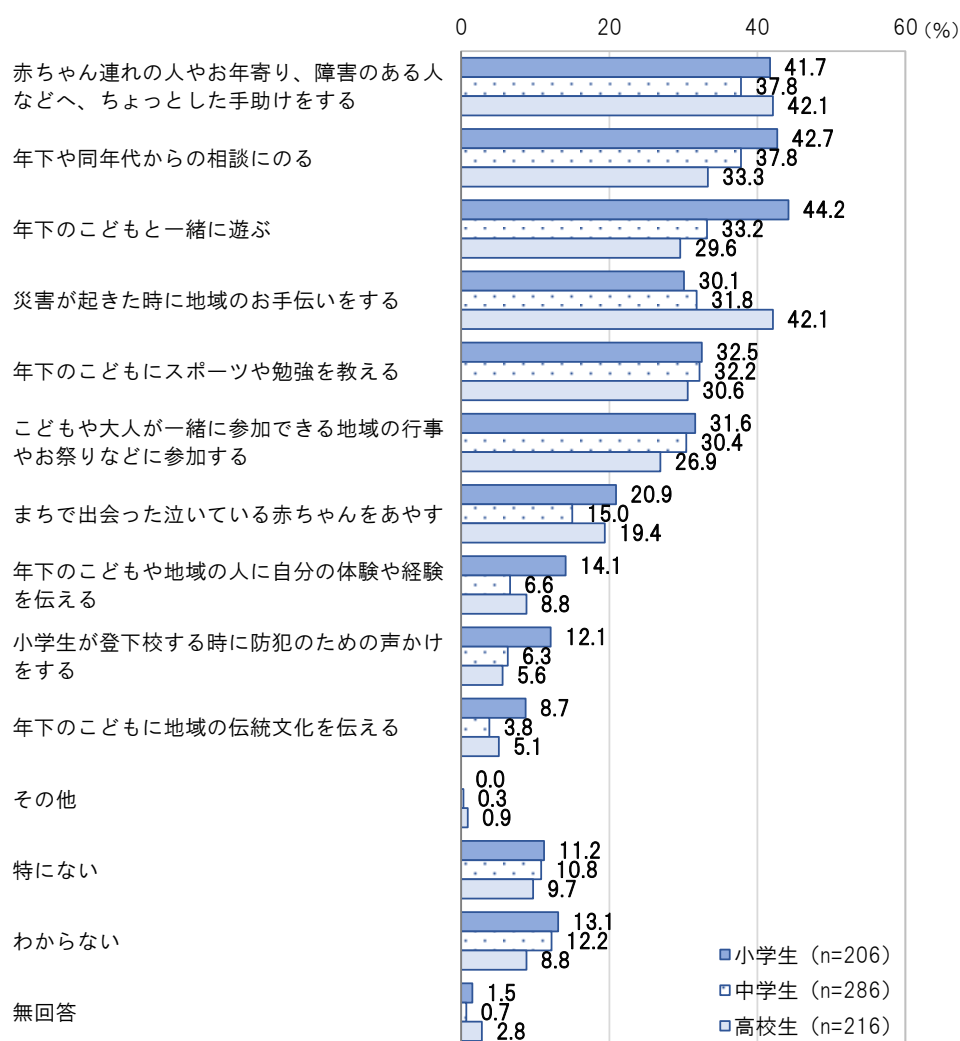




## 《学年別比較》

○学年別にみると、[小学生]では「年下のこどもと一緒に遊ぶ」、[中学生]では「赤ちゃん連れの人やお年寄り、障害のある人などへ、ちょっとした手助けをする」や「年下や同年代からの相談にのる」、[高校生]では「赤ちゃん連れの人やお年寄り、障害のある人などへ、ちょっとした手助けをする」や「災害が起きた時に地域のお手伝いをする」が最も高くなっている。

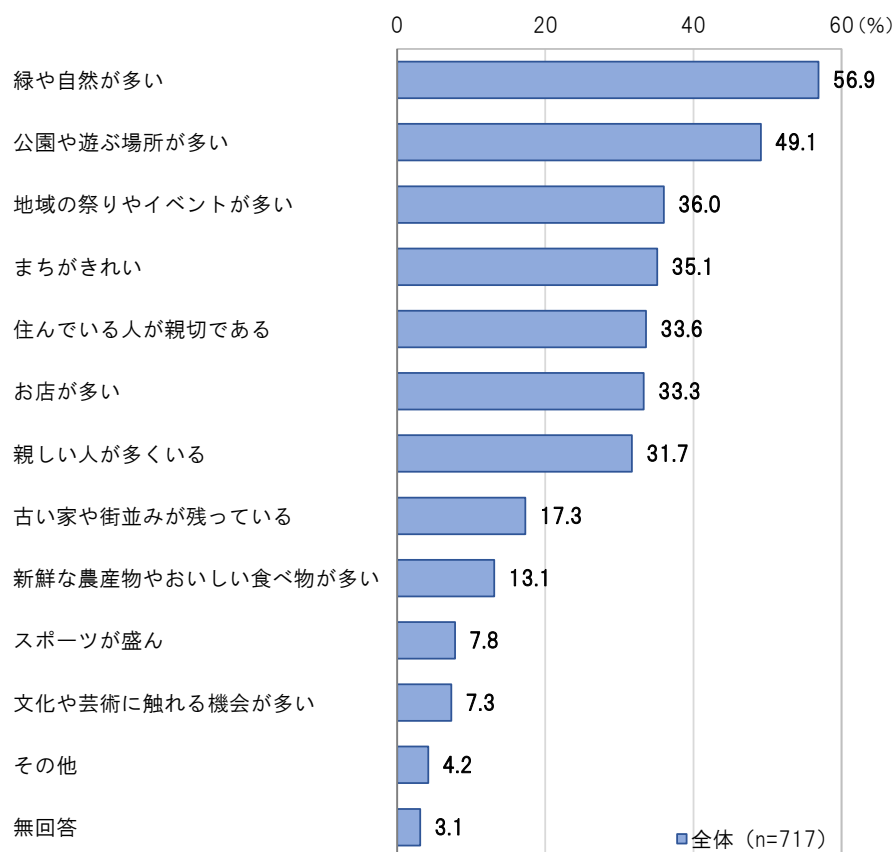
○学年が下がるにつれて、「年下や同年代からの相談にのる」や「年下のこどもと一緒に遊ぶ」、「年下のこどもにスポーツや勉強を教える」、「こどもや大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどに参加する」、「小学生が登下校する時に防犯のための声かけをする」などが高くなり、学年が上がるにつれて「災害が起きた時に地域のお手伝いをする」が高くなる傾向がみられる。



## 7. 茨木市での暮らしについて

### (1) 茨木市の良いなと思うところ【問 27 複数回答】

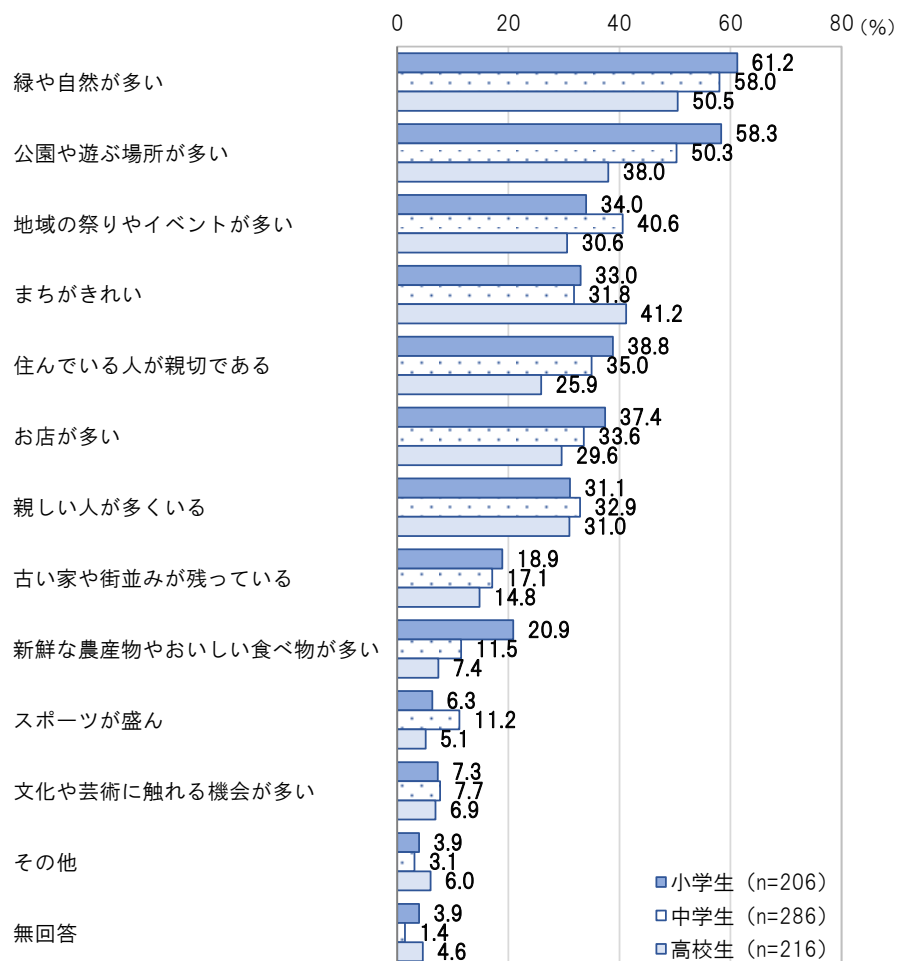
○茨木市の良いなと思うところは、「緑や自然が多い」が 56.9%と最も高く、次いで「公園や遊ぶ場所が多い」(49.1%)、「地域の祭りやイベントが多い」(36.0%)、「まちがきれい」(35.1%)となっている。



## 《学年別比較》

○学年別にみると、すべての学年で「緑や自然が多い」が最も高くなっている。

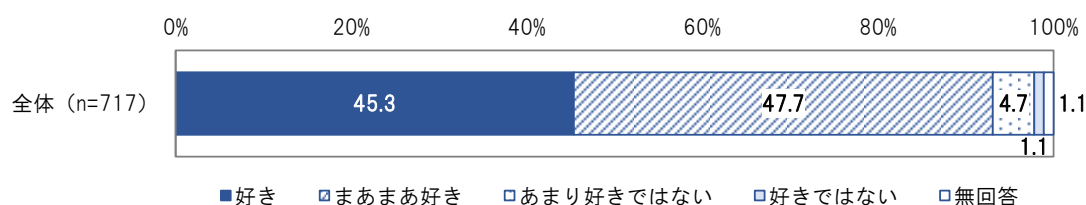
○学年が下がるにつれて、「緑や自然が多い」や「公園や遊ぶ場所が多い」、「住んでいる人が親切である」、「お店が多い」、「古い家や街並みが残っている」、「新鮮な農産物やおいしい食べ物が多い」などが高くなる傾向がみられる。



## (2) 茨木市が好きか【問 28 単数回答】

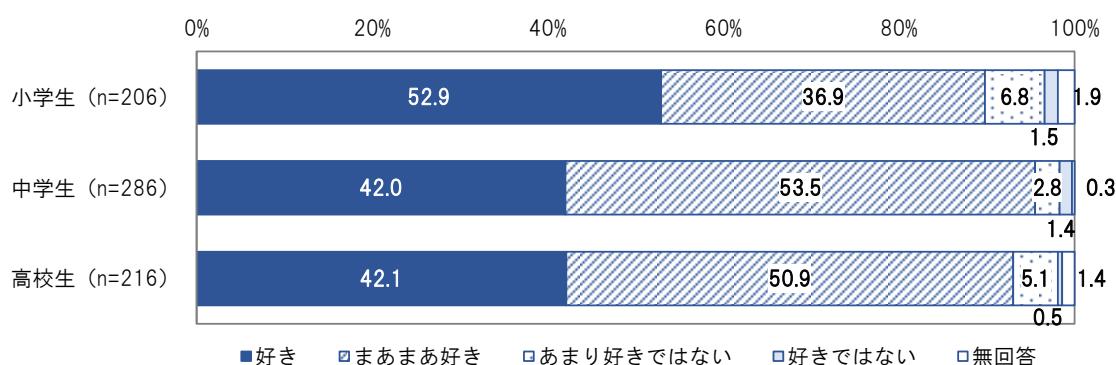
○茨木市が好きかどうかは、「まあまあ好き」が 47.7%と最も高く、「好き」(45.3%)と合わせると、『好き』が9割以上を占めている。

○「あまり好きではない」(4.7%)と「好きではない」(1.1%)を合わせた『好きではない』が5.8%となっている。



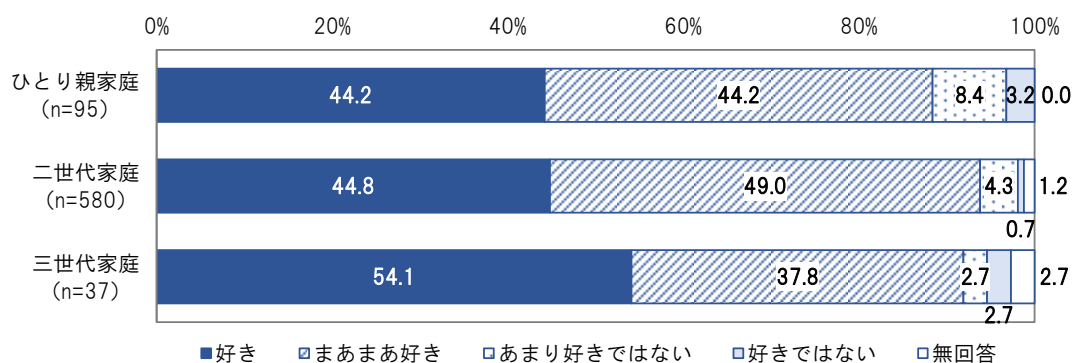
### 《学年別比較》

○学年別にみると、[小学生]では「好き」が半数以上を占め、その他の学年に比べて高くなっている。一方で、『好きではない』の割合をみると、[小学生]が8.3%と1割近くを占め、その他の学年に比べて高くなっている。



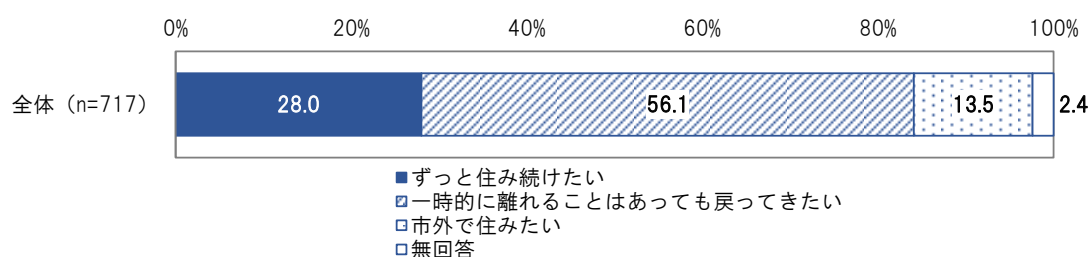
### 《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、[ひとり親家庭]では『好きではない』が11.6%と1割を超え、その他の家庭類型に比べて高くなっている。



### （３）今後の茨木市での居住意向【問 29 単数回答】

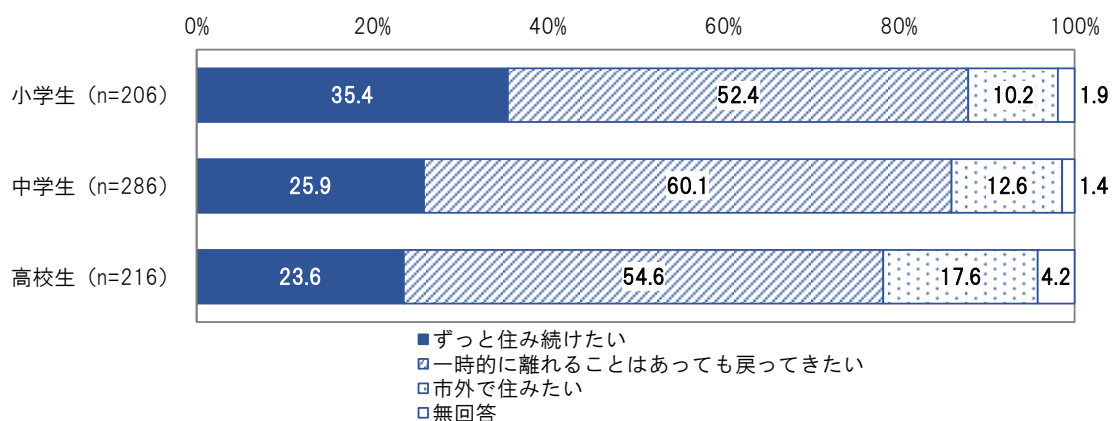
○今後の茨木市での居住意向は、「一時的に離れることはあっても戻ってきたい」が 56.1%と最も高くなっており、「ずっと住み続けたい」は 28.0%となっている。



#### 《学年別比較》

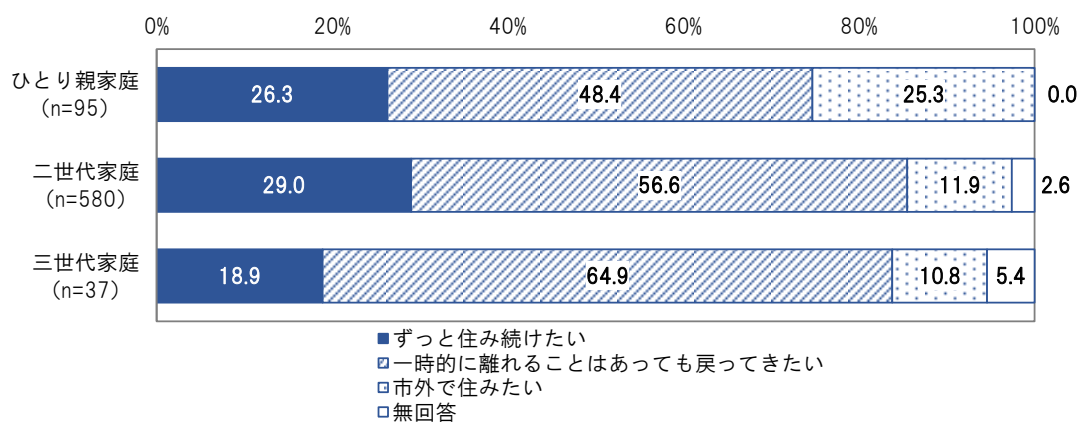
○学年別にみると、学年が下がるにつれて「ずっと住み続けたい」が高くなる傾向がみられる。

○また、学年が上がるにつれて「市外で住みたい」が高くなる傾向がみられる。



#### 《家庭類型別比較》

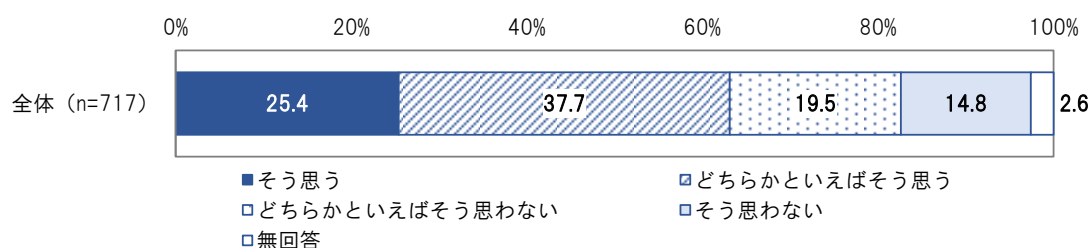
○家庭類型別にみると、[ひとり親家庭] では「市外で住みたい」が 25.3%と 2 割を超え、その他の家庭類型に比べて高くなっている。



#### （４）大人になったときに、結婚していると思うか【問 30 単数回答】

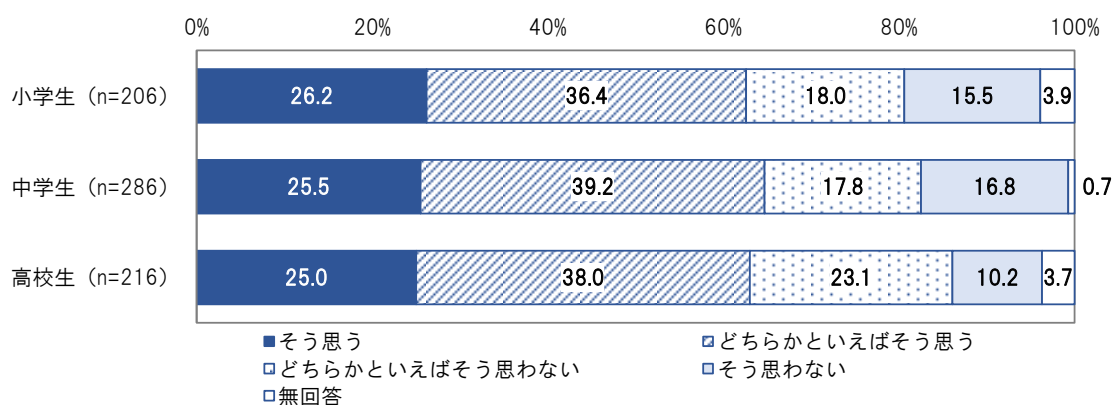
○大人になったときに結婚していると思うかは、「どちらかといえばそう思う」が 37.7%と最も高く、「そう思う」(25.4%) と合わせると、『(結婚していると) 思う』が6割以上となっている。

○一方で、「どちらかといえばそう思わない」(19.5%) と「そう思わない」(14.8%) を合わせた、『(結婚していると) 思わない』が3割以上となっている。



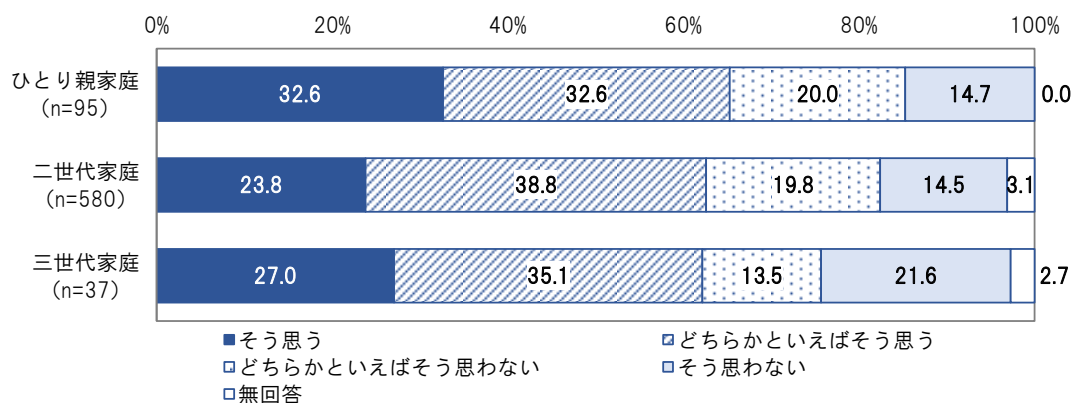
#### 《学年別比較》

○学年別による大きな差異はみられない。



#### 《家庭類型別比較》

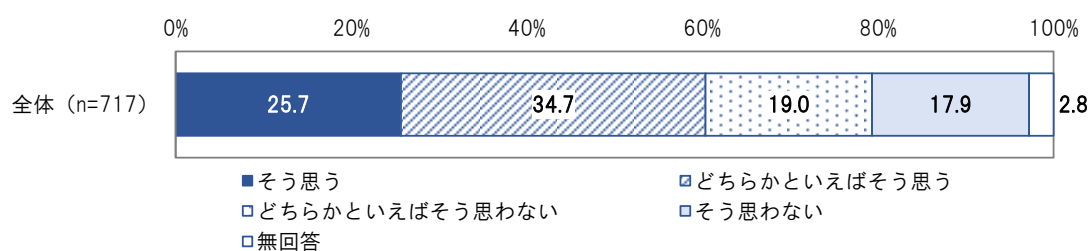
○家庭類型別にみると、『(結婚していると) 思う』の割合は【ひとり親家庭】で最も高くなっているものの、大きな差異はみられない。



## (5) 大人になったときに、こどもを育てていると思うか【問 31 単数回答】

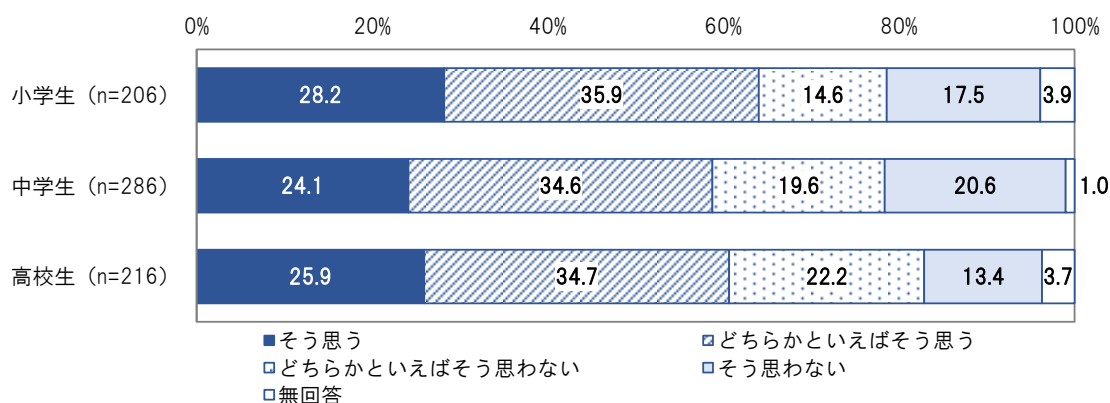
○大人になったときに、こどもを育てていると思うかは、「どちらかといえばそう思う」が 34.7% と最も高く、「そう思う」(25.7%) と合わせると、『(こどもを育てていると) 思う』が約 6 割となっている。

○一方で、「どちらかといえばそう思わない」(19.0%) と「そう思わない」(17.9%) を合わせた、『(こどもを育てていると) 思わない』が 3 割以上となっている。



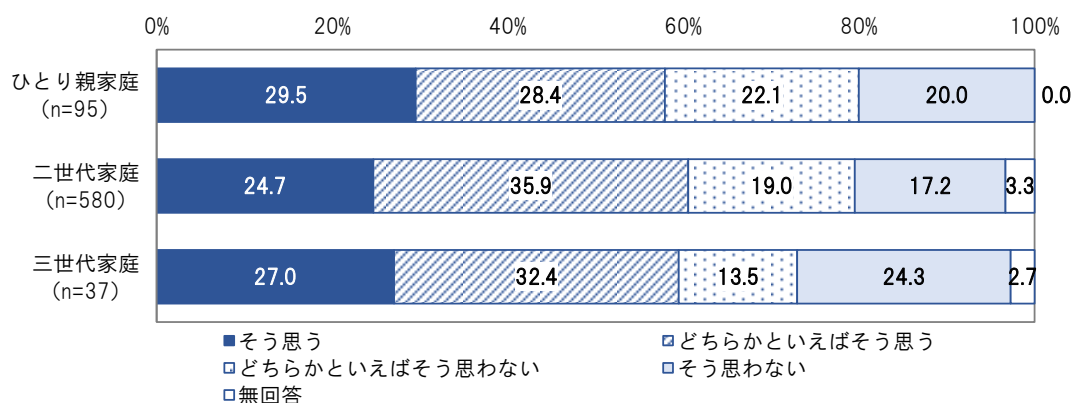
### 《学年別比較》

○学年別にみると、『(こどもを育てていると) 思う』の割合は [小学生] で最も高くなっている。



### 《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、『(こどもを育てていると) 思わない』の割合は [ひとり親家庭] で 4 割を超え、最も高くなっている。

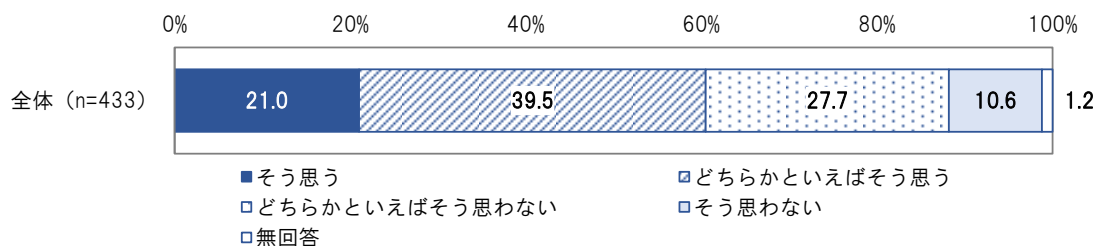


### (5-1) 茨木市で子どもを育てていると思うか【問 32 単数回答】

※(5)で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人のみ

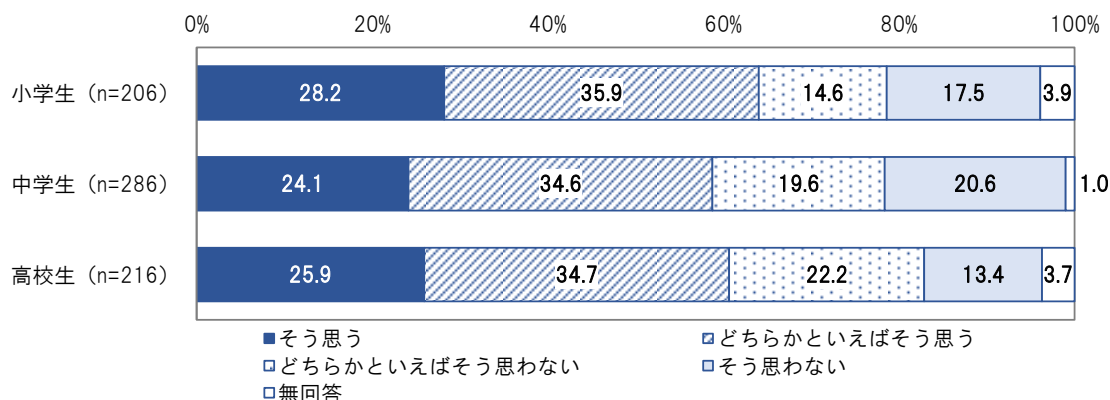
○茨木市で子どもを育てていると思うかは、「どちらかといえばそう思う」が39.5%と最も高く、「そう思う」(21.0%)と合わせると、『(子どもを茨木市で育てていると)思う』が約6割となっている。

○一方で、「どちらかといえばそう思わない」(27.7%)と「そう思わない」(10.6%)を合わせた、『(子どもを茨木市で育てていると)思わない』が4割近くを占めている。



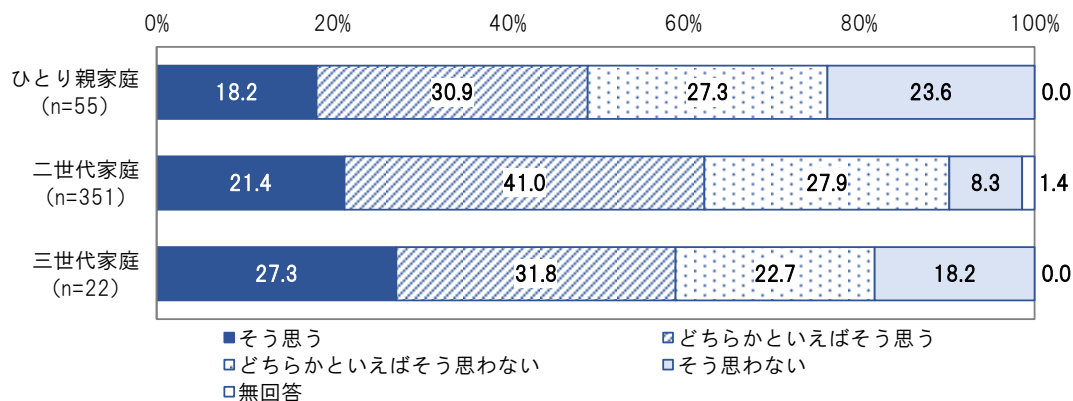
#### 《学年別比較》

○学年別にみると、『(子どもを茨木市で育てていると)思う』の割合は「小学生」で最も高くなっている。



#### 《家庭類型別比較》

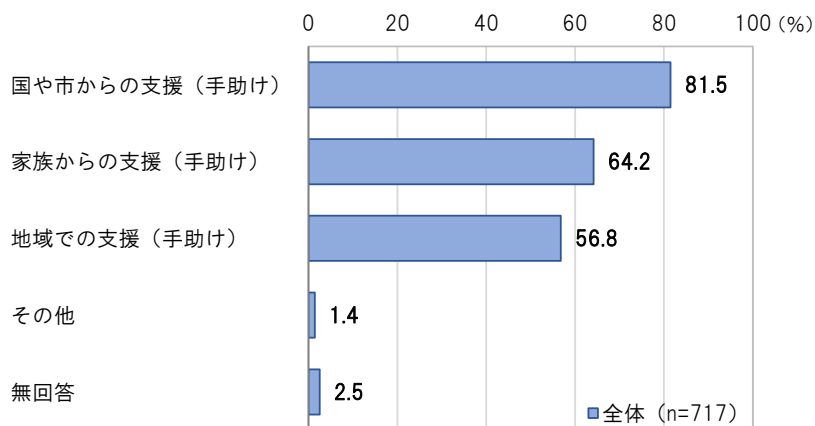
○家庭類型別にみると、『(子どもを茨木市で育てていると)思わない』の割合は「ひとり親家庭」で約半数を占め、最も高くなっている。





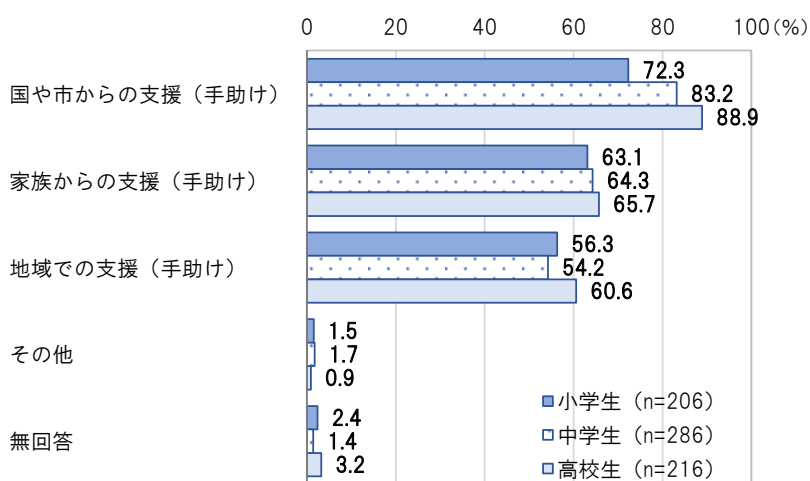
## (6) こどもを持つ（育てる）ためにあると良いと思う支援（手助け）【問 33 複数回答】

○こどもを持つ（育てる）ためにあると良いと思う支援（手助け）は、「国や市からの支援（手助け）」が81.5%と最も高く、次いで「家族からの支援（手助け）」（64.2%）、「地域での支援（手助け）」（56.8%）となっている。



### 《学年別比較》

○学年別にみると、学年が上がるにつれて「国や市からの支援（手助け）」や「家族からの支援（手助け）」が高くなる傾向がみられる。

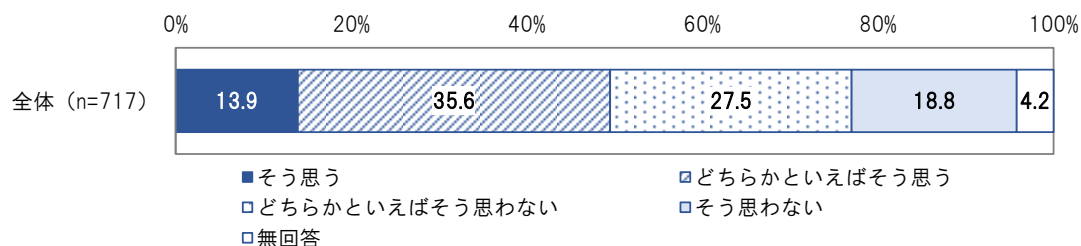


## 8. 茨木市での取り組みについて

### (1) 茨木市の取り組みに希望や想いが反映されていると思うか【問 34 単数回答】

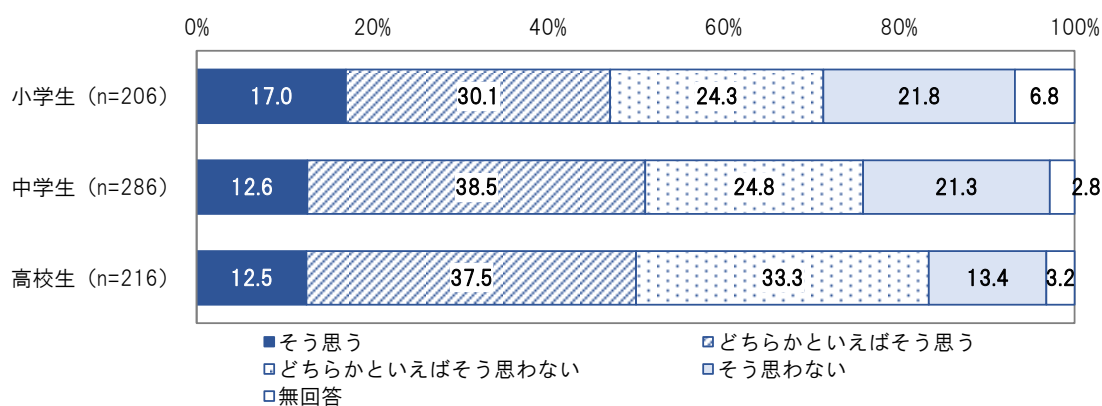
○茨木市の取り組みに希望や想いが反映されていると思うかは、「どちらかといえばそう思う」が35.6%と最も高く、「そう思う」(13.9%)と合わせると、『(反映されていると) 思う』が約半数を占めている。

○一方で、「どちらかといえばそう思わない」(27.5%)と「そう思わない」(18.8%)を合わせた、『(反映されていると) 思わない』が4割以上となっている。



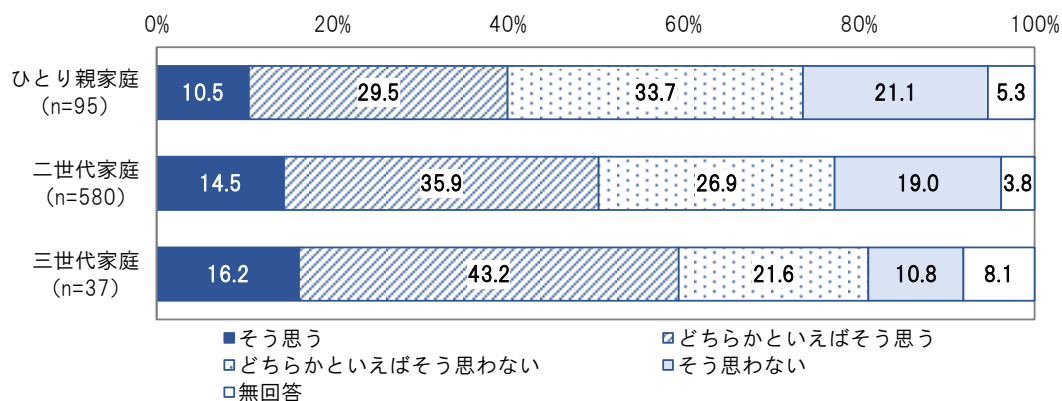
#### 《学年別比較》

○学年別にみると、『(反映されていると) 思う』の割合は〔小学生〕で最も低く、半数未満となっている。



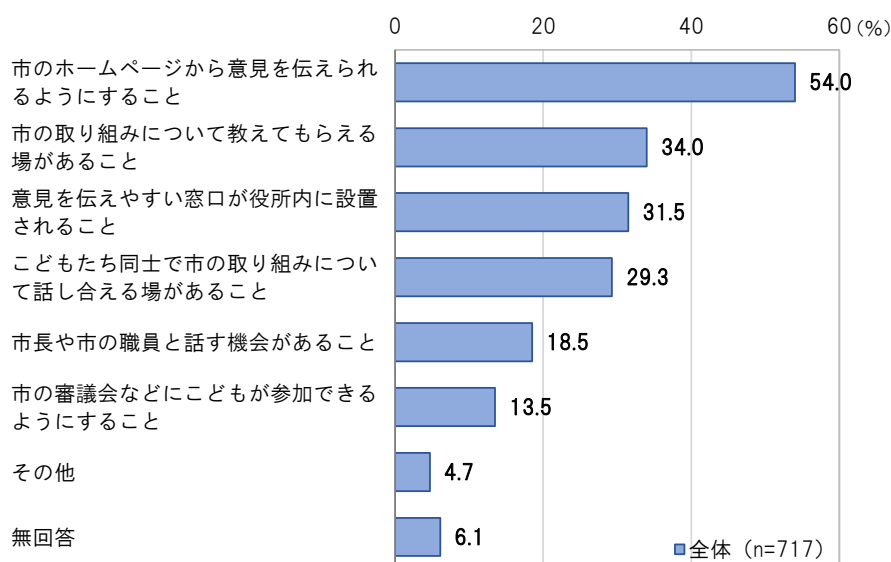
#### 《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、〔ひとり親家庭〕では『(反映されていると) 思わない』が半数を超え、その他の家庭類型に比べて高くなっている。



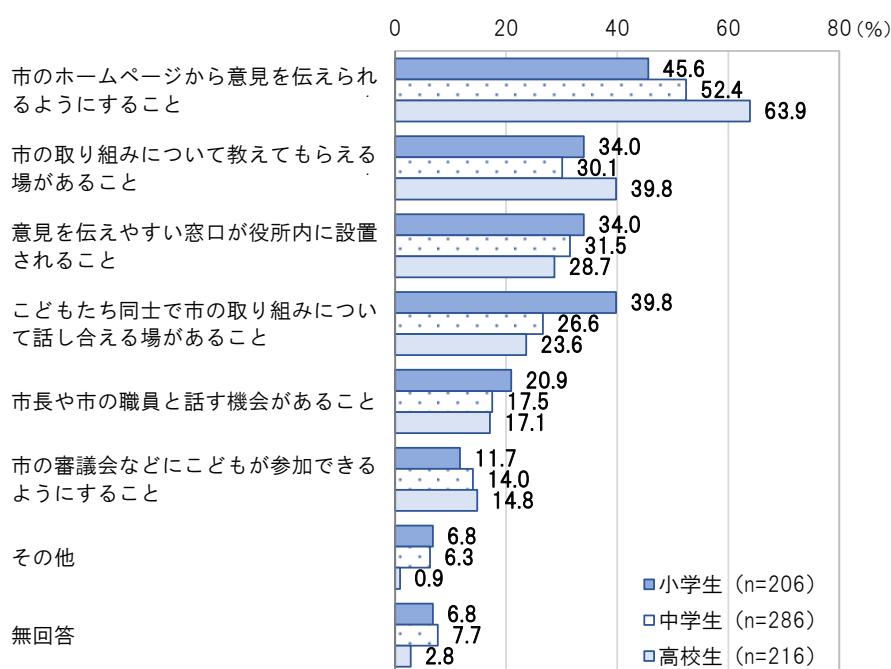
## (2) 市の取り組みに希望や想いを伝えるためにあればよいと思う方法【問 35 複数回答】

○市の取り組みに希望や想いを伝えるためにあればよいと思う方法は、「市のホームページから意見を伝えられるようにすること」が54.0%と最も高く、次いで「市の取り組みについて教えてもらえる場があること」(34.0%)、「意見を伝えやすい窓口が役所内に設置されること」(31.5%)となっている。



### 《学年別比較》

○学年別にみると、学年が上がるにつれて「市のホームページから意見を伝えられるようにすること」や「市の審議会などに子どもが参加できるようにすること」が高くなり、学年が下がるにつれて「意見を伝えやすい窓口が役所内に設置されること」や「子どもたち同士で市の取り組みについて話し合える場があること」、「市長や市の職員と話す機会があること」が高くなる傾向がみられる。



## Ⅲ 調査結果からみえてきた今後の課題

### 1. 多様な相談の場・機会の充実

家庭類型をみると、年代が上がるにつれてひとり親家庭の割合が増加しており、一緒に暮らしている人との会話の頻度も低くなる傾向がみられる。また、困り事の相談では、年代が上がるにつれて「親」や「担任の先生」などの大人への相談が少なく、誰にも相談しない人が多くなっている。

一方で、困り事や悩み事がある時に相談しやすい方法では「誰にも相談したくない」の割合では年代による大きな差異はみられないことから、相談できる場所があればしたいと考えている人が多い結果となっている。相談しやすい方法として、「学校で相談できる」(38.9%)、「学校以外の場所で、直接お互いの顔を見て相談できる」(24.1%)、「インターネットやSNSで相談できる」(17.6%)などが高い割合となっており、また年代別にみると小学生では「学校で相談できる」、中学生以上では「インターネットやSNSで相談できる」の割合が高いことから、年代や相談内容に応じた多様な相談機会の場を設けていくとともに、その相談窓口についての周知が必要である。

### 2. 地域・社会活動等への参加の促進

本市では、小学校高学年から中学生・高校生を利用の対象とした学校以外の公共施設等として、さまざまな施設があるのに対し、施設の認知度や利用状況は低くなっている。利用していない人の理由では「施設について知らなかったから」が最も高く、周知がされていない状況がみられる。

平日・休日ともに、パソコンやスマートフォンなどを使って過ごすことが多くなっている。それ以外の過ごし方では、小学校高学年では住んでるところで過ごすことも多いのに対し、中学生以上では部活動や勉強などをして過ごすことや、友人との交遊が多くなっている。

また、趣味の活動やボランティア、イベントなどの学校以外の活動に参加したいと思うきっかけでは「楽しそうとき」、「自分のやりたいことを発見できそうとき」、「新しい技術や能力を身につけたりすることが期待できそうとき」が高くなっている。公共施設を利用している人の利用する良い点では、「無料で利用できる」「便利である」「楽しい」「勉強ができる」などの回答がみられたことから、各施設やイベント等での参加による効果（メリット）を広報するなど、参加（利用）の増加が見込まれると考える。

さらに、住んでいる地域で役に立ちたいと思う行動では、「赤ちゃん連れの人やお年寄り、障害のある人などへ、ちょっとした手助けをする」、「年下や同年代からの相談にのる」、「年下の子どもと一緒に遊ぶ」などが上位項目となっているものの、年代によって大きな違いがみられたことから、地域活動・行事等の実施にあたってはターゲットの年代層を絞るなど、より参加が見込まれる内容・実施の検討を行っていく必要がある。

地域に貢献したい・役立ちたい、地域活動に参加したいという意識を持つ子どもが少なくないことから、活動に関する情報提供をはじめ、参加・体験しやすい環境づくりが必要ある。

### 3. ヤングケアラーに対する支援の充実

家庭の仕事の実施の状況では、年代が下がるにつれて実施割合が高く、また、家庭類型別にみると、[ひとり親家庭]で高くなっている。

また、週あたりの実施頻度は「ほぼ毎日」と高いものの、「1時間より少ない」が高くなっており、長時間の家庭の仕事をしているこどもは少ない。一方で、[三世代家庭]では「3時間以上」の回答もみられ、高齢者の介護や見守りなどを行っている可能性が考えられる。

家庭の仕事をしていることで自身についてあてはまることでは、「健康に過ごすことができている」や「家の中で気持ちよく過ごすことができている」、「家庭の仕事」にやりがいを感じているなどの肯定的な回答が多い一方で、「家の人以外と話す時間が減った」や「自分のことをする時間がない」「とても疲れることがある」と感じているこどもも一定数みられることから、学生生活や進路等への影響を及ぼしたり身体的・精神的負担の増大につながる前に、相談や必要に応じた支援・サービスの介入など、負担軽減を図る支援を行っていく必要がある。

### 4. ネットリテラシーの向上（適切な利用）に向けた支援

自分専用の所有物について、「携帯電話・スマートフォン」は小学校高学年では半数以上、中学生では8割以上、高校生ではほぼ全員が所持している。インターネットの利用目的では「検索する」や「動画を見る」が最も高くなっているものの、「投稿やメッセージを交換する」が中学生・高校生では8割以上を占めている。

SNSやインターネットは中高生のコミュニケーションツールとして欠かせないものとなっているが、自身の情報管理の徹底とともに、情報モラルや情報セキュリティに関する知識を深め、リスク教育としてネットリテラシーの向上に向けた支援を図ることが必要である。

また、膨大な情報が得られるツールであることから、正しい情報を見極める力を身に付けていくことも必要である。

### 5. こどもの希望や想いが反映される市の取り組みの推進

本市の取り組みに希望や想いが反映されていると思うかは、「どちらかといえばそう思う」と「そう思う」を合わせた『(反映されている)と思う』が約半数を占めているが、家庭類型別にみると、[ひとり親家庭]では『(反映されている)と思わない』が半数を超え、その他の家庭類型に比べて高くなっている。

市の取り組みに希望や想いを伝えるためにあればよいと思う方法では、「市のホームページから意見を伝えられるようにすること」「市の取り組みについて教えてもらえる場があること」「意見を伝えやすい窓口が役所内に設置されること」が上位項目となっており、市の取組に対して、気軽に意見を伝えられる方法が求められているとともに、そもそも、市がどのような取組をしているか知らないこどもが多いこともわかる。

こども自身の希望や想いを十分に得られる場を設けるとともに、市の取り組みについて知ってもらい、より関心を持ってもらえるような方法を検討していく必要がある。